

【表紙】

| | |
|------------|--------------------------------|
| 【提出書類】 | 有価証券報告書 |
| 【提出先】 | 関東財務局長殿 |
| 【提出日】 | 平成30年5月24日提出 |
| 【計算期間】 | 第18期(自 平成29年2月25日至 平成30年2月26日) |
| 【ファンド名】 | MHAM新興成長株オープン |
| 【発行者名】 | アセットマネジメントOne株式会社 |
| 【代表者の役職氏名】 | 取締役社長 菅野 暁 |
| 【本店の所在の場所】 | 東京都千代田区丸の内一丁目8番2号 |
| 【事務連絡者氏名】 | 三木谷 正直 |
| 【連絡場所】 | 東京都千代田区丸の内一丁目8番2号 |
| 【電話番号】 | 03-6774-5100 |
| 【縦覧に供する場所】 | 該当事項はありません。 |

第一部【ファンド情報】

第1【ファンドの状況】

1【ファンドの性格】

(1)【ファンドの目的及び基本的性格】

主として国内の上場企業の中から高成長が期待できる新興企業の株式を中心に投資を行い、信託財産の中・長期的な成長を目指して積極的な運用を行います。

「上場企業」には、従前の「店頭登録企業」を含みます。(以下同じ。)

<ファンドの特色>

- ・わが国の上場株式のうち、高成長が期待できる「新興企業」（取得時において創業25年以下または上場後10年以下の企業を目安とします。）の株式を中心に投資を行います。
- ・当ファンドの主要投資対象はわが国の株式ですが、NASDAQなど主要先進国の新興企業向け市場の株式を中心に、外貨建資産への投資を行うことがあります。
- ・東証株価指数（TOPIX）をベンチマークとして、中・長期的にベンチマークを上回る運用成果を目指します。

1兆円を上限に信託金を追加することができます。なお、信託金の上限については、受託会社と合意のうえ変更することができます。

一般社団法人投資信託協会が定める分類方法において、以下のように分類・区分されます。

<商品分類>

・商品分類表

| 単位型・追加型 | 投資対象地域 | 投資対象資産 (収益の源泉となる資産) |
|----------------|----------------|---|
| 単位型 追加型 | 国内 海外 内外 | 株式 債券 不動産投信 その他資産 () 資産複合 |

(注) 当ファンドが該当する商品分類を網掛け表示しています。

・商品分類定義

| | |
|-----|--|
| 追加型 | 一度設定されたファンドであってもその後追加設定が行われ従来の信託財産とともに運用されるファンドをいう。 |
| 国内 | 目論見書又は投資信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に国内の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。 |
| 株式 | 目論見書又は投資信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に株式を源泉とする旨の記載があるものをいう。 |

< 属性区分 >

・属性区分表

| 投資対象資産 (実際の組入資産) | 決算頻度 | 投資対象地域 | 為替ヘッジ ² |
|---|--------------|--------------------|----------------------|
| 株式 一般 大型株 中小型株 | 年1回 | 日本 ¹ | |
| 債券 一般 公債 社債 その他債券 クレジット属性 () | 年2回 | グローバル ¹ | |
| 不動産投信 | 年4回 | 北米 | |
| その他資産 () | 年6回 (隔月) | 欧州 | あり |
| 資産複合 () | 年12回 (毎月) | アジア | (適時ヘッジ) ³ |
| 資産配分固定型 資産配分変更型 | 日々 | オセアニア | なし |
| | その他 () | 中南米 | |
| | | アフリカ | |
| | | 中近東 (中東) | |
| | | エマージング | |

1 当ファンドは、組入資産による主たる投資収益が日本の資産を源泉とし、一部世界（海外）の資産にも投資可能です。

2 「為替ヘッジ」は、対円での為替変動リスクに対するヘッジの有無を記載しております。

3 当ファンドは、外貨建資産への投資にあたって、為替ヘッジを機動的に行います。

(注) 当ファンドが該当する属性区分を網掛け表示しています。

・属性区分定義

| | |
|---------|--|
| 株式・一般 | 目論見書又は投資信託約款において、主として株式に投資する旨の記載があるもので、大型株、中小型株属性にあてはまらない全てのものをいう。 |
| 年1回 | 目論見書又は投資信託約款において、年1回決算する旨の記載があるものをいう。 |
| 日本 | 目論見書又は投資信託約款において、組入資産による投資収益が日本の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。 |
| グローバル | 目論見書又は投資信託約款において、組入資産による投資収益が世界の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。 |
| 為替ヘッジあり | 目論見書又は投資信託約款において、為替のフルヘッジ又は一部の資産に為替のヘッジを行う旨の記載があるものをいう。 |

(注1) 商品分類および属性区分は、委託会社が目論見書または約款の記載内容等に基づいて分類しています。

(注2) 当ファンドが該当しない商品分類および属性区分の定義につきましては、一般社団法人投資信託協会のホームページ (<http://www.toushin.or.jp/>) でご覧いただけます。

(2) 【ファンドの沿革】

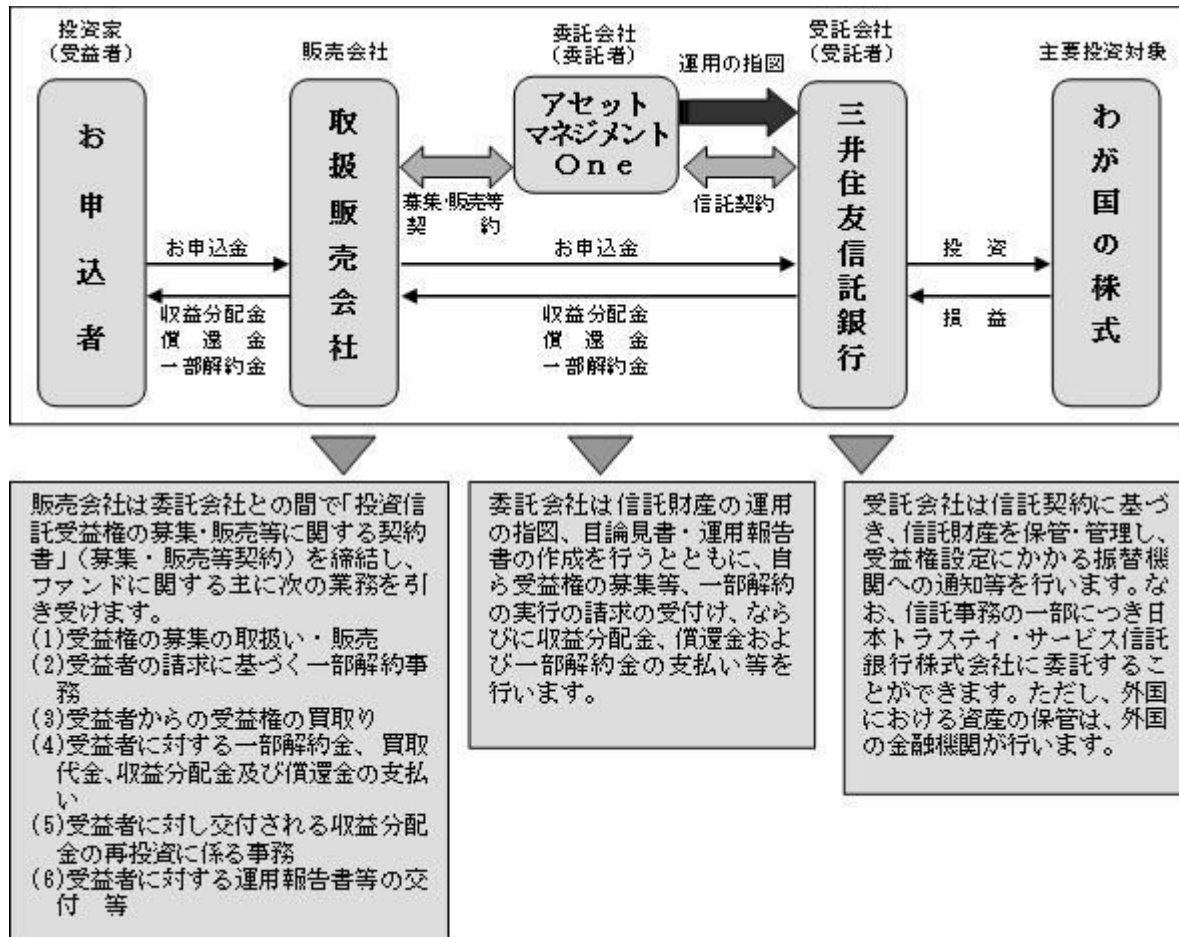
平成12年2月25日 信託契約締結、ファンドの設定・運用開始

平成19年1月4日 投資信託振替制度へ移行

- 平成19年7月1日 ファンドの名称を「DKA新興成長株オープン」から「MHAM新興成長株オープン」に変更
- 平成28年10月1日 ファンドの委託会社としての業務をみずほ投信投資顧問株式会社からアセットマネジメントOne株式会社に承継

（3）【ファンドの仕組み】

当ファンドの運営の仕組み



委託会社の概況

1. 資本金の額 20億円（平成30年2月末日現在）
2. 会社の沿革
 - 昭和60年7月1日 会社設立
 - 平成10年3月31日 証券投資信託法に基づく証券投資信託の委託会社の免許取得
 - 平成10年12月1日 証券投資信託法の改正に伴う証券投資信託委託業のみなし認可
 - 平成11年10月1日 第一ライフ投信投資顧問株式会社を存続会社として興銀エヌダブリュ・アセットマネジメント株式会社および日本興業投信株式会社と合併し、商号を興銀第一ライフ・アセットマネジメント株式会社とする
 - 平成20年1月1日 興銀第一ライフ・アセットマネジメント株式会社からD I A Mアセットマネジメント株式会社に商号変更

平成28年10月1日 D I A Mアセットマネジメント株式会社、みずほ投信投資顧問株式会社、新光投信株式会社、みずほ信託銀行株式会社(資産運用部門)が統合し、商号をアセットマネジメントOne株式会社に変更

3. 大株主の状況(平成30年2月末日現在)

| 名称 | 住所 | 所有株式数 | 比率 |
|--------------------|--------------------|----------------------|--------------------|
| 株式会社みずほフィナンシャルグループ | 東京都千代田区大手町一丁目5番5号 | 28,000株 ¹ | 70.0% ² |
| 第一生命ホールディングス株式会社 | 東京都千代田区有楽町一丁目13番1号 | 12,000株 | 30.0% ² |

1: A種種類株式(15,510株)を含みます。

2: 普通株式のみの場合の所有比率は、株式会社みずほフィナンシャルグループ51.0%、第一生命ホールディングス株式会社49.0%

2【投資方針】

(1)【投資方針】

基本方針

この投資信託は、信託財産の中・長期的な成長を目指して積極的な運用を行います。

運用方法

1. 主要投資対象

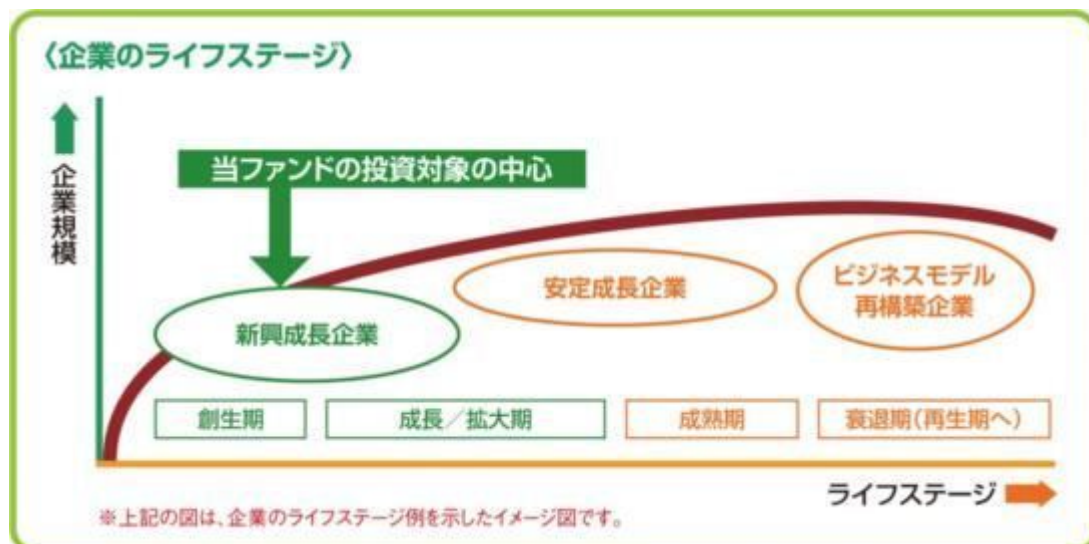
わが国の株式を主要投資対象とします。

2. 投資態度

a. 主として、わが国の金融商品取引所(金融商品取引法第2条第16項に規定する金融商品取引所をいいます。)に上場されている株式および店頭登録されている株式のうち、高成長が期待できる新興企業の株式を中心に投資し、信託財産の中・長期的な成長を目指します。

新興企業の基準は、取得時において創業25年以下、または上場・登録後10年以下の企業を目安とします。

* 投資の中心は新興企業の株式としますが、市況動向や流動性リスク等を勘案し、上記年次基準を満たさない企業の株式にも投資を行う場合があります。



b. 新規公開時(上場予定・登録予定企業)における買付けを積極的に行います。

未上場・未登録株式への投資を行うことがあります。

- * 新規公開企業への投資にあたっては、当該企業の投資価値、投資環境などをより慎重に調査・分析し、状況によっては投資を見送る場合があります。

c．銘柄選定の基準は、企業訪問や産業調査など徹底したファンダメンタルズ分析に基づくボトムアップ・アプローチにより、個別企業の投資価値判断を行い、中・長期的に投資魅力が高いと判断される銘柄を厳選し投資します。

ボトムアップ・アプローチとは、個別企業の調査・分析等に基づく個別銘柄の選別を基に、組入銘柄を決定する手法をいいます。

d．NASDAQなど主要先進国の新興企業向け市場の株式を中心に、純資産総額の30%の範囲内で外貨建資産への投資を行うことがあります。なお、外貨建資産への投資を行う場合の為替ヘッジは、機動的に対応し、為替変動リスクの低減に努めます。

為替ヘッジは、通常は為替予約取引を利用して行います。為替予約取引の詳細については、後記「(5) 投資制限 a．約款で定める投資制限 外国為替予約」をご参照ください。

e．株式の組入比率は、原則として高位を維持します。

f．非株式(株式以外の資産)への投資割合は、原則として信託財産総額の50%以下とします。

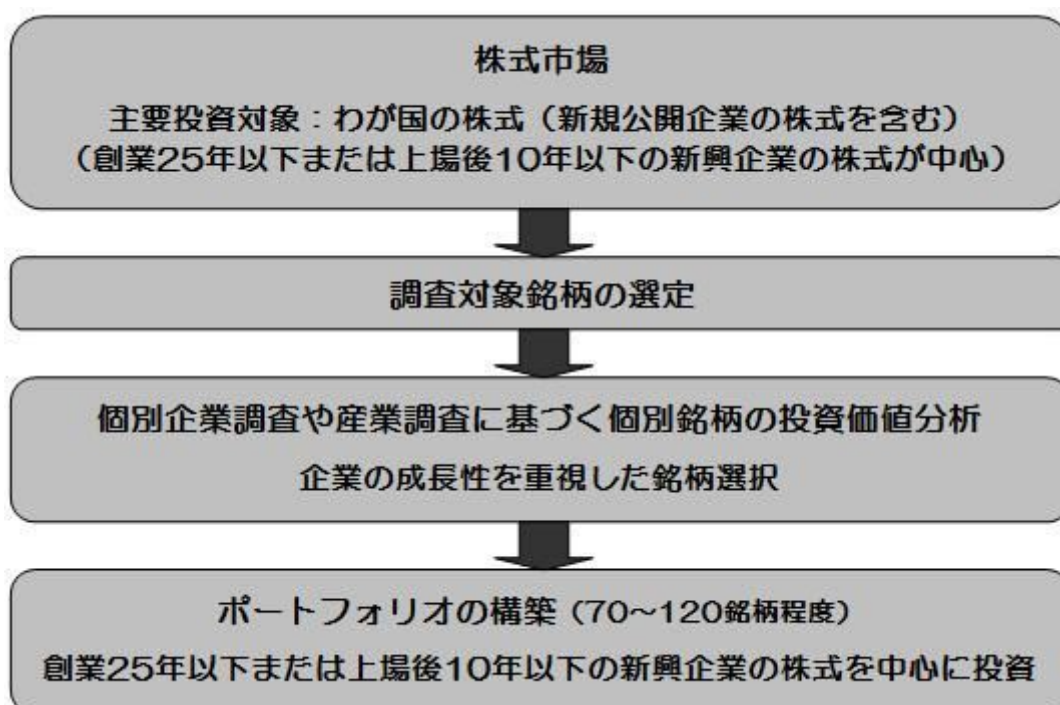
g．東証株価指数(TOPIX)¹をベンチマーク²として、中・長期的に当該ベンチマークを上回る運用成果を目指します。

1 東証株価指数(TOPIX=Tokyo Stock Price Index)とは、東京証券取引所第一部全銘柄を対象とした株価指数で、基準時(1968年1月4日終値)の時価総額を100として、その後の時価総額を指数化したものです。東証株価指数(TOPIX)は、株式会社東京証券取引所(株東京証券取引所)の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利・ノウハウおよびTOPIXの商標に関するすべての権利は、(株東京証券取引所)が有しています。なお、本商品は、(株東京証券取引所)により提供、保証または販売されるものではなく、(株東京証券取引所)は、ファンドの発行または売買に起因するいかなる損害に対しても、責任を有しません。

2 ベンチマークとは、ファンドの運用にあたって、運用成果の目標の目安とする指数のことをいいます。

h．市況動向やファンドの資金事情等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

ファンドの投資プロセス



1. 投資の方向性やアイデアについての検討などを基に、新規公開企業の株式を含むわが国の株式の中から、創業25年以下または上場後10年以下の新興企業の株式を中心に、調査対象銘柄を選定します。(海外の株式についても、その一部を調査対象とすることがあります。)
2. 調査対象銘柄に対して、詳細な個別企業調査や産業動向調査を実施します。これによって得られた情報を基に、個別企業の財務内容分析、企業の成長性、事業環境、競争力などの定性評価、業績予想、それぞれの銘柄の株価水準の評価などを行い、投資価値を分析します。
3. 各銘柄の信用リスク・流動性リスクについても考慮した上で¹、上記年次基準を満たす新興企業の株式を中心に70～120銘柄程度²を選択し、ファンドに組み入れるひとつひとつの銘柄の選択を重視してポートフォリオを構築します。
 - 1 各銘柄の時価総額などを参考に流動性リスクをチェックします。信用リスクのチェックにあたっては、委託会社独自のクレジット・リスク・モデル(財務データ等に基づく倒産リスク分析を主体とし、企業規模要因などを加味した上で、信用リスクを測定するモデル)などを活用します。
 - 2 市況動向やファンドの資金事情等によっては、組入銘柄数の目安を変更する場合があります。
4. 投資の中心は上記年次基準を満たす新興企業の株式としますが、市況動向や流動性リスク等を勘案し、新興企業以外の企業の株式にも投資を行う場合があります。また、当ファンドでは、新規公開時における上場予定企業の株式の買付けを積極的に行いますが、新規公開企業への投資にあたっては、当該企業の投資価値、投資環境などをより慎重に調査・分析し、状況によっては投資を見送る場合があります。なお、外貨建資産に投資する場合には、機動的な為替ヘッジにより、為替変動リスクの低減に努めます。

上記のプロセスは、今後変更される場合があります。

(2)【投資対象】

有価証券の指図範囲

委託会社は、信託金を、主として有価証券(金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を除きます。)に投資することを指図します。なお、当該有価証券には、以下のものを含まず。

1. 株券または新株引受権証券
2. 国債証券
3. 地方債証券
4. 特別の法律により法人が発行する債券
5. 社債券(新株引受権証券と社債券とが一体となった新株引受権付社債券(以下「分離型新株引受権付社債券」といいます。))の新株引受権証券を除きます。)
6. 特定目的会社にかかる特定社債券(金融商品取引法第2条第1項第4号で定めるものをいいます。)
7. 特別の法律により設立された法人の発行する出資証券(金融商品取引法第2条第1項第6号で定めるものをいいます。)
8. 協同組織金融機関にかかる優先出資証券(金融商品取引法第2条第1項第7号で定めるものをいいます。)または優先出資引受権を表示する証券
9. 特定目的会社にかかる優先出資証券(金融商品取引法第2条第1項第8号で定めるものをいいます。)
10. コマーシャル・ペーパー
11. 新株引受権証券(分離型新株引受権付社債券の新株引受権証券を含まず。以下同じ。)および新株予約権証券

12. 外国または外国の者の発行する証券または証書で、1.～11.の証券または証書の性格を有するもの
13. 証券投資信託または外国証券投資信託の受益証券(金融商品取引法第2条第1項第10号で定めるものをいいます。)
14. 投資証券または外国投資証券(金融商品取引法第2条第1項第11号で定めるものをいいます。)
15. 外国貸付債権信託受益証券(金融商品取引法第2条第1項第18号で定めるものをいいます。)
16. オプションを表示する証券または証書(金融商品取引法第2条第1項第19号で定めるものをいい、有価証券に係るものに限ります。)
17. 預託証書(金融商品取引法第2条第1項第20号で定めるものをいいます。)
18. 外国法人が発行する譲渡性預金証書
19. 指定金銭信託の受益証券(金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に限ります。)
20. 貸付債権信託受益権であって金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に表示されるべきもの
21. 外国の者に対する権利で20.の有価証券の性質を有するもの

なお、1.の証券または証書、12.および17.の証券または証書のうち1.の証券または証書の性質を有するものを以下「株式」といい、2.から6.までの証券ならびに12.および17.の証券または証書のうち2.から6.までの証券の性質を有するものを以下「公社債」といい、13.および14.の証券(外国投資証券で投資法人債券に類する証券を除きます。)を以下「投資信託証券」といいます。

金融商品の指図範囲

委託会社は、信託金を、 に掲げる有価証券のほか、次に掲げる金融商品(金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を含みます。)により運用することを指図することができます。また、 の規定にかかわらず、この信託の設定、解約、償還、投資環境の変動等への対応等、委託会社が運用上必要と認めるときには、委託会社は、信託金を以下に掲げる金融商品により運用することの指図ができます。

1. 預金
2. 指定金銭信託(金融商品取引法第2条第1項第14号に規定する受益証券発行信託を除きます。)
3. コール・ローン
4. 手形割引市場において売買される手形
5. 貸付債権信託受益権であって金融商品取引法第2条第2項第1号で定めるもの
6. 外国の者に対する権利で5.の権利の性質を有するもの

その他の投資対象

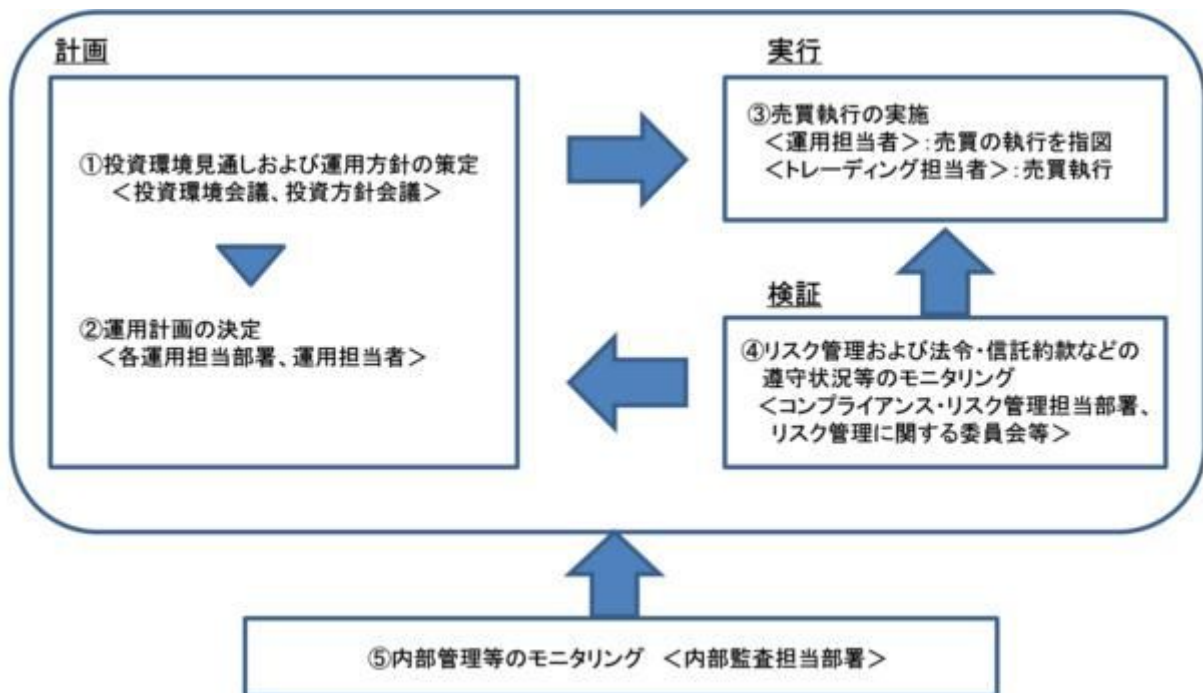
有価証券先物取引等

委託会社は、有価証券等の価額変動リスクおよび為替変動リスクを回避するため、国内において行われる有価証券先物取引(金融商品取引法第28条第8項第3号イに掲げるものをいいます。以下同じ。)、有価証券指数等先物取引(金融商品取引法第28条第8項第3号ロに掲げるものをいいます。以下同じ。)、有価証券オプション取引(金融商品取引法第28条第8項第3号ハに掲げるものをいいます。以下同じ。)、通貨にかかる先物取引、通貨にかかる選択権取引、金利にかかる先物取引および金利にかかるオプション取引ならびに外国の市場における有価証券にかかる有価証券先物取引、有価証券指数等先物取引、有価証券オプション取引、通貨にかかる先物取引、通貨にかかる先物オプション取引、金利にかかる先物取引および金利にかかるオプション取引と類似の取引(以下「有価証券先物取引

等」といいます。)を行うことができます。

(3) 【運用体制】

a. ファンドの運用体制



投資環境見通しおよび運用方針の策定

経済環境見通し、資産別市場見通し、資産配分方針および資産別運用方針は月次で開催する「投資環境会議」および「投資方針会議」にて協議、策定致します。これらの会議は運用本部長・副本部長、運用グループ長等で構成されます。

運用計画の決定

各ファンドの運用は「投資環境会議」および「投資方針会議」における協議の内容を踏まえて、ファンド毎に個別に任命された運用担当者が行います。運用担当者は月次で運用計画書を作成し、運用本部長の承認を受けます。運用担当者は承認を受けた運用計画に基づき、運用を行います。

売買執行の実施

運用担当者は、売買計画に基づいて売買の執行を指図します。トレーディング担当者は、最良執行をめざして売買の執行を行います。

モニタリング

運用担当部署から独立したコンプライアンス・リスク管理担当部署（60～70人程度）は、運用に関するパフォーマンス測定、リスク管理および法令・信託約款などの遵守状況等のモニタリングを実施し、必要に応じて対応を指示します。

定期的に関催されるリスク管理に関する委員会等において運用リスク管理状況、運用実績、法令・信託約款などの遵守状況等について検証・報告を行います。

内部管理等のモニタリング

内部監査担当部署（10～20人程度）が運用、管理等に関する業務執行の適正性・妥当性・効率性等の観点からモニタリングを実施します。

b. ファンドの関係法人に関する管理

ファンドの関係法人である受託会社に対して、その業務に関する委託会社の管理担当部署は、内部統制に関する外部監査人による報告書等の定期的な提出を求め、必要に応じて具体的な事項に関するヒアリングを行う等の方法により、適切な業務執行体制にあることを確認します。

c. 運用体制に関する社内規則

運用体制に関する社内規則として運用管理規程および職務責任権限規程等を設けており、運用担当者の任務と権限の範囲を明示するほか、各投資対象の取り扱いに関して基準を設け、ファンドの商品性に則った適切な運用の実現を図ります。

また、売買執行、投資信託財産管理および法令遵守チェック等に関する各々の規程・内規を定めています。

運用体制は平成30年2月末日現在のものであり、今後変更となる場合があります。

(4) 【分配方針】

収益分配方針

年1回の毎決算時(原則として2月24日。ただし、休業日の場合は翌日以降の最初の営業日)に、原則として次の通り収益分配を行う方針です。

1. 分配対象額の範囲は、繰越し分を含めた利子・配当収益と売買益(評価益を含みます。)等の全額とします。
2. 分配金額は、委託会社が基準価額の水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象収益が少額の場合には分配を行わないことがあります。
3. 収益分配に充てなかった利益については、運用の基本方針に基づき再投資します。
将来の収益分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

収益分配金の支払い

1. 収益分配金は、原則として毎計算期間終了日から起算して5営業日までに販売会社において支払いが開始されます。
ただし、委託会社の自らの募集にかかる受益権に帰属する収益分配金の支払いは、委託会社において行うものとします。
2. 収益分配金の再投資に関する契約に基づいて収益分配金を再投資することにより増加した受益権は、振替口座簿に記載または記録されます。ただし、委託会社は、委託会社の自らの募集に応じた収益分配金の再投資に関する契約にかかる受益権に帰属する収益分配金については、この信託の受益権の取得申込金として、各受益者ごとに当該収益分配金の再投資にかかる受益権の取得申込みに応じたものとし、再投資により増加した受益権は、振替口座簿に記載または記録されます。

収益分配金は、決算日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者(当該収益分配金にかかる決算日以前において一部解約が行われた受益権にかかる受益者を除きます。また、当該収益分配金にかかる決算日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者として)に対し、お支払いします。

(5) 【投資制限】

a. 約款で定める投資制限

株式、新株引受権証券および新株予約権証券(約款 運用の基本方針 運用方法(3)投資制限、約款第20条、約款第22条および約款第23条)

1. 株式(新株引受権証券および新株予約権証券を含みます。)への投資割合には、制限を設けません。
2. 委託会社は、信託財産に属する同一銘柄の株式の時価総額が、信託財産の純資産総額の100分の10を超えることとなる投資の指図をしません。
3. 委託会社は、信託財産に属する新株引受権証券および新株予約権証券の時価総額が、取得時において信託財産の純資産総額の100分の20を超えることとなる投資の指図をしません。
4. 委託会社は、信託財産に属する同一銘柄の新株引受権証券および新株予約権証券の時価総額が、信託財産の純資産総額の100分の10を超えることとなる投資の指図をしません。
5. 委託会社が投資することを指図する株式、新株引受権証券および新株予約権証券は、証券取引所(「証券取引所」とは、金融商品取引法第2条第16項に規定する金融商品取引所および金融商品取引法第2条第8項第3号口に規定する外国金融商品市場(以下「取引所」といいます。))のうち、有価証券の売買または金融商品取引法第28条第8項第3号もしくは同項第5号の取引を行う市場および当該市場を開設するものをいいます。以下同じ。)に上場されている株式の発行会社の発行するもの、証券取引所に準ずる市場において取引されている株式の発行会社の発行するものとし、なお、株主割当または社債権者割当により取得する株式、新株引受権証券および新株予約権証券についてはこの限りではありません。ただし、以下の要件に合致する株式、新株引受権証券および新株予約権証券については、委託会社が投資することを指図することができるものとします。

「以下の要件に合致する株式、新株引受権証券および新株予約権証券」とは、次に掲げる発行会社の発行する株式、新株引受権証券および新株予約権証券および外国におけるこれに準ずる発行会社の発行する株式、新株引受権証券および新株予約権証券をいうものとします。

- a. 金融商品取引法第24条の規定に基づき有価証券報告書(総合意見が適正である旨の監査報告書が添付されているもの)に限り、)を継続的に提出している発行会社または金融商品取引法第5条に規定する有価証券届出書(総合意見が適正である旨の監査報告書が添付されているもの)に限り、)を提出している発行会社。
- b. 公認会計士または監査法人により、会社法に基づく監査(会社法施行の際に存在する会社について、旧株式会社の監査等に関する商法の特例に関する法律に基づいて行われた監査を含みます。)が行われ、かつ、その総合意見が適正または適法である旨の監査報告書が添付されている財務諸表等を委託会社において入手できる発行会社。
- c. 公認会計士または監査法人により、金融商品取引法または会社法に準ずる監査が行われ、かつ、その総合意見が適正または適法である旨の監査報告書が添付されている財務諸表等を委託会社において入手できる発行会社で、今後も継続的に開示が見込める会社。

非株式[株式以外の資産](約款 運用の基本方針 運用方法(2)投資態度)

非株式(株式以外の資産)への投資割合は、原則として信託財産総額の100分の50を超えないものとします。

投資信託証券(約款第20条)

委託会社は、信託財産に属する投資信託証券の時価総額が、信託財産の総資産総額の100分の5を超えることとなる投資の指図をしません。

転換社債等(約款第24条)

委託会社は、信託財産に属する同一銘柄の転換社債、ならびに同一銘柄の新株予約権付社債のうち会社法第236条第1項第3号の財産が当該新株予約権付社債についての社債であって当該社債と当該新株予約権がそれぞれ単独で存在し得ないことをあらかじめ明確にしているもの(以下、会社法施行前の旧商法第341条ノ3第1項第7号および第8号の定めがある新株予約権付社債を含め「転換社債型新株予約権付社債」といいます。)の時価総額が、信託財産の純資産総額の100分の10を超えることとなる投資の指図をしません。

外貨建資産(約款第25条および約款第28条)

委託会社は、信託財産に属する外貨建資産の時価総額が、信託財産の総資産総額の100分の30を超えることとなる投資の指図をしません。なお、外貨建有価証券への投資については、わが国の国際収支上の理由等により特に必要と認められる場合には、制約されることがあります。

外国為替予約(約款第29条)

委託会社は、信託財産に属する外貨建資産について、当該外貨建資産の為替ヘッジのため、外国為替の売買の予約を指図することができます。

信用取引(約款第26条)

1. 委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、信用取引により株券を売付けることの指図をすることができます。なお、当該売付けの決済については、株券の引渡しまたは買戻しにより行うことの指図をすることができるものとします。
2. 信用取引の指図は、次に掲げる有価証券の発行会社の発行する株券について行うことができるものとし、かつ次に掲げる株券数の合計数を超えないものとします。
 - a. 信託財産に属する株券および新株引受権証券の権利行使により取得する株券
 - b. 株式分割により取得する株券
 - c. 有償増資により取得する株券
 - d. 売出しにより取得する株券
 - e. 信託財産に属する転換社債の転換請求および新株予約権(転換社債型新株予約権付社債の新株予約権に限ります。)の行使により取得可能な株券
 - f. 信託財産に属する新株引受権証券および新株引受権付社債券の新株引受権の行使、または信託財産に属する新株予約権証券および新株予約権付社債券の新株予約権(前記e.に定めるものを除きます。)の行使により取得可能な株券

信用リスク集中回避のための投資制限(約款第26条の1の2)

一般社団法人投資信託協会規則に定める一の者に対する株式等エクスポージャー、債券等エクスポージャーおよびデリバティブ等エクスポージャーの信託財産の純資産総額に対する比率は、原則としてそれぞれ100分の10、合計で100分の20を超えないものとし、当該比率を超えることとなった場合には、委託会社は、一般社団法人投資信託協会規則に従い当該比率以内となるよう調整を行うこととします。

デリバティブ取引等(約款第26条の2)

委託会社は、デリバティブ取引等(デリバティブ取引とは、金融商品取引法第2条第20項に規定するものをいい、新株予約権証券、新投資口予約権証券またはオプションを表示する証券もしくは証書に係る取引、選択権付債券売買および商品投資等取引(投資信託及び投資法人に関する法律施行令第3条第

10号に規定するものをいいます。)を含みます。以下「デリバティブ取引等」といいます(ただし、この信託において取引可能なものに限ります。以下同じ。)。)について、一般社団法人投資信託協会の規則に定める合理的な方法により算出した額が信託財産の純資産総額を超えることとなる投資の指図をしません。

有価証券先物取引等(約款第27条)

1. 委託会社は、信託財産が運用対象とする有価証券の価格変動リスクを回避するため、わが国の証券取引所における有価証券先物取引、有価証券指数等先物取引および有価証券オプション取引ならびに外国の取引所におけるこれらの取引と類似の取引を次の範囲で行うことの指図をすることができます。なお、選択権取引は、オプション取引に含めて取扱うものとします。(以下同じ。)
 - a. 先物取引の売建ておよびコール・オプションの売付けの指図は、建玉の合計額が、ヘッジの対象とする有価証券(以下「ヘッジ対象有価証券」といいます。)の時価総額の範囲内とします。
 - b. 先物取引の買建ておよびプット・オプションの売付けの指図は、建玉の合計額が、ヘッジ対象有価証券の組入可能額(組入ヘッジ対象有価証券を差引いた額)に信託財産が限月までに受取る組入公社債、組入外国債権信託受益証券および組入貸付債権信託受益権の利払金および償還金を加えた額を限度とし、かつ信託財産が限月までに受取る組入有価証券にかかる利払金および償還金等ならびに(2)投資対象 1.から4.に掲げる金融商品で運用している額の範囲内とします。
 - c. コール・オプションおよびプット・オプションの買付けの指図は、1.2.3.で規定する全オプション取引にかかる支払いプレミアム額の合計額が取引時点の信託財産の純資産総額の5%を上回らない範囲内とします。
2. 委託会社は、信託財産に属する資産の為替変動リスクを回避するため、わが国の取引所における通貨にかかる先物取引ならびに外国の取引所における通貨にかかる先物取引および通貨にかかるオプション取引を次の範囲で行うことの指図をすることができます。
 - a. 先物取引の売建ておよびコール・オプションの売付けの指図は、建玉の合計額が、為替の売予約と合わせてヘッジの対象とする外貨建資産(外貨建有価証券、預金その他の資産をいいます。以下同じ)の時価総額の範囲内とします。
 - b. 先物取引の買建ておよびプット・オプションの売付けの指図は建玉の合計額が、為替の買予約と合わせて、外貨建有価証券の買付代金等実需の範囲内とします。
 - c. コール・オプションおよびプット・オプションの買付けの指図は支払プレミアム額の合計額が取引時点の保有外貨建資産の時価総額の5%を上回らない範囲内とし、かつ1.2.3.で規定する全オプション取引にかかる支払いプレミアム額の合計額が取引時点の信託財産の純資産総額の5%を上回らない範囲内とします。
3. 委託会社は、信託財産に属する資産の価格変動リスクを回避するため、わが国の取引所における金利にかかる先物取引および金利にかかるオプション取引ならびに外国の取引所におけるこれらの取引と類似の取引を次の範囲で行うことの指図をすることができます。
 - a. 先物取引の売建ておよびコール・オプションの売付けの指図は、建玉の合計額がヘッジの対象とする金利商品(信託財産が1年以内に受取る組入有価証券の利払金および償還金等ならびに(2)投資対象 1.から4.に掲げる金融商品で運用されているものをいい、以下「ヘッジ対象金利商品」といいます。)の時価総額の範囲内とします。
 - b. 先物取引の買建ておよびプット・オプションの売付けの指図は、建玉の合計額が、信託財産が限月までに受取る組入有価証券にかかる利払金および償還金等ならびに(2)投資対象 1.から4.に掲げる金融商品で運用している額(以下「金融商品運用額等」といいます。)の範囲内とします。ただ

し、ヘッジ対象金利商品が外貨建て、信託財産の外貨建資産組入可能額(約款上の組入可能額から保有外貨建資産の時価総額を差引いた額。以下同じ。)に信託財産が限月までに受取る外貨建組入公社債および組入外国貸付債権信託受益証券ならびに外貨建組入貸付債権信託受益権の利払金および償還金を加えた額が当該金融商品運用額等の額より少ない場合には外貨建資産組入可能額に信託財産が限月までに受取る外貨建組入有価証券にかかる利払金および償還金等を加えた額を限度とします。

- c. コール・オプションおよびプット・オプションの買付けの指図は、支払いプレミアム額の合計額が取引時点のヘッジ対象金利商品の時価総額の5%を上回らない範囲内とし、かつ1.2.3.で規定する全オプション取引にかかる支払いプレミアム額の合計額が取引時点の信託財産の純資産総額の5%を上回らない範囲内とします。

有価証券の貸付(約款第37条)

1. 委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、信託財産に属する株式および公社債を以下の範囲内で貸付の指図をすることができます。
 - a. 株式の貸付は、貸付時点において、貸付株式の時価合計額が、信託財産で保有する株式の時価総額を超えないものとします。
 - b. 公社債の貸付は、貸付時点において、貸付公社債の額面金額の合計額が、信託財産で保有する公社債の額面金額の合計額を超えないものとします。
2. 前記1.に定める限度額を超えることとなった場合には、委託会社は速やかにその超える額に相当する契約の一部の解約を指図するものとします。
3. 委託会社は、有価証券の貸付にあたって必要と認めるときは、担保の受入れの指図を行うものとします。

資金の借入れ(約款第38条)

1. 委託会社は、信託財産の効率的な運用ならびに運用の安定性に資するため、一部解約に伴う支払資金の手当て(一部解約に伴う支払資金の手当てのために借入れた資金の返済を含みます。)を目的として、または再投資にかかる収益分配金の支払資金の手当てを目的として、資金借入れ(コール市場を通じる場合を含みます。)の指図をすることができます。なお、当該借入金をもって有価証券等の運用は行わないものとします。
2. 一部解約に伴う支払資金の手当てにかかる借入期間は、受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の売却代金の受渡日までの間または受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の解約代金入金日までの間もしくは受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の償還金の入金日までの期間が5営業日以内である場合の当該期間とし、資金借入額は当該有価証券等の売却代金、解約代金および償還金の合計額を限度とし、かつ借入指図を行う日における信託財産の純資産総額の10%を上回らない範囲内とします。
3. 収益分配金の再投資にかかる借入期間は信託財産から収益分配金が支弁される日からその翌営業日までとし、資金借入額は収益分配金の再投資額を限度とします。
4. 借入金の利息は信託財産中より支弁します。

b. 法令で定める投資制限

同一の法人の発行する株式の取得割合(投資信託及び投資法人に関する法律第9条)

委託会社は、同一の法人の発行する株式を、運用の指図を行うすべての委託者指図型投資信託につき

投資信託財産として有する当該株式にかかる議決権の総数が、当該株式にかかる議決権の総数に100分の50の率を乗じて得た数を超えることとなる場合においては、信託財産をもって取得することを受託会社に指図しないものとします。

3【投資リスク】

(1) 当ファンドにおける主として想定されるリスクと収益性に与える影響度合い

- ・当ファンドは、値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)に投資しますので、ファンドの基準価額は変動します。したがって、元本や一定の投資成果が保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被ることがあります。
- ・運用により信託財産に生じた利益および損失は、すべて受益者の皆様に帰属します。
- ・投資信託は預金商品や保険商品ではなく、預金保険、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。
- ・登録金融機関およびアセットマネジメントOne株式会社が取扱う投資信託は、投資者保護基金の対象ではありません。
- ・投資信託は預貯金とは異なります。
- ・当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリング・オフ)の適用はありません。

当ファンドにおいて主として想定されるリスクは以下の通りですが、基準価額の変動要因はこれらに限定されるものではありません。

株価変動リスク

株価変動リスクとは、株式市場および投資先となっている企業の株価が下落するリスクをいいます。

当ファンドが投資する企業の株価が下落した場合には、当ファンドの基準価額が下落する要因となります。また、当ファンドが投資する企業が業績悪化や倒産等に陥った場合には、当該企業の株価が大きく下落することや無くなることもあり、当ファンドの基準価額に大きな影響を及ぼすことがあります。

なお、当ファンドでは、株式の組入比率を原則として高位に維持するため、株式市場の動向により基準価額は大きく変動します。特に当ファンドが主要投資対象とする新興企業の株式の値動きは、日本の株式市場全体の平均的な値動きに比べ、より大きくなる場合があります。このため、当ファンドの基準価額は、株式市場全体を主要投資対象とするファンドの基準価額に比べ、より大きく変動する可能性があります。

また、当ファンドでは未上場・未登録株式にも投資を行うことがありますが、こうした株式については、上場株式と比べて発行企業による情報開示が十分でない場合があり、新規公開時等において株価が大きく変動する可能性もあるため、当ファンドの基準価額の変動幅は、上場株式のみに投資するファンドと比べて、より大きくなる可能性があります。

為替変動リスク

為替変動リスクとは、為替変動により外貨建資産の円換算価格が下落するリスクをいいます。当ファンドが行う外貨建資産への投資のうち、為替ヘッジが行われていない部分において、投資対象通貨と円との外国為替相場が円高となった場合には、当ファンドの基準価額が下落する要因となります。

流動性リスク

流動性リスクとは、有価証券を売却(または購入)しようとする際に、需要(または供給)がないため、有価証券を希望する時期に、希望する価格で売却(または購入)することができなくなるリスクをいいます。

一般に規模が小さい市場での売買や、取引量の少ない有価証券の売買にあたっては、流動性リスクへの留意が特に必要とされます。また、一般に市場を取り巻く外部環境の急変があった場合には、市場実勢価格での売買ができなくなる可能性が高まります。

当ファンドが投資する株式等の流動性が損なわれた場合には、当ファンドの基準価額が下落する要因となる可能性があります。

なお、当ファンドでは未上場・未登録株式にも投資を行うことがありますが、こうした株式については、一般に上場株式と比べて流動性が劣るため、当ファンドの基準価額の変動幅は、上場株式のみに投資するファンドと比べて、より大きくなる可能性があります。

信用リスク

信用リスクとは、公社債等の発行体が財政難、経営不振、その他の理由により、利息や償還金をあらかじめ決められた条件で支払うことができなくなる（債務不履行）リスクをいいます。一般に債務不履行が生じた場合、またはその可能性が高まった場合には、当該発行体が発行する公社債および短期金融商品（コマーシャル・ペーパー等）の価格は下落します。また、当該発行体が企業の場合には、一般にその企業の株価が下落する要因となります。当ファンドが投資する株式の発行企業や、株式以外の運用で投資する公社債等の発行体がこうした状況に陥った場合には、当ファンドの基準価額が下落する要因となる可能性があります。

<その他>

- ・当ファンドは、証券取引所における取引の停止等があるときには、一部解約の実行の請求の受け付けを中止すること、およびすでに受け付けた一部解約の実行の請求の受け付けを取り消すことがあります。

<収益分配金に関する留意点>

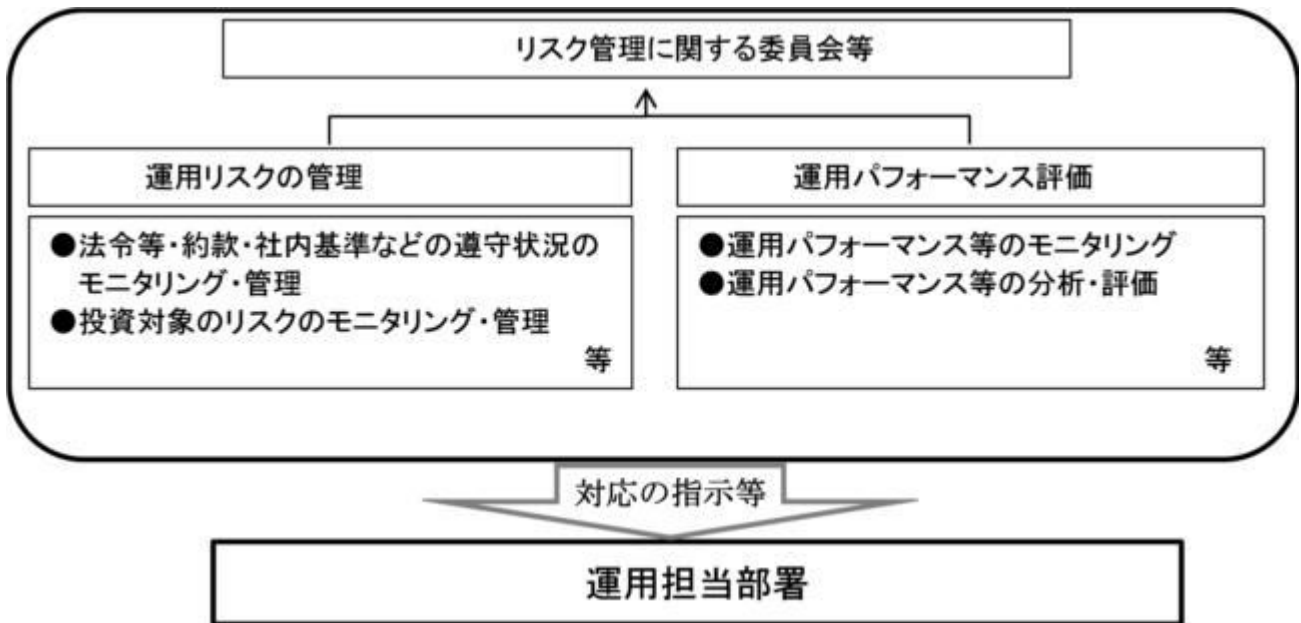
- ・投資信託の分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。
- ・分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。
- ・投資家（受益者）のファンドの取得価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド取得後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり度が小さかった場合も同様です。

(2) リスク管理体制

委託会社におけるファンドの投資リスクに対する管理体制については、以下のとおりです。

- ・運用リスクの管理：運用担当部署から独立したコンプライアンス・リスク管理担当部署が、運用リスクを把握、管理し、その結果に基づき運用担当部署へ対応の指示等を行うことにより、適切な管理を行います。

- ・運用パフォーマンス評価：運用担当部署から独立したリスク管理担当部署が、ファンドの運用パフォーマンスについて定期的に分析を行い、結果の評価を行います。
- ・リスク管理に関する委員会等：上記のとおり運用リスクの管理状況、運用パフォーマンス評価等の報告を受け、リスク管理に関する委員会等は総合的な見地から運用状況全般の管理・評価を行います。



リスク管理体制は平成30年2月末日現在のものであり、今後変更になることがあります。

<参考情報>

ファンドの年間騰落率および分配金再投資基準価額の推移



- * 分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算していますので、実際の基準価額とは異なる場合があります。(以下同じ。)
- * 年間騰落率(各月末時点について1年前と比較したもの)は、分配金再投資基準価額をもとに計算していますので、基準価額をもとに計算した騰落率とは異なる場合があります。

ファンドと他の代表的な資産クラスとの年間騰落率の比較



- * 上記は、当ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように、2013年3月～2018年2月の5年間における年間騰落率(各月末時点について1年前と比較したもの)の平均・最大・最小を表示したものです。
- * 当ファンドの年間騰落率は、分配金再投資基準価額をもとに計算していますので、基準価額をもとに計算した騰落率とは異なる場合があります。
- * 代表的な資産クラスは比較対象として記載しているため、当ファンドの投資対象とは限りません。

*各資産クラスの指数

日本株…東証株価指数(TOPIX)(配当込み)
 先進国株…MSCIコクサイ・インデックス(配当込み、円ベース)
 新興国株…MSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込み、円ベース)
 日本国債…NOMURA-BPI国債
 先進国債…FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース)
 新興国債…JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバーシファイド(円ベース)
 (注)海外の指数は為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

- 「東証株価指数(TOPIX)」は、東京証券取引所第一部に上場されているすべての株式の時価総額を指数化したものです。同指数は、株式会社東京証券取引所(株東京証券取引所)の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利は、株東京証券取引所が有しています。
- 「MSCIコクサイ・インデックス」は、MSCI Inc.が開発した株価指数で、日本を除く世界の主要先進国の株価指数を、各国の株式時価総額をベースに合成したものです。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。また、MSCI Inc.は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
- 「MSCIエマージング・マーケット・インデックス」は、MSCI Inc.が開発した株価指数で、新興国の株価指数を、各国の株式時価総額をベースに合成したものです。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。また、MSCI Inc.は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
- 「NOMURA-BPI国債」は、野村證券株式会社が国内で発行された公募利付国債の市場全体の動向を表すために開発した投資収益指数です。同指数の知的財産権その他一切の権利は野村證券株式会社に帰属します。なお、野村證券株式会社は、同指数の正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、ファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。
- 「FTSE世界国債インデックス(除く日本)」は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。
- 「JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバーシファイド」は、JPモルガン・セキュリティーズ・エルエルシーが公表している新興国の現地通貨建ての国債で構成されている時価総額加重平均指数です。同指数に関する著作権等の知的財産その他一切の権利はJPモルガン・セキュリティーズ・エルエルシーに帰属します。また、同社は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

4【手数料等及び税金】

(1)【申込手数料】

申込手数料(受益権1口当たり)は、取得申込日の基準価額に、3.24%(税抜3%)を上限に各販売会社が定める手数料率を乗じて得た額とします。なお、申込手数料には消費税等相当額が課せられます。

申込手数料については、販売会社にお問い合わせください。

「分配金再投資コース」を選択された場合は、申込手数料および申込手数料にかかる消費税等相当額をお申込代金の中から差し引かせていただきます。なお、収益分配金は、毎計算期末の翌営業日に原則として税金を差し引いた後、自動的に無手数料で再投資されます。

< 申込手数料を対価とする役務の内容 >

商品や投資環境の説明および情報提供等、ならびに購入に関する事務手続き等にかかる費用の対価

(2)【換金(解約)手数料】

ありません。

(3)【信託報酬等】

信託報酬の総額は、計算期間を通じて毎日、信託財産の純資産総額に年1.836%(税抜1.7%)の率を乗じて得た額とします。

その配分(税抜)については、以下の通りとなります。

| 委託会社 | 販売会社 | 受託会社 |
|------|------|------|
| 0.8% | 0.8% | 0.1% |

なお、信託報酬のうち、委託会社による募集にかかる部分については、販売会社への配分相当額を委託会社が収受します。

信託報酬は、毎計算期間の最初の6ヵ月の終了日および毎計算期末または信託終了のとき信託財産中から支弁するものとします。なお、信託報酬にかかる消費税等相当額を、信託報酬支弁の時に信託財産中から支弁します。

信託報酬 = 運用期間中の基準価額 × 信託報酬率

< 信託報酬等を対価とする役務の内容 >

| | |
|------|---|
| 委託会社 | 信託財産の運用、目論見書等各種書類の作成、基準価額の算出等の対価 |
| 販売会社 | 購入後の情報提供、交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価 |
| 受託会社 | 運用財産の保管・管理、委託会社からの運用指図の実行等の対価 |

(4) 【その他の手数料等】

信託財産に関する租税、信託財産の財務諸表の監査に要する費用および当該費用にかかる消費税等相当額、信託事務の処理に要する諸費用、外国における資産の保管等に要する費用ならびに受託会社の立替えた立替金の利息および資金の借入れを行った際の当該借入金の利息は、受益者の負担とし、信託財産中から支弁します。なお、信託財産の財務諸表の監査に要する費用は、当該費用にかかる消費税等相当額とともに毎計算期間の最初の6ヵ月終了日および毎計算期末または信託終了のとき、信託財産中から支弁します。

当ファンドの組入有価証券の売買時の売買委託手数料、先物・オプション取引等に要する費用およびこれら手数料ならびに費用にかかる消費税等相当額は、受益者の負担とし、信託財産中から支弁するものとします。

(5) 【課税上の取扱い】

当ファンドは、課税上「株式投資信託」として取扱われます。

個人の受益者に対する課税

収益分配時

収益分配金のうち課税扱いとなる普通分配金については、配当所得として、20.315%（所得税15.315%（復興特別所得税を含みます。）および地方税5%）の税率で源泉徴収による申告不要制度が適用されます。なお、確定申告により、申告分離課税または総合課税（配当控除の適用あり）のいずれかを選択することもできます。

詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

解約時および償還時

解約時および償還時の差益（譲渡益）については、譲渡所得として、20.315%（所得税15.315%（復興特別所得税を含みます。）および地方税5%）の税率での申告分離課税が適用されます。

原則として確定申告が必要ですが、特定口座（源泉徴収口座）を利用する場合、20.315%（所得税15.315%（復興特別所得税を含みます。）および地方税5%）の税率による源泉徴収が行われます。

解約価額および償還価額から取得費用（申込手数料および当該手数料にかかる消費税等に相当する金額を含みます。）を控除した利益。

買取請求による換金の際の課税については、販売会社にお問い合わせください。

損益通算について

解約(換金)時および償還時の差損(譲渡損)については、確定申告を行うことにより上場株式等(上場株式、上場投資信託(ETF)、上場不動産投資信託(REIT)、公募株式投資信託および特定公社債等(公募公社債投資信託を含みます。))など。以下同じ。)の譲渡益ならびに上場株式等の配当所得および利子所得の金額(配当所得については申告分離課税を選択したものに限ります。)との損益通算ならびに3年間の繰越控除の対象とすることができます。また、特定口座(源泉徴収口座)をご利用の場合、その口座内において損益通算を行います(確定申告不要)。詳しくは販売会社にお問い合わせください。

少額投資非課税制度「愛称：NISA(ニーサ)」および未成年者少額投資非課税制度「愛称：ジュニアNISA(ジュニアニーサ)」をご利用の場合

NISAおよびジュニアNISAは、上場株式や公募株式投資信託などにかかる非課税制度です。毎年、一定額の範囲で新たに購入した公募株式投資信託などから生じる配当所得および譲渡所得が一定期間非課税となります。ご利用になれるのは、販売会社で非課税口座を開設するなど、一定の条件に該当する方が対象となります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。なお、同非課税口座内で少額上場株式等にかかる譲渡損失が生じた場合には、課税上譲渡損失はないものとみなされ、他の口座の上場株式等の譲渡益および上場株式等の配当所得等の金額との損益通算を行うことはできませんので、ご注意ください。

法人の受益者に対する課税

収益分配金のうち課税扱いとなる普通分配金ならびに解約時および償還時の個別元本超過額については、15.315%(所得税15.315%(復興特別所得税を含みます。))の税率による源泉徴収が行われます。なお、地方税の源泉徴収は行われません。

買取請求による換金の際の課税については、販売会社にお問い合わせください。

なお、益金不算入制度の適用はありません。

上記は、平成30年2月末現在のものです。税法が改正された場合等には、上記の内容が変更になる場合があります。

課税上の取扱いの詳細については税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

個別元本方式について

受益者毎の信託時の受益権の価額等を当該受益者の元本とする個別元本方式は次のとおりです。

<個別元本について>

受益者毎の信託時の受益権の価額等(申込手数料および当該申込手数料にかかる消費税等に相当する金額は含まれません。)が当該受益者の元本(個別元本)にあたります。

受益者が同一ファンドの受益権を複数回取得した場合、個別元本は、当該受益者が追加信託を行うつど当該受益者の受益権口数で加重平均することにより算出されます。

ただし、同一ファンドの受益権を複数の販売会社で取得する場合については販売会社毎に個別元本の算出が行われます。また、同一販売会社であっても複数支店等で同一ファンドの受益権を取得する場合は当該支店等毎に、「分配金受取コース」と「分配金再投資コース」の両コースで同一ファンドの受益権を取得する場合はコース別に個別元本の算出が行われる場合があります。

収益分配金に元本払戻金(特別分配金)が含まれる場合、収益分配金発生時にその個別元本から当該元本払戻金(特別分配金)を控除した額が、その後の当該受益者の個別元本となります。(「元本払戻金(特別分配金)」については、下記の<収益分配金の課税について>を参照。)

<収益分配金の課税について>

収益分配金には、課税扱いとなる「普通分配金」と非課税扱いとなる「元本払戻金(特別分配金)」(受益者毎の元本の一部払戻しに相当する部分)の区分があります。

収益分配の際、当該収益分配金落ち後の基準価額が当該受益者の個別元本と同額の場合または当該受益者の個別元本を上回っている場合には、当該収益分配金の全額が普通分配金となり、当該収益分配金落ち後の基準価額が当該受益者の個別元本を下回っている場合には、その下回る部分の額が元本払戻金(特別分配金)となり、当該収益分配金から当該元本払戻金(特別分配金)を控除した額が普通分配金となります。

なお、収益分配金に元本払戻金(特別分配金)が含まれる場合、収益分配金発生時にその個別元本から当該元本払戻金(特別分配金)を控除した額が、その後の当該受益者の個別元本となります。

税法が改正された場合等は、上記内容が変更になることがあります。

5【運用状況】

以下の運用状況は平成30年 2月28日現在です。

投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価比率をいいます。なお、小数点第3位を切捨てており、端数調整は行っておりません。

(1)【投資状況】

| 資産の種類 | 国/地域 | 時価合計(円) | 投資比率(%) |
|---------------------|------|----------------|---------|
| 株式 | 日本 | 35,053,520,700 | 95.66 |
| 現金・預金・その他の資産(負債控除後) | | 1,588,783,746 | 4.33 |
| 合計(純資産総額) | | 36,642,304,446 | 100.00 |

(2)【投資資産】

【投資有価証券の主要銘柄】

イ. 評価額上位銘柄明細

| 順位 | 国/地域 | 種類 | 銘柄名 | 業種 | 数量又は 額面総額 | 帳簿価額 単価 (円) | 帳簿価額 金額 (円) | 評価額 単価 (円) | 評価額 金額 (円) | 投資 比率 (%) |
|----|------|----|-------------------|--------|--------------|-------------------|-------------------|------------------|------------------|-----------------|
| 1 | 日本 | 株式 | ソネット・メディア・ネットワークス | サービス業 | 127,400 | 4,475.47 | 570,176,149 | 4,950.00 | 630,630,000 | 1.72 |
| 2 | 日本 | 株式 | バリューコマース | サービス業 | 442,900 | 1,339.19 | 593,130,338 | 1,415.00 | 626,703,500 | 1.71 |
| 3 | 日本 | 株式 | フィックスターズ | 情報・通信業 | 68,200 | 8,370.22 | 570,849,521 | 8,690.00 | 592,658,000 | 1.61 |
| 4 | 日本 | 株式 | ジャパンマテリアル | サービス業 | 389,900 | 1,430.55 | 557,772,123 | 1,491.00 | 581,340,900 | 1.58 |

| | | | | | | | | | | |
|----|----|----|--------------------|------------|---------|----------|-------------|----------|-------------|------|
| 5 | 日本 | 株式 | シグマクシス | サービス業 | 329,900 | 1,720.40 | 567,561,082 | 1,733.00 | 571,716,700 | 1.56 |
| 6 | 日本 | 株式 | ジャパンインベストメントアドバイザー | 証券・商品先物取引業 | 121,300 | 4,387.77 | 532,236,922 | 4,370.00 | 530,081,000 | 1.44 |
| 7 | 日本 | 株式 | 芝浦電子 | 電気機器 | 85,500 | 5,598.23 | 478,648,668 | 6,180.00 | 528,390,000 | 1.44 |
| 8 | 日本 | 株式 | エス・エム・エス | サービス業 | 119,200 | 4,355.27 | 519,148,298 | 4,430.00 | 528,056,000 | 1.44 |
| 9 | 日本 | 株式 | ベクトル | サービス業 | 226,100 | 2,181.43 | 493,222,543 | 2,280.00 | 515,508,000 | 1.40 |
| 10 | 日本 | 株式 | 日置電機 | 電気機器 | 137,000 | 3,521.79 | 482,486,315 | 3,670.00 | 502,790,000 | 1.37 |
| 11 | 日本 | 株式 | シークス | 卸売業 | 95,500 | 5,068.88 | 484,078,573 | 5,180.00 | 494,690,000 | 1.35 |
| 12 | 日本 | 株式 | ストライク | サービス業 | 75,000 | 6,321.21 | 474,091,187 | 6,590.00 | 494,250,000 | 1.34 |
| 13 | 日本 | 株式 | エン・ジャパン | サービス業 | 79,900 | 5,822.48 | 465,216,399 | 6,090.00 | 486,591,000 | 1.32 |
| 14 | 日本 | 株式 | クレハ | 化学 | 62,000 | 7,618.83 | 472,367,825 | 7,660.00 | 474,920,000 | 1.29 |
| 15 | 日本 | 株式 | イトクロ | サービス業 | 69,100 | 6,745.58 | 466,119,960 | 6,850.00 | 473,335,000 | 1.29 |
| 16 | 日本 | 株式 | 東祥 | サービス業 | 119,200 | 4,026.15 | 479,917,288 | 3,960.00 | 472,032,000 | 1.28 |
| 17 | 日本 | 株式 | RS Technologies | 金属製品 | 56,000 | 8,080.00 | 452,480,000 | 8,390.00 | 469,840,000 | 1.28 |
| 18 | 日本 | 株式 | ネットワンシステムズ | 情報・通信業 | 277,500 | 1,627.88 | 451,739,099 | 1,657.00 | 459,817,500 | 1.25 |
| 19 | 日本 | 株式 | ヨコオ | 電気機器 | 207,100 | 2,139.00 | 442,986,900 | 2,217.00 | 459,140,700 | 1.25 |
| 20 | 日本 | 株式 | Gunosy | サービス業 | 171,600 | 2,670.57 | 458,271,218 | 2,675.00 | 459,030,000 | 1.25 |
| 21 | 日本 | 株式 | 太陽誘電 | 電気機器 | 239,000 | 1,843.82 | 440,675,272 | 1,893.00 | 452,427,000 | 1.23 |
| 22 | 日本 | 株式 | ソウルドアウト | サービス業 | 115,000 | 3,627.72 | 417,187,822 | 3,900.00 | 448,500,000 | 1.22 |
| 23 | 日本 | 株式 | ノーリツ鋼機 | 精密機器 | 185,000 | 2,445.27 | 452,376,236 | 2,417.00 | 447,145,000 | 1.22 |
| 24 | 日本 | 株式 | MARUWA | ガラス・土石製品 | 49,900 | 8,440.61 | 421,186,732 | 8,880.00 | 443,112,000 | 1.20 |
| 25 | 日本 | 株式 | 日本管理センター | 不動産業 | 248,200 | 1,760.66 | 436,995,927 | 1,780.00 | 441,796,000 | 1.20 |
| 26 | 日本 | 株式 | オロ | 情報・通信業 | 178,100 | 2,377.94 | 423,511,622 | 2,476.00 | 440,975,600 | 1.20 |
| 27 | 日本 | 株式 | ベネフィット・ワン | サービス業 | 160,200 | 2,752.54 | 440,957,543 | 2,752.00 | 440,870,400 | 1.20 |
| 28 | 日本 | 株式 | セック | 情報・通信業 | 126,000 | 3,375.00 | 425,250,000 | 3,490.00 | 439,740,000 | 1.20 |
| 29 | 日本 | 株式 | 船井総研ホールディングス | サービス業 | 197,900 | 2,122.76 | 420,094,968 | 2,197.00 | 434,786,300 | 1.18 |
| 30 | 日本 | 株式 | MS - Japan | サービス業 | 68,400 | 6,408.63 | 438,350,422 | 6,300.00 | 430,920,000 | 1.17 |

ロ.種類別及び業種別の投資比率

| 種類 | 国内/外国 | 業種 | 投資比率 (%) |
|----|-------|----------|-------------|
| 株式 | 国内 | 食料品 | 0.37 |
| | | パルプ・紙 | 1.03 |
| | | 化学 | 3.71 |
| | | 医薬品 | 3.08 |
| | | ガラス・土石製品 | 1.20 |
| | | 金属製品 | 1.28 |

| | | |
|----|------------|-------|
| | 機械 | 6.07 |
| | 電気機器 | 14.29 |
| | 精密機器 | 2.38 |
| | その他製品 | 0.45 |
| | 情報・通信業 | 18.68 |
| | 卸売業 | 3.09 |
| | 小売業 | 2.67 |
| | 証券、商品先物取引業 | 1.44 |
| | 保険業 | 0.75 |
| | その他金融業 | 1.07 |
| | 不動産業 | 1.88 |
| | サービス業 | 32.13 |
| 合計 | | 95.66 |

【投資不動産物件】

該当事項はありません。

【その他投資資産の主要なもの】

該当事項はありません。

(3) 【運用実績】

【純資産の推移】

平成30年2月末日及び同日前1年以内における各月末ならびに下記決算期末の純資産の推移は次の通りです。

| 期別 | 純資産総額（百万円） | | 1口当たり純資産額（円） | |
|-----------------------|------------|--------|--------------|--------|
| | （分配落） | （分配付） | （分配落） | （分配付） |
| 第9計算期間末（平成21年 2月24日） | 1,809 | 1,809 | 0.3631 | 0.3631 |
| 第10計算期間末（平成22年 2月24日） | 2,028 | 2,028 | 0.5032 | 0.5032 |
| 第11計算期間末（平成23年 2月24日） | 1,874 | 1,874 | 0.5491 | 0.5491 |
| 第12計算期間末（平成24年 2月24日） | 1,418 | 1,418 | 0.5060 | 0.5060 |
| 第13計算期間末（平成25年 2月25日） | 1,584 | 1,584 | 0.6382 | 0.6382 |
| 第14計算期間末（平成26年 2月24日） | 3,600 | 3,687 | 1.0263 | 1.0513 |
| 第15計算期間末（平成27年 2月24日） | 3,298 | 3,542 | 1.0818 | 1.1618 |
| 第16計算期間末（平成28年 2月24日） | 3,607 | 3,930 | 1.1166 | 1.2166 |
| 第17計算期間末（平成29年 2月24日） | 5,504 | 5,895 | 1.4070 | 1.5070 |
| 第18計算期間末（平成30年 2月26日） | 33,343 | 34,915 | 2.1202 | 2.2202 |
| 平成29年 2月末日 | 5,519 | | 1.4056 | |
| 3月末日 | 5,974 | | 1.4550 | |
| 4月末日 | 6,529 | | 1.4264 | |

| | | | |
|------------|--------|--|--------|
| 5月末日 | 7,109 | | 1.5585 |
| 6月末日 | 7,509 | | 1.6069 |
| 7月末日 | 9,193 | | 1.6669 |
| 8月末日 | 10,728 | | 1.7490 |
| 9月末日 | 12,668 | | 1.8198 |
| 10月末日 | 14,979 | | 1.8903 |
| 11月末日 | 17,583 | | 1.9647 |
| 12月末日 | 21,872 | | 2.0817 |
| 平成30年 1月末日 | 30,118 | | 2.2673 |
| 2月末日 | 36,642 | | 2.1547 |

(注) 表中の末日とは当該月の最終営業日を指します。

【分配の推移】

| 期 | 計算期間 | 1口当たりの分配金(円) |
|---------|-------------------------|--------------|
| 第9計算期間 | 平成20年 2月26日～平成21年 2月24日 | 0.0000 |
| 第10計算期間 | 平成21年 2月25日～平成22年 2月24日 | 0.0000 |
| 第11計算期間 | 平成22年 2月25日～平成23年 2月24日 | 0.0000 |
| 第12計算期間 | 平成23年 2月25日～平成24年 2月24日 | 0.0000 |
| 第13計算期間 | 平成24年 2月25日～平成25年 2月25日 | 0.0000 |
| 第14計算期間 | 平成25年 2月26日～平成26年 2月24日 | 0.0250 |
| 第15計算期間 | 平成26年 2月25日～平成27年 2月24日 | 0.0800 |
| 第16計算期間 | 平成27年 2月25日～平成28年 2月24日 | 0.1000 |
| 第17計算期間 | 平成28年 2月25日～平成29年 2月24日 | 0.1000 |
| 第18計算期間 | 平成29年 2月25日～平成30年 2月26日 | 0.1000 |

【収益率の推移】

| 期 | 計算期間 | 収益率(%) |
|---------|-------------------------|--------|
| 第9計算期間 | 平成20年 2月26日～平成21年 2月24日 | 36.92 |
| 第10計算期間 | 平成21年 2月25日～平成22年 2月24日 | 38.58 |
| 第11計算期間 | 平成22年 2月25日～平成23年 2月24日 | 9.12 |
| 第12計算期間 | 平成23年 2月25日～平成24年 2月24日 | 7.85 |
| 第13計算期間 | 平成24年 2月25日～平成25年 2月25日 | 26.13 |
| 第14計算期間 | 平成25年 2月26日～平成26年 2月24日 | 64.73 |
| 第15計算期間 | 平成26年 2月25日～平成27年 2月24日 | 13.20 |
| 第16計算期間 | 平成27年 2月25日～平成28年 2月24日 | 12.46 |
| 第17計算期間 | 平成28年 2月25日～平成29年 2月24日 | 34.96 |
| 第18計算期間 | 平成29年 2月25日～平成30年 2月26日 | 57.80 |

(注1) 収益率は期間騰落率。

（注2）小数点第3位四捨五入。

（4）【設定及び解約の実績】

| 期 | 計算期間 | 設定口数（口） | 解約口数（口） | 発行済み口数（口） |
|---------|-------------------------|----------------|---------------|----------------|
| 第9計算期間 | 平成20年 2月26日～平成21年 2月24日 | 5,279,243 | 778,106,430 | 4,983,061,065 |
| 第10計算期間 | 平成21年 2月25日～平成22年 2月24日 | 15,032,267 | 967,241,154 | 4,030,852,178 |
| 第11計算期間 | 平成22年 2月25日～平成23年 2月24日 | 8,218,183 | 624,948,999 | 3,414,121,362 |
| 第12計算期間 | 平成23年 2月25日～平成24年 2月24日 | 9,839,828 | 621,071,611 | 2,802,889,579 |
| 第13計算期間 | 平成24年 2月25日～平成25年 2月25日 | 35,189,770 | 355,533,615 | 2,482,545,734 |
| 第14計算期間 | 平成25年 2月26日～平成26年 2月24日 | 2,638,238,446 | 1,612,693,631 | 3,508,090,549 |
| 第15計算期間 | 平成26年 2月25日～平成27年 2月24日 | 1,469,709,814 | 1,928,764,602 | 3,049,035,761 |
| 第16計算期間 | 平成27年 2月25日～平成28年 2月24日 | 2,387,268,900 | 2,205,692,746 | 3,230,611,915 |
| 第17計算期間 | 平成28年 2月25日～平成29年 2月24日 | 4,147,591,730 | 3,466,253,120 | 3,911,950,525 |
| 第18計算期間 | 平成29年 2月25日～平成30年 2月26日 | 21,779,943,242 | 9,965,370,856 | 15,726,522,911 |

参考情報

データの基準日：2018年2月28日

基準価額・純資産の推移

（2000年2月25日～2018年2月28日）



※基準価額は1万口当たり・信託報酬控除後の価額です。
 ※分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したものであり、実際の基準価額とは異なります。（設定日：2000年2月25日）

分配の推移（税引前）

| | |
|---------|--------|
| 2018年2月 | 1,000円 |
| 2017年2月 | 1,000円 |
| 2016年2月 | 1,000円 |
| 2015年2月 | 800円 |
| 2014年2月 | 250円 |
| 設定来累計 | 4,180円 |

※分配金は1万口当たりです。

主要な資産の状況

※比率(%)は、純資産総額に対する当該資産の時価比率(小数点第二位四捨五入)です。
資産の種類の内書は、国/地域を表します。

資産の状況

| 資産の種類 | 比率(%) |
|-----------------------|-------|
| 株式 | 95.7 |
| 内 日本 | 95.7 |
| コール・ローン、その他の資産(負債控除後) | 4.3 |
| 合計(純資産総額) | 100.0 |

株式組入上位5業種

| 順位 | 業種 | 比率(%) |
|----|--------|-------|
| 1 | サービス業 | 32.1 |
| 2 | 情報・通信業 | 18.7 |
| 3 | 電気機器 | 14.3 |
| 4 | 機械 | 6.1 |
| 5 | 化学 | 3.7 |

組入上位10銘柄

| 順位 | 銘柄名 | 業種 | 比率(%) |
|----|--------------------|------------|-------|
| 1 | ソネット・メディア・ネットワークス | サービス業 | 1.7 |
| 2 | パルコム | サービス業 | 1.7 |
| 3 | フィックスターズ | 情報・通信業 | 1.6 |
| 4 | ジャパンマテリアル | サービス業 | 1.6 |
| 5 | シグマクシス | サービス業 | 1.6 |
| 6 | ジャパンインベストメントアドバイザー | 証券・商品先物取引業 | 1.4 |
| 7 | 芝浦電子 | 電気機器 | 1.4 |
| 8 | エス・エム・エス | サービス業 | 1.4 |
| 9 | ベクトル | サービス業 | 1.4 |
| 10 | 日置電機 | 電気機器 | 1.4 |

年間収益率の推移（暦年ベース）



※年間収益率は、分配金再投資基準価額をもとに計算したものです。
※2018年については年初から基準日までの収益率を表示しています。

- 掲載データ等はあくまでも過去の実績であり、将来の運用成果を示唆、保証するものではありません。
- 委託会社のホームページ等で運用状況が開示されている場合があります。

第2【管理及び運営】

1【申込（販売）手続等】

- (1) 当ファンドのお申込みは、原則として委託会社および販売会社の営業日の午後3時までにお買付けのお申込みが行われ、かつ当該お申込みの受け付けにかかる販売会社の所定の事務手続きが完了したものを当日分のお申込みといたします。この時間を過ぎてのお申込みおよび所定の事務手続き完了分については、翌営業日のお取扱いとなります。
- (2) 取得申込者は販売会社に、取得申込みと同時にまたはあらかじめ、自己のために開設されたファンドの受益権の振替を行うための振替機関等の口座を示すものとし、当該口座に当該取得申込者にかかる口数の増加の記載または記録が行われます。なお、販売会社（委託会社の自らの募集にかかる受益権については委託会社の指定する口座管理機関）は、当該取得申込みの代金の支払いと引換えに、当該口座に当該取得申込者にかかる口数の増加の記載または記録を行うことができます。委託会社は、追加信託により分割された受益権について、振替機関等の振替口座簿への新たな記載または記録をするため社振法に定める事項の振替機関への通知を行うものとし、
- (3) お申込みには、収益の分配がなされた場合に分配金を受領する「分配金受取コース」と、分配金は原則として税金を差し引いた後、自動的に無手数料で再投資される「分配金再投資コース」の2つの申込方法があります。ただし、販売会社によっては、どちらか一方のコースのみの取扱いとなる場合があります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

- (4) 申込単位は各販売会社が定める単位とします。申込単位については、販売会社にお問い合わせください。
- (5) 取得申込者と販売会社との間であらかじめ決められた一定の金額を一定期間毎に定時定額購入（積立）をすることができる場合があります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。
- (6) 取得申込みにかかる受益権の価額は、取得申込日の基準価額に、販売会社が別に定める申込手数料および申込手数料にかかる消費税等相当額を加算した価額とします。
- (7) 販売会社において金額買付（申込単位が金額にて表示されている場合）による申込みをされた場合、申込手数料および申込手数料にかかる消費税等相当額はお申込代金の中から差し引かれます。
- (8) 収益分配金の再投資に関する契約に基づき、収益分配金を再投資する際は、1口単位で購入できるものとします。なお、その際の受益権の価額は、原則として各計算期間終了日の基準価額とします。
- (9) 証券取引所における取引の停止、外国為替取引の停止、その他やむを得ない事情があるときは、販売会社は、受益権の取得申込みの受付けを中止すること、およびすでに受け付けた取得申込みの受付けを取り消すことができます。

2【換金（解約）手続等】

- (1) 受益者は、自己に帰属する受益権につき、委託会社に各販売会社が定める単位をもって解約を請求することができます。

解約単位は、販売会社にお問い合わせください。

- (2) 解約の請求を行う受益者は、振替制度にかかる口座が開設されている振替機関等に対して当該受益者の請求にかかるこの信託契約の一部解約を委託会社が行うのと引換えに、当該一部解約にかかる受益権の口数と同口数の抹消の申請を行うものとし、社振法の規定にしたがい当該振替機関等の口座において当該口数の減少の記載または記録が行われます。なお、解約の請求を受益者が行う際は、販売会社に対し振替受益権をもって行うものとします。
- (3) 解約請求の受付けについては、原則として委託会社および販売会社の営業日の午後3時までには解約のお申込みが行われ、かつ当該お申込みの受付けにかかる販売会社の所定の事務手続きが完了したものを当日分のお申込みとします。この時間を過ぎてのお申込みおよび所定の事務手続き完了分については、翌営業日のお取扱いとなります。
- (4) 解約の価額は、解約請求受付日の基準価額とします。詳しくは、販売会社または委託会社にお問い合わせください。なお、委託会社に対する照会は下記においてできます。

| 照会先の名称 | 電話番号 |
|-------------------|--------------|
| アセットマネジメントOne株式会社 | 0120-104-694 |

電話によるお問い合わせは、営業日の午前9時～午後5時までとさせていただきます。（以下同じ。）

- (5) 解約代金は、受益者の請求を受付けた日から起算して、原則として4営業日目から販売会社において受益者に支払われます。ただし、委託会社の自らの募集にかかる受益権に帰属する一部解約金の支払いは、委託会社において行います。
- (6) 信託財産の資金管理を円滑に行うために大口の解約請求には制限を設ける場合があります。
- (7) 委託会社は、証券取引所における取引の停止、外国為替取引の停止、その他やむを得ない事情があるときは、一部解約の実行の請求の受付けを中止すること、およびすでに受け付けた一部解約の実行の請求の受付けを取り消すことができます。

この場合、受益者は当該受付中止以前に行った当日の一部解約の実行の請求を撤回できます。ただし、受益者がその一部解約の実行の請求を撤回しない場合には、当該受益権の一部解約の価額は、当該受付中

止を解除した後の最初の基準価額の計算日に一部解約の実行の請求を受け付けたものとし、前記(4)の規定に準じた価額とします。

3【資産管理等の概要】

(1)【資産の評価】

基準価額とは、信託財産に属する資産(受入担保金代用有価証券を除きます。)を法令および一般社団法人投資信託協会規則に従って時価評価して得た信託財産の資産総額から負債総額を控除した金額(「純資産総額」といいます。)を計算日における受益権総口数で除した金額をいいます。

<主な投資対象の時価評価方法の原則>

| 投資対象 | 評価方法 |
|-----------|------------------------|
| 株式 | 計算日における取引所の最終相場 |
| 外貨建資産の円換算 | 計算日の国内における対顧客電信売買相場の仲値 |

外国で取引されているものについては、計算日の直近の日とします。

当ファンドの基準価額は、委託会社の毎営業日(土曜日、日曜日、「国民の祝日に関する法律」に定める休日ならびに12月31日、1月2日および1月3日以外の日とします。)に計算されます。基準価額については、販売会社または委託会社にお問い合わせください。なお、委託会社に対する照会は下記においてできます。基準価額は1万口単位で表示されたものが発表されます。

| 照会先の名称 | ホームページアドレス | 電話番号 |
|-------------------|---|--------------|
| アセットマネジメントOne株式会社 | http://www.am-one.co.jp/ | 0120-104-694 |

(2)【保管】

該当事項はありません。

(3)【信託期間】

平成12年2月25日から無期限とします。

(4)【計算期間】

原則として毎年2月25日から翌年2月24日までとします。ただし、計算期間終了日に該当する日(以下「当該日」といいます。)が休業日のとき、計算期間終了日は当該日の翌日以降の最初の営業日とし、その翌日より次の計算期間が開始されるものとします。

(5)【その他】

信託契約の解約

以下の場合には信託契約を解約し信託を終了することがあります。

1. 委託会社は、この信託契約を解約することが受益者のため有利であると認めるとき、またはやむを得ない事情が発生したとき、もしくは信託契約の一部解約により、受益権の口数が10億口を下回るこ

となる場合には、受託会社と合意のうえ、この信託契約を解約し、信託を終了させることができます。

- a. この場合において、委託会社は、あらかじめ、解約しようとする旨を監督官庁に届け出ます。委託会社はかかる事項について、あらかじめ、解約しようとする旨を公告し、かつ、その旨を記載した書面をこの信託契約にかかる知られたる受益者に対して交付します。ただし、この信託契約にかかる全ての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。
 - b. 前記a.の公告および書面には、受益者で異議のある者は一定の期間内に委託会社に対して異議を述べるべき旨を付記します。なお、一定の期間は一カ月を下らないものとします。
 - c. 前記b.の一定の期間内に異議を述べた受益者の受益権の口数が受益権の総口数の二分の一を超えるときは、前記1.の信託契約の解約をしません。
 - d. 委託会社は、この信託契約の解約をしないこととしたときは、解約しない旨およびその理由を公告し、かつ、これらの事項を記載した書面を知られたる受益者に対して交付します。ただし、全ての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。
 - e. 前記b.からd.までの規定は、信託財産の状態に照らし、真にやむを得ない事情が生じている場合であって、前記b.の一定の期間が一カ月を下らずにその公告および書面の交付を行うことが困難な場合には適用しません。
 - f. 前記1.に定める信託契約の解約を行う場合において、前記b.の期間内に異議を述べた受益者は、受託会社に対し、自己に帰属する受益権を、信託財産をもって買取るべき旨を請求することができます。なお、買取請求の取扱いについては、委託会社、受託会社の協議により決定するものとします。
2. 委託会社は、監督官庁よりこの信託契約の解約の命令を受けたときは、その命令にしたがい、信託契約を解約し、信託を終了させます。
 3. 委託会社が監督官庁より登録の取消を受けたとき、解散したときまたは業務を廃止したときは、委託会社は、この信託契約を解約し、信託を終了させます。ただし、監督官庁が、この信託契約に関する委託会社の業務を他の投資信託委託会社に引継ぐことを命じたときは、この信託は、「信託約款の変更4.」に該当する場合を除き、当該投資信託委託会社と受託会社との間において存続します。
 4. 受託会社が辞任した場合、または裁判所が受託会社を解任した場合において、委託会社が新受託会社を選任できないときは、委託会社はこの信託契約を解約し、信託を終了させます。

信託約款の変更

1. 委託会社は、信託約款を変更することが受益者の利益のため必要と認めるとき、またはやむを得ない事情が発生したときは、受託会社と合意のうえ、この信託約款を変更できるものとし、あらかじめ、変更しようとする旨およびその内容を監督官庁に届け出ます。
2. 委託会社は、前記1.の変更事項のうち、その内容が重大なものについて、あらかじめ、変更しようとする旨を公告し、かつ、これらの事項を記載した書面をこの信託約款にかかる知られたる受益者に対して交付します。ただし、この信託約款にかかるすべての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。
3. 前記2.の公告および書面には、受益者で異議のある者は一定の期間内に委託会社に対して異議を述べるべき旨を付記します。なお、一定の期間は一カ月を下らないものとします。
4. 前記3.の一定の期間内に異議を述べた受益者の受益権の口数が受益権の総口数の二分の一を超えるときは、前記1.の信託約款の変更をしません。
5. 委託会社は、この信託約款を変更しないこととしたときは、変更しない旨およびその理由を公告

し、かつ、これらの事項を記載した書面を知られたる受益者に対して交付します。ただし、全ての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。

6．前記2．に定める変更を行う場合において、前記3．の期間内に異議を述べた受益者は、受託会社に対し、自己に帰属する受益権を、信託財産をもって買取るべき旨を請求することができます。なお、買取請求の取扱いについては、委託会社、受託会社の協議により決定するものとします。

7．委託会社は、監督官庁の命令に基づいてこの信託約款を変更しようとするときは、上記の規定にしたがいます。

委託会社の事業の譲渡および承継に伴う取扱い

1．委託会社は、事業の全部または一部を譲渡することがあり、これに伴ない、この信託契約に関する事業を譲渡することがあります。

2．委託会社は、分割により事業の全部または一部を承継させることがあり、これに伴ない、この信託契約に関する事業を承継させることがあります。

関係法人との契約の更改および受託会社の辞任または解任に伴う取扱い

1．委託会社と販売会社との間の募集・販売等契約は、締結日から原則1年間とし、期間終了の3ヵ月前までに別段の意思表示のない時は、同一条件にて継続されます。

2．受託会社は、委託会社の承諾を受けてその任務を辞任することができます。また、受託会社がその任務に背いた場合、その他重要な事由が生じたときは、委託会社または受益者は、裁判所に受託会社の解任を請求することができます。受託会社が辞任した場合、または裁判所が受託会社を解任した場合、委託会社は「信託約款の変更」の規定にしたがい、新受託会社を選任します。委託会社が新受託会社を選任できないときは、委託会社はこの信託契約を解約し、信託を終了させます。

信託事務処理の再信託

受託会社は、当ファンドにかかる信託事務処理の一部について、日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社と再信託契約を締結し、これを委託することがあります。その場合には、再信託にかかる契約書類に基づいて所定の事務を行います。

公告

委託会社が受益者に対してする公告は、電子公告の方法により行い、次のアドレスに掲載します。

<http://www.am-one.co.jp/>

なお、電子公告による公告をすることができない事故その他やむを得ない事由が生じた場合の公告は、日本経済新聞に掲載します。

運用報告書

委託会社は、決算時および信託終了時に期中の運用経過のほか、信託財産の内容、有価証券売買状況などを記載した「運用報告書」を作成します。

・交付運用報告書は、販売会社を通じて交付いたします。

・運用報告書(全体版)は、次のアドレスに掲載します。ただし、受益者から運用報告書(全体版)の交付の請求があった場合には、交付いたします。

<http://www.am-one.co.jp/>

4【受益者の権利等】

(1) 収益分配金請求権

受益者は、委託会社の決定した収益分配金を、持ち分に応じて請求する権利を有します。

受益者が収益分配金支払開始日から5年間支払いを請求しないときは、その権利を失い、受託会社から交

付を受けた金銭は、委託会社に帰属します。

収益分配金は、決算日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者(当該収益分配金にかかる決算日以前において一部解約が行われた受益権にかかる受益者を除きます。また、当該収益分配金にかかる計算期間の末日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者とします。)に、原則として決算日から起算して5営業日までにお支払いを開始します。

なお、「分配金再投資コース」により収益分配金を再投資する受益者に対しては、委託会社は受託会社から受けた収益分配金を、原則として毎計算期間終了日の翌営業日に販売会社に交付します。販売会社は、受益者に対し遅滞なく収益分配金の再投資にかかる受益権の売付を行います。再投資により増加した受益権は、振替口座簿に記載または記録されます。

(2) 償還金請求権

受益者は、持ち分に応じて償還金を請求する権利を有します。

受益者が信託終了による償還金について支払開始日から10年間支払いを請求しないときは、その権利を失い、受託会社から交付を受けた金銭は、委託会社に帰属します。

償還金は、償還日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者(償還日以前において一部解約が行われた受益権にかかる受益者を除きます。また、当該償還日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため、販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者とします。)に、原則として償還日(休業日の場合は翌営業日)から起算して5営業日までに委託会社または販売会社において、お支払いを開始します。

(3) 一部解約請求権

受益者は、自己に帰属する受益権について、一部解約の実行の請求をすることができます。

(4) 帳簿書類の閲覧・謄写の請求権

受益者は、委託会社に対し、その営業時間内に当該受益者にかかる信託財産に関する帳簿書類の閲覧または謄写を請求することができます。

第3【ファンドの経理状況】

MHAM新興成長株オープン

(1) 当ファンドの財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号)ならびに同規則第2条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」(平成12年総理府令第133号)に基づいて作成しております。

なお、財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。

(2) 当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第18期計算期間の財務諸表について、新日本有限責任監査法人により監査を受けております。

1【財務諸表】

(1) 【貸借対照表】

(単位：円)

| | 第17期計算期間 (平成29年 2月24日現在) | 第18期計算期間 (平成30年 2月26日現在) |
|------------------|-----------------------------|-----------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 金銭信託 | 188,667 | 364,561 |
| コール・ローン | 587,010,422 | 3,849,391,854 |
| 株式 | 5,245,751,100 | 32,121,462,500 |
| 未収入金 | 304,856,204 | 63,094,856 |
| 未収配当金 | 8,781,700 | 44,369,910 |
| 流動資産合計 | 6,146,588,093 | 36,078,683,681 |
| 資産合計 | 6,146,588,093 | 36,078,683,681 |
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 未払金 | 87,059,314 | 525,976,785 |
| 未払収益分配金 | 391,195,052 | 1,572,652,291 |
| 未払解約金 | 114,579,286 | 460,087,770 |
| 未払受託者報酬 | 2,906,016 | 10,393,855 |
| 未払委託者報酬 | 46,496,134 | 166,301,573 |
| 未払利息 | 562 | 4,745 |
| その他未払費用 | 116,178 | 183,670 |
| 流動負債合計 | 642,352,542 | 2,735,600,689 |
| 負債合計 | 642,352,542 | 2,735,600,689 |
| 純資産の部 | | |
| 元本等 | | |
| 元本 | 3,911,950,525 | 15,726,522,911 |
| 剰余金 | | |
| 期末剰余金又は期末欠損金 () | 1,592,285,026 | 17,616,560,081 |
| (分配準備積立金) | 642,620,447 | 2,522,566,717 |
| 元本等合計 | 5,504,235,551 | 33,343,082,992 |
| 純資産合計 | 5,504,235,551 | 33,343,082,992 |
| 負債純資産合計 | 6,146,588,093 | 36,078,683,681 |

(2)【損益及び剰余金計算書】

(単位:円)

| | 第17期計算期間 (自 平成28年 2月25日 至 平成29年 2月24日) | 第18期計算期間 (自 平成29年 2月25日 至 平成30年 2月26日) |
|---|--|--|
| 営業収益 | | |
| 受取配当金 | 54,955,800 | 108,753,300 |
| 受取利息 | 549 | 46 |
| 有価証券売買等損益 | 1,487,227,532 | 6,221,076,431 |
| その他収益 | 8,749 | 3,131 |
| 営業収益合計 | 1,542,192,630 | 6,329,832,908 |
| 営業費用 | | |
| 支払利息 | 82,214 | 369,422 |
| 受託者報酬 | 5,370,322 | 14,210,861 |
| 委託者報酬 | 85,925,011 | 227,373,591 |
| その他費用 | 221,301 | 336,294 |
| 営業費用合計 | 91,598,848 | 242,290,168 |
| 営業利益又は営業損失() | 1,450,593,782 | 6,087,542,740 |
| 経常利益又は経常損失() | 1,450,593,782 | 6,087,542,740 |
| 当期純利益又は当期純損失() | 1,450,593,782 | 6,087,542,740 |
| 一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は一部解約に伴う当期純損失金額の分配額() | 467,381,412 | 2,154,667,945 |
| 期首剰余金又は期首欠損金() | 376,688,741 | 1,592,285,026 |
| 剰余金増加額又は欠損金減少額 | 1,260,957,948 | 20,246,816,877 |
| 当期一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額 | - | - |
| 当期追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額 | 1,260,957,948 | 20,246,816,877 |
| 剰余金減少額又は欠損金増加額 | 637,378,981 | 6,582,764,326 |
| 当期一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額 | 637,378,981 | 6,582,764,326 |
| 当期追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額 | - | - |
| 分配金 | 391,195,052 | 1,572,652,291 |
| 期末剰余金又は期末欠損金() | 1,592,285,026 | 17,616,560,081 |

（ 3 ）【注記表】

（重要な会計方針に係る事項に関する注記）

| 項目 | 第18期計算期間 (自 平成29年 2月25日 至 平成30年 2月26日) |
|-------------------|---|
| 1 有価証券の評価基準及び評価方法 | 株式 原則として時価で評価しております。 |
| 2 収益・費用の計上基準 | 受取配当金 受取配当金は、原則として配当落ち日において、確定配当金額又は予想配当金額を計上しております。 有価証券売買等損益 約定日基準で計上しております。 |
| 3 その他 | 当ファンドの計算期間は期末が休日のため、平成29年 2月25日から平成30年 2月26日までとなっております。 |

（貸借対照表に関する注記）

| 第17期計算期間 (平成29年 2月24日現在) | | 第18期計算期間 (平成30年 2月26日現在) | |
|-----------------------------|---|-----------------------------|---|
| 1 | 計算期間末日における受益権の総数 3,911,950,525口 | 1 | 計算期間末日における受益権の総数 15,726,522,911口 |
| 2 | 計算期間末日における1単位当たりの純資産の額 1口当たり純資産の額 1.4070円 (1万口当たり純資産の額) (14,070円) | 2 | 計算期間末日における1単位当たりの純資産の額 1口当たり純資産の額 2.1202円 (1万口当たり純資産の額) (21,202円) |

（損益及び剰余金計算書に関する注記）

| 第17期計算期間 (自 平成28年 2月25日 至 平成29年 2月24日) | 第18期計算期間 (自 平成29年 2月25日 至 平成30年 2月26日) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|--|-----------------|----|-------|---|-------------|-----------|---|--------------|-------|---|--------------|---------|---|-------------|-------|-----------|----------------|-------|---|--------------|--|----|---|----|-------|---|-------------|-----------|---|----------------|-------|---|-----------------|---------|---|--------------|-------|-----------|-----------------|-------|---|----------------|
| <p>1 分配金の計算過程</p> <p>計算期間末における費用控除後の配当等収益(35,666,990円)、有価証券売買等損益(940,547,015円)、収益調整金(949,664,579円)、分配準備積立金(57,601,494円)より、分配対象収益は1,983,480,078円(1万口当たり5,070円)であり、うち391,195,052円(1万口当たり1,000円)を分配金額としております。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">項目</th> <th style="text-align: center;">A</th> <th style="text-align: right;">金額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>配当等収益</td> <td style="text-align: center;">A</td> <td style="text-align: right;">35,666,990円</td> </tr> <tr> <td>有価証券売買等損益</td> <td style="text-align: center;">B</td> <td style="text-align: right;">940,547,015円</td> </tr> <tr> <td>収益調整金</td> <td style="text-align: center;">C</td> <td style="text-align: right;">949,664,579円</td> </tr> <tr> <td>分配準備積立金</td> <td style="text-align: center;">D</td> <td style="text-align: right;">57,601,494円</td> </tr> <tr> <td>分配可能額</td> <td style="text-align: center;">E=A+B+C+D</td> <td style="text-align: right;">1,983,480,078円</td> </tr> <tr> <td>収益分配額</td> <td style="text-align: center;">F</td> <td style="text-align: right;">391,195,052円</td> </tr> </tbody> </table> | 項目 | A | 金額 | 配当等収益 | A | 35,666,990円 | 有価証券売買等損益 | B | 940,547,015円 | 収益調整金 | C | 949,664,579円 | 分配準備積立金 | D | 57,601,494円 | 分配可能額 | E=A+B+C+D | 1,983,480,078円 | 収益分配額 | F | 391,195,052円 | <p>1 分配金の計算過程</p> <p>計算期間末における費用控除後の配当等収益(78,035,109円)、有価証券売買等損益(3,854,839,686円)、収益調整金(15,093,993,364円)、分配準備積立金(162,344,213円)より、分配対象収益は19,189,212,372円(1万口当たり12,201円)であり、うち1,572,652,291円(1万口当たり1,000円)を分配金額としております。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">項目</th> <th style="text-align: center;">A</th> <th style="text-align: right;">金額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>配当等収益</td> <td style="text-align: center;">A</td> <td style="text-align: right;">78,035,109円</td> </tr> <tr> <td>有価証券売買等損益</td> <td style="text-align: center;">B</td> <td style="text-align: right;">3,854,839,686円</td> </tr> <tr> <td>収益調整金</td> <td style="text-align: center;">C</td> <td style="text-align: right;">15,093,993,364円</td> </tr> <tr> <td>分配準備積立金</td> <td style="text-align: center;">D</td> <td style="text-align: right;">162,344,213円</td> </tr> <tr> <td>分配可能額</td> <td style="text-align: center;">E=A+B+C+D</td> <td style="text-align: right;">19,189,212,372円</td> </tr> <tr> <td>収益分配額</td> <td style="text-align: center;">F</td> <td style="text-align: right;">1,572,652,291円</td> </tr> </tbody> </table> | 項目 | A | 金額 | 配当等収益 | A | 78,035,109円 | 有価証券売買等損益 | B | 3,854,839,686円 | 収益調整金 | C | 15,093,993,364円 | 分配準備積立金 | D | 162,344,213円 | 分配可能額 | E=A+B+C+D | 19,189,212,372円 | 収益分配額 | F | 1,572,652,291円 |
| 項目 | A | 金額 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 配当等収益 | A | 35,666,990円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 有価証券売買等損益 | B | 940,547,015円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 収益調整金 | C | 949,664,579円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 分配準備積立金 | D | 57,601,494円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 分配可能額 | E=A+B+C+D | 1,983,480,078円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 収益分配額 | F | 391,195,052円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 項目 | A | 金額 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 配当等収益 | A | 78,035,109円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 有価証券売買等損益 | B | 3,854,839,686円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 収益調整金 | C | 15,093,993,364円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 分配準備積立金 | D | 162,344,213円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 分配可能額 | E=A+B+C+D | 19,189,212,372円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 収益分配額 | F | 1,572,652,291円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

(金融商品に関する注記)

1. 金融商品の状況に関する事項

| 項目 | 第17期計算期間 (自 平成28年 2月25日 至 平成29年 2月24日) | 第18期計算期間 (自 平成29年 2月25日 至 平成30年 2月26日) |
|-------------------------|---|--|
| 1 金融商品に対する取組方針 | 当ファンドは、投資信託及び投資法人に関する法律第2条第4項に定める投資を目的とする証券投資信託であり、証券投資信託約款および投資ガイドラインに基づいて運用しております。 | 同左 |
| 2 金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク | 当ファンドが保有する金融商品の種類は、有価証券、コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務であります。なお、詳細は附属明細表をご参照下さい。これらは、市場リスク(価格変動リスク、為替変動リスク、金利変動リスク)、信用リスク、及び流動性リスクを有しております。 | 同左 |

| 項目 | 第17期計算期間 (自平成28年2月25日 至平成29年2月24日) | 第18期計算期間 (自平成29年2月25日 至平成30年2月26日) |
|---------------------------|--|--|
| 3 金融商品に係るリスク管理体制 | <p>運用担当部署から独立したコンプライアンス・リスク管理担当部署が、運用リスクを把握、管理し、その結果に基づき運用担当部署へ対応の指示等を行うことにより、適切な管理を行います。</p> <p>リスク管理に関する委員会等はこれらの運用リスク管理状況の報告を受け、総合的な見地から運用状況全般の管理を行います。</p> <p>なお、具体的には以下のリスクの管理を行っております。</p> <p>市場リスクの管理 市場リスクに関しては、資産配分等の状況を常時、分析・把握し、投資方針に沿っているか等の管理を行っております。</p> <p>信用リスクの管理 信用リスクに関しては、発行体や取引先の財務状況等に関する情報収集・分析を常時継続し、格付等の信用度に応じた組入制限等の管理を行っております。</p> <p>流動性リスクの管理 流動性リスクに関しては、必要に応じて市場流動性の状況を把握し、取引量や組入比率等の管理を行っております。</p> | 同左 |
| 4 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明 | <p>金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には、合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。</p> <p>また、デリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。</p> | 同左 |

2. 金融商品の時価等に関する事項

| 項目 | 第17期計算期間 (平成29年 2月24日現在) | 第18期計算期間 (平成30年 2月26日現在) |
|--------------------------------------|---|--|
| 1 貸借対照表日における貸借対照表の科目ごとの計上額・時価・時価との差額 | 貸借対照表に計上している金融商品は、原則として時価評価としているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。 | 同左 |
| 2 貸借対照表の科目ごとの時価の算定方法 | <p>(1) 有価証券</p> <p>株式</p> <p>わが国の金融商品取引所または海外取引所に上場されている有価証券 当該有価証券については、原則として上記の取引所における計算期間末日の最終相場（外貨建証券の場合は計算期間末日において知りうる直近の日の最終相場）で評価しております。</p> <p>時価が入手できなかった有価証券 適正な評価額を入手できない場合または入手した評価額が時価と認定できない事由が認められた場合は、委託会社が忠実義務に基づいて合理的事由をもって時価と認められた価額もしくは受託者と協議のうえ両者が合理的事由をもって時価と認められた価額で評価しております。</p> <p>(2) コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務</p> <p>コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務は短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。</p> | <p>(1) 有価証券</p> <p>株式</p> <p>同左</p> <p>(2) コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務</p> <p>同左</p> |

（有価証券に関する注記）

売買目的有価証券

第17期計算期間(自 平成28年 2月25日 至 平成29年 2月24日)

| 種類 | 当計算期間の損益に含まれた評価差額（円） |
|----|----------------------|
| 株式 | 1,081,648,291 |
| 合計 | 1,081,648,291 |

第18期計算期間(自 平成29年 2月25日 至 平成30年 2月26日)

| 種類 | 当計算期間の損益に含まれた評価差額(円) |
|----|----------------------|
| 株式 | 5,634,234,680 |
| 合計 | 5,634,234,680 |

(デリバティブ取引等に関する注記)

該当事項はありません。

(関連当事者との取引に関する注記)

| 第17期計算期間 (自平成28年2月25日 至平成29年2月24日) | 第18期計算期間 (自平成29年2月25日 至平成30年2月26日) |
|--|--|
| 市場価格その他当該取引に係る価格を勘案して、一般の取引条件と異なる関連当事者との取引は行われていないため、該当事項はありません。 | 同左 |

(その他の注記)

| 期別 | 第17期計算期間 (平成29年2月24日現在) | 第18期計算期間 (平成30年2月26日現在) |
|-----------|----------------------------|----------------------------|
| 項目 | | |
| 期首元本額 | 3,230,611,915円 | 3,911,950,525円 |
| 期中追加設定元本額 | 4,147,591,730円 | 21,779,943,242円 |
| 期中一部解約元本額 | 3,466,253,120円 | 9,965,370,856円 |

(4)【附属明細表】

第1 有価証券明細表
(1)株式

(平成30年2月26日現在)

| 通貨 | 銘柄 | 株式数 | 評価額 | | 備考 |
|------|-------------------|---------|----------|-------------|----|
| | | | 単価 | 金額 | |
| 日本・円 | ヨシムラ・フード・ホールディングス | 84,000 | 1,707.00 | 143,388,000 | |
| | ニッポン高度紙工業 | 107,000 | 3,055.00 | 326,885,000 | |
| | クレハ | 52,000 | 7,590.00 | 394,680,000 | |
| | 保土谷化学工業 | 44,500 | 4,885.00 | 217,382,500 | |
| | トリケミカル研究所 | 74,000 | 5,260.00 | 389,240,000 | |

| | | | |
|-------------------|---------|-----------|-------------|
| メック | 131,000 | 1,784.00 | 233,704,000 |
| 栄研化学 | 62,000 | 5,130.00 | 318,060,000 |
| JCRファーマ | 76,000 | 5,410.00 | 411,160,000 |
| サンバイオ | 91,000 | 3,900.00 | 354,900,000 |
| MARUWA | 45,900 | 8,420.00 | 386,478,000 |
| RS Technologies | 56,000 | 8,080.00 | 452,480,000 |
| 三浦工業 | 131,000 | 3,035.00 | 397,585,000 |
| ディスコ | 6,400 | 24,650.00 | 157,760,000 |
| エステック | 23,000 | 4,490.00 | 103,270,000 |
| ヤマシンフィルタ | 235,000 | 1,328.00 | 312,080,000 |
| タツモ | 82,000 | 2,014.00 | 165,148,000 |
| ナプテスコ | 64,000 | 4,525.00 | 289,600,000 |
| 技研製作所 | 125,200 | 2,914.00 | 364,832,800 |
| TOWA | 151,500 | 1,691.00 | 256,186,500 |
| 日本電産 | 16,800 | 16,755.00 | 281,484,000 |
| ユー・エム・シー・エレクトロニクス | 116,100 | 2,872.00 | 333,439,200 |
| トレックス・セミコンダクター | 48,000 | 1,672.00 | 80,256,000 |
| タムラ製作所 | 392,000 | 819.00 | 321,048,000 |
| アルプス電気 | 111,000 | 2,841.00 | 315,351,000 |
| ヨコオ | 207,100 | 2,139.00 | 442,986,900 |
| マクセルホールディングス | 144,000 | 2,132.00 | 307,008,000 |
| スミダコーポレーション | 148,000 | 1,657.00 | 245,236,000 |
| 本多通信工業 | 160,000 | 1,224.00 | 195,840,000 |
| 精工技研 | 41,000 | 1,857.00 | 76,137,000 |
| 日置電機 | 127,000 | 3,510.00 | 445,770,000 |
| イリソ電子工業 | 36,400 | 7,010.00 | 255,164,000 |
| レーザーテック | 61,200 | 4,275.00 | 261,630,000 |
| 日本セラミック | 88,500 | 2,915.00 | 257,977,500 |
| 芝浦電子 | 78,500 | 5,560.00 | 436,460,000 |
| 太陽誘電 | 219,000 | 1,839.00 | 402,741,000 |
| ノーリツ鋼機 | 170,000 | 2,447.00 | 415,990,000 |
| 朝日インテック | 104,500 | 3,965.00 | 414,342,500 |
| NISSHA | 57,000 | 2,907.00 | 165,699,000 |
| デジタルアーツ | 95,700 | 3,945.00 | 377,536,500 |
| エイジア | 154,000 | 1,548.00 | 238,392,000 |
| ブレインパッド | 117,000 | 2,393.00 | 279,981,000 |
| オークファン | 136,000 | 800.00 | 108,800,000 |
| フィックスターズ | 61,000 | 8,340.00 | 508,740,000 |
| オプティム | 78,000 | 2,472.00 | 192,816,000 |
| セック | 126,000 | 3,375.00 | 425,250,000 |
| GMOペイメントゲートウェイ | 40,300 | 9,010.00 | 363,103,000 |
| インフォテリア | 300,000 | 1,260.00 | 378,000,000 |

| | | | |
|--------------------|---------|----------|-------------|
| マークライズ | 159,000 | 2,036.00 | 323,724,000 |
| メディカル・データ・ビジョン | 82,000 | 3,275.00 | 268,550,000 |
| パイブドHD | 205,000 | 1,485.00 | 304,425,000 |
| ダブルスタンダード | 17,000 | 8,990.00 | 152,830,000 |
| オープンドア | 134,500 | 2,302.00 | 309,619,000 |
| はてな | 71,800 | 1,736.00 | 124,644,800 |
| ユーザベース | 10,000 | 1,901.00 | 19,010,000 |
| マクロミル | 112,000 | 2,895.00 | 324,240,000 |
| オロ | 173,000 | 2,376.00 | 411,048,000 |
| デジタルガレージ | 51,000 | 3,240.00 | 165,240,000 |
| スカラ | 313,600 | 873.00 | 273,772,800 |
| ネットワンシステムズ | 250,000 | 1,623.00 | 405,750,000 |
| ゼンリン | 105,000 | 3,450.00 | 362,250,000 |
| ビジネスブレイン太田昭和 | 52,200 | 1,929.00 | 100,693,800 |
| ラクーン | 440,000 | 758.00 | 333,520,000 |
| シークス | 88,500 | 5,060.00 | 447,810,000 |
| ミスミグループ本社 | 93,000 | 3,105.00 | 288,765,000 |
| スタートトゥデイ | 76,500 | 2,904.00 | 222,156,000 |
| ウエルシアホールディングス | 75,000 | 4,735.00 | 355,125,000 |
| ロコンド | 150,000 | 1,254.00 | 188,100,000 |
| ユニフォームネクスト | 37,300 | 4,370.00 | 163,001,000 |
| ジャパンインベストメントアドバイザー | 110,000 | 4,385.00 | 482,350,000 |
| アニコムホールディングス | 69,500 | 3,470.00 | 241,165,000 |
| イー・ギャランティ | 83,600 | 4,115.00 | 344,014,000 |
| 日本管理センター | 220,200 | 1,757.00 | 386,891,400 |
| 毎日コムネット | 213,000 | 1,080.00 | 230,040,000 |
| 日本M&Aセンター | 35,800 | 6,840.00 | 244,872,000 |
| アイティメディア | 267,000 | 698.00 | 186,366,000 |
| FRONTEO | 156,000 | 765.00 | 119,340,000 |
| GCA | 322,000 | 958.00 | 308,476,000 |
| エス・エム・エス | 108,000 | 4,345.00 | 469,260,000 |
| ベネフィット・ワン | 155,600 | 2,753.00 | 428,366,800 |
| ブラップジャパン | 136,000 | 1,536.00 | 208,896,000 |
| オールアバウト | 177,400 | 1,459.00 | 258,826,600 |
| バリューコマース | 430,000 | 1,339.00 | 575,770,000 |
| インフォマート | 211,000 | 928.00 | 195,808,000 |
| 山田コンサルティンググループ | 54,000 | 2,901.00 | 156,654,000 |
| エン・ジャパン | 72,800 | 5,810.00 | 422,968,000 |
| Gunosy | 156,900 | 2,669.00 | 418,766,100 |
| デザインワン・ジャパン | 181,300 | 1,156.00 | 209,582,800 |
| イトクロ | 62,300 | 6,740.00 | 419,902,000 |
| イー・ガーディアン | 122,000 | 3,280.00 | 400,160,000 |

| | | | | | |
|----|-------------------------|------------|----------|--------------------------|--|
| | ジャパンマテリアル | 349,500 | 1,430.00 | 499,785,000 | |
| | ベクトル | 204,000 | 2,183.00 | 445,332,000 | |
| | アライドアーキテクト | 169,100 | 1,076.00 | 181,951,600 | |
| | シグマクシス | 297,000 | 1,715.00 | 509,355,000 | |
| | フリークアウト・ホールディングス | 90,400 | 1,811.00 | 163,714,400 | |
| | エラン | 43,000 | 1,550.00 | 66,650,000 | |
| | 鎌倉新書 | 105,000 | 2,309.00 | 242,445,000 | |
| | ソネット・メディア・ネットワークス | 115,000 | 4,440.00 | 510,600,000 | |
| | LITALICO | 118,000 | 1,724.00 | 203,432,000 | |
| | ストライク | 68,000 | 6,310.00 | 429,080,000 | |
| | キャリア | 30,000 | 3,250.00 | 97,500,000 | |
| | インソース | 70,000 | 3,610.00 | 252,700,000 | |
| | キャリアインデックス | 68,200 | 2,161.00 | 147,380,200 | |
| | MS - Japan | 66,500 | 6,410.00 | 426,265,000 | |
| | ソウルドアウト | 97,000 | 3,615.00 | 350,655,000 | |
| | リログループ | 107,000 | 3,045.00 | 325,815,000 | |
| | 東祥 | 108,000 | 4,035.00 | 435,780,000 | |
| | 船井総研ホールディングス | 178,600 | 2,118.00 | 378,274,800 | |
| 小計 | 銘柄数：107 組入時価比率：96.3% | 13,400,700 | | 32,121,462,500 100.0% | |
| 合計 | | 13,400,700 | | 32,121,462,500 | |

(注1) 比率は左より組入時価の純資産総額に対する比率、及び各小計欄の合計金額に対する比率であります。

(2) 株式以外の有価証券

該当事項はありません。

第2 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

第3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

2【ファンドの現況】

以下のファンドの現況は平成30年 2月28日現在です。

【純資産額計算書】

| | |
|----------------|-----------------|
| 資産総額 | 39,630,655,038円 |
| 負債総額 | 2,988,350,592円 |
| 純資産総額（ - ） | 36,642,304,446円 |
| 発行済口数 | 17,005,765,870口 |
| 1口当たり純資産額（ / ） | 2.1547円 |

第4【内国投資信託受益証券事務の概要】

(1) 受益証券の名義書換

該当事項はありません。

ファンドの受益権の帰属は、振替機関等の振替口座簿に記載または記録されることにより定まります。委託会社は、この信託の受益権を取り扱う振替機関が社振法の規定により主務大臣の指定を取り消された場合または当該指定が効力を失った場合であって、当該振替機関の振替業を承継する者が存在しない場合その他やむを得ない事情がある場合を除き、当該振替受益権を表示する受益証券を発行しません。

なお、受益者は、委託会社がやむを得ない事情等により受益証券を発行する場合を除き、無記名式受益証券から記名式受益証券への変更の請求、記名式受益証券から無記名式受益証券への変更の請求、受益証券の再発行の請求を行わないものとします。

(2) 受益者等名簿

該当事項はありません。

(3) 受益者に対する特典

該当事項はありません。

(4) 受益権の譲渡制限

譲渡制限はありません。

受益者は、その保有する受益権を譲渡する場合には、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿にかかる振替機関等に振替の申請をするものとします。

上記の申請のある場合には、上記の振替機関等は、当該譲渡にかかる譲渡人の保有する受益権の口数の減少および譲受人の保有する受益権の口数の増加につき、その備える振替口座簿に記載または記録するものとします。ただし、上記の振替機関等が振替先口座を開設したものでない場合には、譲受人の振替先口座を開設した他の振替機関等（当該他の振替機関等の上位機関を含みます。）に社振法の規定にしたがい、譲受人の振替先口座に受益権の口数の増加の記載または記録が行われるよう通知するものとします。

上記の振替について、委託会社は、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されて

いる振替口座簿にかかる振替機関等と譲受人の振替先口座を開設した振替機関等が異なる場合等において、委託会社が必要と認めるときまたはやむを得ない事情があると判断したときは、振替停止日や振替停止期間を設けることができます。

(5) 受益権の譲渡の対抗要件

受益権の譲渡は、振替口座簿への記載または記録によらなければ、委託会社および受託会社に対抗することができません。

(6) 受益権の再分割

委託会社は、社振法に定めるところにしたがい、受託会社と協議のうえ、一定日現在の受益権を均等に再分割できるものとします。

(7) 質権口記載又は記録の受益権の取り扱いについて

振替機関等の振替口座簿の質権口に記載または記録されている受益権にかかる収益分配金の支払い、一部解約の実行の請求の受付、一部解約金および償還金の支払い等については、約款の規定によるほか、民法その他の法令等にしたがって取り扱われます。

第二部【委託会社等の情報】

第1【委託会社等の概況】

1【委託会社等の概況】

(1) 資本金の額（平成30年 2月28日現在）

| | |
|------------|--|
| 資本金の額 | 20億円 |
| 発行する株式総数 | 100,000株 (普通株式 上限100,000株、A種種類株式 上限30,000株) |
| 発行済株式総数 | 40,000株 (普通株式24,490株、A種種類株式15,510株) |
| 種類株式の発行が可能 | |

直近5カ年の資本金の増減：該当事項はありません。

(2) 会社の機構（平成30年 2月28日現在）

会社の意思決定機構

業務執行上重要な事項は、取締役会の決議をもって決定します。

取締役は株主総会で選任されます。取締役（監査等委員である取締役を除く。）の任期は、その選任後1年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結の時までとし、任期の満了前に退任した取締役（監査等委員である取締役を除く。）の補欠として選任された取締役（監査等委員である取締役を除く。）の任期は、現任取締役（監査等委員である取締役を除く。）の任期の満了の時までとします。

また、監査等委員である取締役の任期は、その選任後2年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結の時までとし、任期の満了前に退任した監査等委員である取締役の補欠として選任された監査等委員である取締役の任期は、退任した監査等委員である取締役の任期の満了の時までとします。

取締役会は、決議によって代表取締役を選定します。代表取締役は、会社を代表し、取締役会の決議にしたがい業務を執行します。

また、取締役会の決議によって、取締役社長を定めることができます。

取締役会は、法令に別段の定めがある場合を除き、原則として取締役社長が招集します。取締役会の議長は、原則として取締役社長があたります。

取締役会の決議は、法令に別段の定めがある場合を除き、議決に加わることができる取締役の過半数が出席し、出席取締役の過半数をもって行います。

投資運用の意思決定機構

1. 投資環境見通しおよび運用方針の策定

経済環境見通し、資産別市場見通し、資産配分方針および資産別運用方針は月次で開催する「投資環境会議」および「投資方針会議」にて協議、策定致します。これらの会議は運用本部長・副本部長、運用グループ長等で構成されます。

2. 運用計画、売買計画の決定

各ファンドの運用は「投資環境会議」および「投資方針会議」における協議の内容を踏まえて、ファンド毎に個別に任命された運用担当者が行います。運用担当者は月次で運用計画書を作成し、運用本部長の承認を受けます。運用担当者は承認を受けた運用計画に基づき、運用を行います。

2【事業の内容及び営業の概況】

「投資信託及び投資法人に関する法律」に定める投資信託委託会社である委託会社は、投資信託の設定を行うとともに「金融商品取引法」に定める金融商品取引業者としてその運用（投資運用業）ならびにその受益証券（受益権）の募集又は私募（第二種金融商品取引業）を行っています。また、「金融商品取引法」に定める投資助言・代理業を行っています。

平成30年2月28日現在、委託会社の運用する投資信託は以下の通りです。（親投資信託を除く）

| 基本的性格 | 本数 | 純資産総額（単位：円） |
|------------|-------|--------------------|
| 追加型公社債投資信託 | 38 | 1,257,720,530,964 |
| 追加型株式投資信託 | 857 | 12,384,185,355,140 |
| 単位型公社債投資信託 | 55 | 221,953,626,069 |
| 単位型株式投資信託 | 138 | 898,562,479,964 |
| 合計 | 1,088 | 14,762,421,992,137 |

3【委託会社等の経理状況】

1．委託会社であるアセットマネジメントOne株式会社（以下「委託会社」という。）の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）ならびに同規則第2条の規定に基づき、「金融商品取引業等に関する内閣府令」（平成19年8月6日内閣府令第52号）により作成しております。

また、中間財務諸表は、「中間財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和52年大蔵省令第38号）、ならびに同規則第38条及び第57条の規定に基づき、「金融商品取引業等に関する内閣府令」（平成19年8月6日内閣府令第52号）により作成しております。

2．財務諸表及び中間財務諸表の金額は、千円未満の端数を切り捨てて記載しております。

3．委託会社は、第32期事業年度（自平成28年4月1日至平成29年3月31日）の財務諸表について、新日本有限責任監査法人の監査を受け、第33期中間会計期間（自平成29年4月1日至平成29年9月30日）の中間財務諸表について、新日本有限責任監査法人の中間監査を受けております。

（1）【貸借対照表】

（単位：千円）

| | 第31期 （平成28年3月31日現在） | 第32期 （平成29年3月31日現在） |
|--|------------------------|------------------------|
| | | |

| （資産の部） | | | |
|-------------|-------|------------|------------|
| 流動資産 | | | |
| 現金・預金 | | 12,951,736 | 27,972,477 |
| 金銭の信託 | | 13,094,914 | 12,366,219 |
| 有価証券 | | - | 297,560 |
| 未収委託者報酬 | | 4,460,404 | 10,164,041 |
| 未収運用受託報酬 | | 1,859,778 | 7,250,239 |
| 未収投資助言報酬 | | 277,603 | 316,414 |
| 未収収益 | | 205,097 | 52,278 |
| 前払費用 | | 44,951 | 533,411 |
| 繰延税金資産 | | 341,078 | 678,104 |
| その他 | | 40,689 | 445,717 |
| | 流動資産計 | 33,276,255 | 60,076,462 |
| 固定資産 | | | |
| 有形固定資産 | | 658,607 | 1,900,343 |
| 建物 | 1 | 29,219 | 1,243,812 |
| 車両運搬具 | 1 | 549 | - |
| 器具備品 | 1 | 184,683 | 656,235 |
| 建設仮勘定 | | 444,155 | 295 |
| 無形固定資産 | | 1,706,201 | 1,614,084 |
| 商標権 | | 7 | 5 |
| ソフトウェア | | 1,645,861 | 1,511,558 |
| ソフトウェア仮勘定 | | 53,036 | 98,483 |
| 電話加入権 | | 7,148 | 3,934 |
| 電信電話専用施設利用権 | | 146 | 103 |
| 投資その他の資産 | | 6,497,772 | 10,055,336 |
| 投資有価証券 | | 458,701 | 3,265,786 |
| 関係会社株式 | | 3,229,196 | 3,306,296 |
| 長期差入保証金 | | 2,040,945 | 1,800,827 |
| 前払年金費用 | | - | 686,322 |
| 繰延税金資産 | | 679,092 | 893,887 |
| その他 | | 89,835 | 102,215 |
| | 固定資産計 | 8,862,580 | 13,569,764 |
| | 資産合計 | 42,138,836 | 73,646,227 |

（単位：千円）

| | 第31期 （平成28年3月31日現在） | 第32期 （平成29年3月31日現在） |
|--------|------------------------|------------------------|
| （負債の部） | | |
| 流動負債 | | |
| 預り金 | 966,681 | 1,169,128 |

| | | |
|--------------|------------|------------|
| 未払金 | 2,055,332 | 4,745,195 |
| 未払収益分配金 | - | 1,027 |
| 未払償還金 | 49,873 | 57,332 |
| 未払手数料 | 1,744,274 | 4,062,695 |
| その他未払金 | 261,185 | 624,140 |
| 未払費用 | 3,076,566 | 7,030,589 |
| 未払法人税等 | 1,223,957 | 1,915,556 |
| 未払消費税等 | 352,820 | 891,476 |
| 賞与引当金 | 728,769 | 1,432,264 |
| 役員賞与引当金 | - | 27,495 |
| 流動負債計 | 8,404,128 | 17,211,706 |
| 固定負債 | | |
| 退職給付引当金 | 997,396 | 1,305,273 |
| 役員退職慰労引当金 | 154,535 | - |
| 時効後支払損引当金 | - | 216,466 |
| 本社移転費用引当金 | - | 942,315 |
| 固定負債計 | 1,151,932 | 2,464,055 |
| 負債合計 | 9,556,060 | 19,675,761 |
| (純資産の部) | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 2,000,000 | 2,000,000 |
| 資本剰余金 | 2,428,478 | 19,552,957 |
| 資本準備金 | 2,428,478 | 2,428,478 |
| その他資本剰余金 | - | 17,124,479 |
| 利益剰余金 | 28,000,340 | 31,899,643 |
| 利益準備金 | 123,293 | 123,293 |
| その他利益剰余金 | 27,877,047 | 31,776,350 |
| 別途積立金 | 22,030,000 | 24,580,000 |
| 研究開発積立金 | 300,000 | 300,000 |
| 運用責任準備積立金 | 200,000 | 200,000 |
| 繰越利益剰余金 | 5,347,047 | 6,696,350 |
| 株主資本計 | 32,428,818 | 53,452,601 |
| 評価・換算差額等 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 153,956 | 517,864 |
| 評価・換算差額等計 | 153,956 | 517,864 |
| 純資産合計 | 32,582,775 | 53,970,465 |
| 負債・純資産合計 | 42,138,836 | 73,646,227 |

(2)【損益計算書】

(単位:千円)

| | 第31期 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日) | | 第32期 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日) | |
|--------------|---------------------------------------|------------|---------------------------------------|------------|
| | 営業収益 | | | |
| 委託者報酬 | 30,188,445 | | 56,355,754 | |
| 運用受託報酬 | 7,595,678 | | 12,834,241 | |
| 投資助言報酬 | 993,027 | | 1,002,482 | |
| その他営業収益 | 724,211 | | 378,715 | |
| 営業収益計 | | 39,501,363 | | 70,571,194 |
| 営業費用 | | | | |
| 支払手数料 | 12,946,176 | | 24,957,038 | |
| 広告宣伝費 | 468,931 | | 838,356 | |
| 公告費 | 258 | | 991 | |
| 調査費 | 7,616,390 | | 15,105,578 | |
| 調査費 | 4,969,812 | | 7,780,474 | |
| 委託調査費 | 2,646,578 | | 7,325,104 | |
| 委託計算費 | 412,257 | | 891,379 | |
| 営業雑経費 | 548,183 | | 1,102,921 | |
| 通信費 | 34,855 | | 51,523 | |
| 印刷費 | 436,756 | | 926,453 | |
| 協会費 | 23,698 | | 37,471 | |
| 諸会費 | 40 | | 74 | |
| 支払販売手数料 | 52,833 | | 87,399 | |
| 営業費用計 | | 21,992,198 | | 42,896,265 |
| 一般管理費 | | | | |
| 給料 | 5,382,757 | | 8,517,089 | |
| 役員報酬 | 242,446 | | 220,145 | |
| 給料・手当 | 4,431,015 | | 7,485,027 | |
| 賞与 | 709,295 | | 811,916 | |
| 交際費 | 43,975 | | 66,813 | |
| 寄付金 | 2,628 | | 13,467 | |
| 旅費交通費 | 254,276 | | 297,237 | |
| 租税公課 | 180,892 | | 430,779 | |
| 不動産賃借料 | 1,128,367 | | 1,961,686 | |
| 退職給付費用 | 226,460 | | 358,960 | |
| 固定資産減価償却費 | 902,248 | | 825,593 | |
| 福利厚生費 | 36,173 | | 39,792 | |
| 修繕費 | 31,617 | | 27,435 | |
| 賞与引当金繰入額 | 728,769 | | 1,432,264 | |
| 役員賞与引当金繰入額 | - | | 27,495 | |
| 役員退職慰労引当金繰入額 | 49,320 | | - | |
| 役員退職慰労金 | 5,250 | | 63,072 | |
| 機器リース料 | 140 | | 210 | |
| 事務委託費 | 251,913 | | 1,530,113 | |
| 事務用消耗品費 | 70,839 | | 127,265 | |
| 器具備品費 | 14,182 | | 271,658 | |
| 諸経費 | 214,532 | | 129,981 | |
| 一般管理費計 | | 9,524,346 | | 16,120,918 |
| 営業利益 | | 7,984,819 | | 11,554,010 |

(単位:千円)

| | 第31期 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日) | | 第32期 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日) | |
|-------------|---------------------------------------|--|---------------------------------------|--|
| | 営業外収益 | | | |
| 受取利息 | 2,079 | | 537 | |
| 受取配当金 | 25,274 | | 51,036 | |
| 時効成立分配金・償還金 | - | | 103 | |

| | | | | | |
|----------------|---|---------|-----------|-----------|------------|
| 為替差益 | | 3,996 | | 7,025 | |
| 投資信託解約益 | | - | | 2 | |
| 雑収入 | 1 | 6,693 | 1 | 18,213 | |
| 営業外収益計 | | | 38,044 | | 76,918 |
| 営業外費用 | | | | | |
| 投資信託解約損 | | - | | 31,945 | |
| 投資信託償還損 | | - | | 47,201 | |
| 金銭の信託運用損 | | 305,368 | | 552,635 | |
| 時効成立後支払分配金・償還金 | | - | | 39 | |
| 時効後支払損引当金繰入額 | | - | | 209,210 | |
| 営業外費用計 | | | 305,368 | | 841,031 |
| 経常利益 | | | 7,717,494 | | 10,789,897 |
| 特別利益 | | | | | |
| 固定資産売却益 | 2 | - | 2 | 2,348 | |
| 投資有価証券売却益 | | 3,377 | | - | |
| 貸倒引当金戻入益 | | - | | 8,883 | |
| 訴訟損失引当金戻入益 | | - | | 21,677 | |
| その他特別利益 | | - | | 746 | |
| 特別利益計 | | | 3,377 | | 33,655 |
| 特別損失 | | | | | |
| 固定資産除却損 | 3 | 624 | 3 | 23,600 | |
| 固定資産売却損 | 4 | 2,653 | 4 | 10,323 | |
| 投資有価証券評価損 | | - | | 12,085 | |
| ゴルフ会員権評価損 | | 6,307 | | 4,832 | |
| 訴訟和解金 | | - | | 30,000 | |
| 本社移転費用 | 5 | - | 5 | 1,511,622 | |
| 特別損失計 | | | 9,584 | | 1,592,463 |
| 税引前当期純利益 | | | 7,711,286 | | 9,231,089 |
| 法人税、住民税及び事業税 | | | 2,557,305 | | 2,965,061 |
| 法人税等調整額 | | | 27,424 | | 177,275 |
| 法人税等合計 | | | 2,584,730 | | 2,787,786 |
| 当期純利益 | | | 5,126,556 | | 6,443,302 |

(3) 【株主資本等変動計算書】

第31期(自平成27年4月1日至平成28年3月31日)

(単位:千円)

| | 株主資本 | | | |
|--|-------|--|-------|----------|
| | 資本剰余金 | | 利益剰余金 | |
| | | | | その他利益剰余金 |
| | | | | |

| | 資本金 | 資本準備金 | その他 資本剰余金 | 資本剰余金 合計 | 利益 準備金 | 別途 積立金 | 研究開発 積立金 | 運用責 任準備 積立金 | 繰越利益 剰余金 |
|-----------------------------|-----------|-----------|--------------|-------------|-----------|------------|-------------|-------------------|-------------|
| 当期首残高 | 2,000,000 | 2,428,478 | - | 2,428,478 | 123,293 | 19,480,000 | 300,000 | 200,000 | 5,314,491 |
| 当期変動額 | | | | | | | | | |
| 剰余金の配当 | | | | | | | | | 2,544,000 |
| 別途積立金の 積立 | | | | | | 2,550,000 | | | 2,550,000 |
| 当期純利益 | | | | | | | | | 5,126,556 |
| 株主資本以外の 項目の当期変動 額(純額) | | | | | | | | | |
| 当期変動額合計 | - | - | - | - | - | 2,550,000 | - | - | 32,556 |
| 当期末残高 | 2,000,000 | 2,428,478 | - | 2,428,478 | 123,293 | 22,030,000 | 300,000 | 200,000 | 5,347,047 |

| | 株主資本 | | 評価・換算差額等 | | 純資産 合計 |
|-----------------------------|-------------|------------|----------------------|----------------|------------|
| | 利益剰余金 | 株主資本 合計 | その他 有価証券 評価差額金 | 評価・換算 差額等合計 | |
| | 利益剰余金 合計 | | | | |
| 当期首残高 | 25,417,784 | 29,846,262 | 252,905 | 252,905 | 30,099,168 |
| 当期変動額 | | | | | |
| 剰余金の配当 | 2,544,000 | 2,544,000 | | | 2,544,000 |
| 別途積立金の 積立 | - | - | | | - |
| 当期純利益 | 5,126,556 | 5,126,556 | | | 5,126,556 |
| 株主資本以外の 項目の当期変動 額(純額) | | | 98,949 | 98,949 | 98,949 |
| 当期変動額合計 | 2,582,556 | 2,582,556 | 98,949 | 98,949 | 2,483,607 |
| 当期末残高 | 28,000,340 | 32,428,818 | 153,956 | 153,956 | 32,582,775 |

第32期（自平成28年4月1日至平成29年3月31日）

（単位：千円）

| | 株主資本 | | | | | | | | | |
|--------------|-----------|-----------|--------------|-------------|----------|------------|-----------|-------------|-------------------|-------------|
| | 資本金 | 資本剰余金 | | | | 利益 準備金 | 利益剰余金 | | | |
| | | 資本準備金 | その他 資本剰余金 | 資本剰余金 合計 | その他利益剰余金 | | 別途 積立金 | 研究開発 積立金 | 運用責 任準備 積立金 | 繰越利益 剰余金 |
| | | | | | | | | | | |
| 当期首残高 | 2,000,000 | 2,428,478 | - | 2,428,478 | 123,293 | 22,030,000 | 300,000 | 200,000 | 5,347,047 | |
| 当期変動額 | | | | | | | | | | |
| 剰余金の配当 | | | | | | | | | 2,544,000 | |
| 別途積立金の 積立 | | | | | | 2,550,000 | | | 2,550,000 | |
| 当期純利益 | | | | | | | | | 6,443,302 | |

| | | | | | | | | | |
|---------------------|-----------|-----------|------------|------------|---------|------------|---------|---------|-----------|
| 合併による増加 | | | 17,124,479 | 17,124,479 | | | | | |
| 株主資本以外の項目の当期変動額(純額) | | | | | | | | | |
| 当期変動額合計 | - | - | 17,124,479 | 17,124,479 | - | 2,550,000 | - | - | 1,349,302 |
| 当期末残高 | 2,000,000 | 2,428,478 | 17,124,479 | 19,552,957 | 123,293 | 24,580,000 | 300,000 | 200,000 | 6,696,350 |

| | 株主資本 | | 評価・換算差額等 | | 純資産合計 |
|---------------------|------------|------------|---------------|------------|------------|
| | 利益剰余金 | 株主資本合計 | その他 | 評価・換算差額等合計 | |
| | 利益剰余金合計 | | 有価証券 評価差額金 | | |
| 当期首残高 | 28,000,340 | 32,428,818 | 153,956 | 153,956 | 32,582,775 |
| 当期変動額 | | | | | |
| 剰余金の配当 | 2,544,000 | 2,544,000 | | | 2,544,000 |
| 別途積立金の積立 | - | - | | | - |
| 当期純利益 | 6,443,302 | 6,443,302 | | | 6,443,302 |
| 合併による増加 | | 17,124,479 | | | 17,124,479 |
| 株主資本以外の項目の当期変動額(純額) | | - | 363,907 | 363,907 | 363,907 |
| 当期変動額合計 | 3,899,302 | 21,023,782 | 363,907 | 363,907 | 21,387,689 |
| 当期末残高 | 31,899,643 | 53,452,601 | 517,864 | 517,864 | 53,970,465 |

重要な会計方針

| | |
|--------------------------|---|
| 1. 有価証券の評価基準及び評価方法 | (1) 子会社株式及び関連会社株式 ：移動平均法による原価法 (2) その他有価証券 時価のあるもの：決算日の市場価格等に基づく時価法 (評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定) 時価のないもの：移動平均法による原価法 |
| 2. 金銭の信託の評価基準及び評価方法 | 時価法 |
| 3. 固定資産の減価償却の方法 | (1) 有形固定資産 定率法によっております。 ただし、平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備については、定額法を採用しております。 (2) 無形固定資産 定額法によっております。 なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。 |
| 4. 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準 | 外貨建金銭債権債務は、期末日の直物等為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。 |

| | |
|--------------|--|
| 5. 引当金の計上基準 | <p>(1) 賞与引当金は、従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、将来の支給見込額に基づき当事業年度に見合う分を計上しております。</p> <p>(2) 役員賞与引当金は、役員に対して支給する賞与の支出に充てるため、将来の支給見込額に基づき当事業年度に見合う分を計上しております。</p> <p>(3) 退職給付引当金は、従業員の退職給付に備えるため、退職一時金制度及び確定給付型企業年金制度(キャッシュバランス型)について、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。</p> <p>退職給付見込額の期間帰属方法 退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。</p> <p>数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法 過去勤務費用については、その発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数(5年または10年)による定額法により按分した額を費用処理しております。</p> <p>数理計算上の差異については、各事業年度の発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数(5年または10年)による定額法により按分した額を、それぞれ発生の翌事業年度から費用処理しております。</p> <p>なお、一部の確定給付企業年金制度については、退職給付引当金及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。</p> <p>(4) 役員退職慰労引当金は、役員の退職慰労金の支払に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。</p> <p>(5) 時効後支払損引当金は、時効成立のため利益計上した収益分配金及び償還金について、受益者からの今後の支払請求に備えるため、過去の支払実績に基づく将来の支払見込額を計上しております。</p> <p>(6) 本社移転費用引当金は、本社移転に関連して発生する損失に備えるため、発生すると見込まれる額を計上しております。</p> <p>なお、本社移転費用引当金繰入額は、本社移転費用に含めて表示しております。</p> |
| 6. 消費税等の会計処理 | 消費税及び地方消費税の会計処理は税抜き方式によっております。 |

会計方針の変更

| |
|---|
| 第32期(自平成28年4月1日 至平成29年3月31日) |
| <p>法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第32号 平成28年6月17日)を当事業年度に適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。</p> <p>この結果、当事業年度の営業利益、経常利益及び税引前当期純利益はそれぞれ42,532千円増加しております。</p> |

追加情報

| |
|--|
| 第32期(自平成28年4月1日 至平成29年3月31日) |
| <p>1. 「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を当事業年度から適用しております。</p> <p>2. 当社は、平成28年9月7日開催の臨時株主総会において、退任となる取締役及び監査役に対して、在任中の労に報いるため、当社所定の基準による相当額の範囲内で役員退職慰労金を支給することを決議しました。</p> <p>これに伴い、当事業年度末日までに217,608千円を支給し、役員退職慰労引当金全額を取り崩しております。</p> |

注記事項

(貸借対照表関係)

1.有形固定資産の減価償却累計額

(千円)

| | 第31期 (平成28年3月31日現在) | 第32期 (平成29年3月31日現在) |
|-------|------------------------|------------------------|
| 建物 | 767,802 | 53,098 |
| 車両運搬具 | 4,374 | - |
| 器具備品 | 562,853 | 734,064 |

(損益計算書関係)

1. 関係会社項目

各科目に含まれている関係会社に対する営業外収益は、次のとおりであります。

(千円)

| | 第31期 (自平成27年4月1日 至平成28年3月31日) | 第32期 (自平成28年4月1日 至平成29年3月31日) |
|-----|-------------------------------------|-------------------------------------|
| 雑収入 | 4,715 | 8,183 |

2. 固定資産売却益の内訳

(千円)

| | 第31期 (自平成27年4月1日 至平成28年3月31日) | 第32期 (自平成28年4月1日 至平成29年3月31日) |
|-------|-------------------------------------|-------------------------------------|
| 建物 | - | 546 |
| 車両運搬具 | - | 696 |
| 器具備品 | - | 1,104 |

3. 固定資産除却損の内訳

(千円)

| | 第31期 (自平成27年4月1日 至平成28年3月31日) | 第32期 (自平成28年4月1日 至平成29年3月31日) |
|--------|-------------------------------------|-------------------------------------|
| 器具備品 | 182 | 4,727 |
| ソフトウェア | 442 | 2,821 |
| 電話加入権 | - | 16,052 |

4. 固定資産売却損の内訳

(千円)

| | 第31期 (自平成27年4月1日 至平成28年3月31日) | 第32期 (自平成28年4月1日 至平成29年3月31日) |
|------|-------------------------------------|-------------------------------------|
| 建物 | - | 543 |
| 器具備品 | 2,653 | 9,779 |

5. 本社移転費用の内訳

(千円)

| | 第31期 (自平成27年4月1日 至平成28年3月31日) | 第32期 (自平成28年4月1日 至平成29年3月31日) |
|--------------|-------------------------------------|-------------------------------------|
| 本社移転費用引当金繰入額 | - | 942,315 |
| 旧本社不動産賃借料 | - | 418,583 |
| 賃貸借契約解約損 | - | 150,723 |

（株主資本等変動計算書関係）

第31期（自平成27年4月1日 至平成28年3月31日）

1. 発行済株式の種類及び総数に関する事項

| 発行済株式の種類 | 当事業年度期首 株式数（株） | 当事業年度 増加株式数（株） | 当事業年度 減少株式数（株） | 当事業年度末 株式数（株） |
|----------|-------------------|-------------------|-------------------|------------------|
| 普通株式 | 24,000 | - | - | 24,000 |
| 合計 | 24,000 | - | - | 24,000 |

2. 配当に関する事項

（1）配当金支払額

| 決議 | 株式の 種類 | 配当金の総額 （千円） | 1株当たり配当 額（円） | 基準日 | 効力発生日 |
|----------------------|-----------|----------------|-----------------|------------|------------|
| 平成27年6月29日 定時株主総会 | 普通株式 | 2,544,000 | 106,000 | 平成27年3月31日 | 平成27年6月30日 |

（2）基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

平成28年6月29日開催予定の定時株主総会において、以下のとおり決議を予定しております。

| 決議 | 株式の 種類 | 配当の 原資 | 配当金の総額 （千円） | 1株当たり配 当額（円） | 基準日 | 効力発生日 |
|----------------------|-----------|-----------|----------------|-----------------|------------|------------|
| 平成28年6月29日 定時株主総会 | 普通 株式 | 利益剰 余金 | 2,544,000 | 106,000 | 平成28年3月31日 | 平成28年6月30日 |

第32期（自平成28年4月1日 至平成29年3月31日）

1. 発行済株式の種類及び総数に関する事項

| 発行済株式の種類 | 当事業年度期首 株式数（株） | 当事業年度 増加株式数（株） | 当事業年度 減少株式数（株） | 当事業年度末 株式数（株） |
|----------|-------------------|-------------------|-------------------|------------------|
| 普通株式 | 24,000 | 490 | - | 24,490 |
| A種種類株式 | - | 15,510 | - | 15,510 |
| 合計 | 24,000 | 16,000 | - | 40,000 |

（注）普通株式及びA種種類株式の発行済株式総数の増加は、当社統合に伴う新株の発行による増加であります。

2. 配当に関する事項

（1）配当金支払額

| 決議 | 株式の 種類 | 配当金の総額 （千円） | 1株当たり配当 額（円） | 基準日 | 効力発生日 |
|----------------------|-----------|----------------|-----------------|------------|------------|
| 平成28年6月29日 定時株主総会 | 普通株式 | 2,544,000 | 106,000 | 平成28年3月31日 | 平成28年6月30日 |

（2）基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

平成29年6月21日開催予定の定時株主総会において、以下のとおり決議を予定しております。

| 決議 | 株式の 種類 | 配当の 原資 | 配当金の総額 （千円） | 1株当たり配 当額（円） | 基準日 | 効力発生日 |
|----|-----------|-----------|----------------|-----------------|-----|-------|
|----|-----------|-----------|----------------|-----------------|-----|-------|

| | | | | | | |
|----------------------|------------|-----------|-----------|--------|------------|------------|
| 平成29年6月21日 定時株主総会 | 普通 株式 | 利益 剰余金 | 3,200,000 | 80,000 | 平成29年3月31日 | 平成29年6月22日 |
| | A種種類 株式 | | | | | |

（金融商品関係）

1. 金融商品の状況に関する事項

（1）金融商品に対する取組方針

当社は、投資運用業を営んでおります。資金運用については、短期的な預金等に限定しております。

当社が運用を行う投資信託の商品性を適正に維持するため、当該投資信託を特定金外信託を通じて、または直接保有しております。なお、特定金外信託を通じて行っているデリバティブ取引は後述するリスクを低減する目的で行っております。当該デリバティブ取引は、実需の範囲内でのみ利用することとしており、投機的な取引は行わない方針であります。

（2）金融商品の内容及びそのリスク

金銭の信託の主な内容は、当社運用ファンドの安定運用を主な目的として資金投入した投資信託及びデリバティブ取引であります。金銭の信託に含まれる投資信託は為替及び市場価格の変動リスクに晒されておりますが、デリバティブ取引（為替予約取引、株価指数先物取引及び債券先物取引）を利用して一部リスクを低減しております。

営業債権である未収委託者報酬及び未収運用受託報酬は、相手先の信用リスクに晒されております。

有価証券及び投資有価証券は、主にその他有価証券（投資信託）、業務上の関係を有する企業の株式であり、発行体の信用リスクや市場価格の変動リスクに晒されております。

営業債務である未払手数料は、1年以内の支払期日であります。

（3）金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

預金の預入先については、余資運用規程に従い、格付けの高い預入先に限定することにより、リスクの軽減を図っております。

営業債権の相手先の信用リスクに関しては、当社の信用リスク管理の基本方針に従い、取引先ごとの期日管理及び残高管理を行うとともに、主な相手先の信用状況を把握する体制としています。

有価証券及び投資有価証券の発行体の信用リスクに関しては、信用情報や時価の把握を定期的に行うことで管理しています。

市場リスク（為替や金利等の変動リスク）の管理

組織規程における分掌業務の定めに基づき、リスク管理担当所管にて、取引残高、損益及びリスク量等の実績管理を行い、定期的に社内委員会での報告を実施しております。

資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払いを実行できなくなるリスク）の管理

取引実行担当所管からの報告に基づき、資金管理担当所管が資金繰りを確認するとともに、十分な手許流動性を維持することなどにより、流動性リスクを管理しております。

（4）金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません（（注2）参照）。

第31期（平成28年3月31日現在）

| | 貸借対照表計上額 （千円） | 時価 （千円） | 差額 （千円） |
|----------|------------------|------------|------------|
| （1）現金・預金 | 12,951,736 | 12,951,736 | - |
| （2）金銭の信託 | 13,094,914 | 13,094,914 | - |

| | | | |
|----------------------------|------------|------------|---|
| (3) 未収委託者報酬 | 4,460,404 | 4,460,404 | - |
| (4) 未収運用受託報酬 | 1,859,778 | 1,859,778 | - |
| (5) 有価証券及び投資有価証券 其他有価証券 | 381,005 | 381,005 | - |
| 資産計 | 32,747,840 | 32,747,840 | - |
| (1) 未払手数料 | 1,744,274 | 1,744,274 | - |
| 負債計 | 1,744,274 | 1,744,274 | - |

第32期(平成29年3月31日現在)

| | 貸借対照表計上額 (千円) | 時価 (千円) | 差額 (千円) |
|----------------------------|------------------|------------|------------|
| (1) 現金・預金 | 27,972,477 | 27,972,477 | - |
| (2) 金銭の信託 | 12,366,219 | 12,366,219 | - |
| (3) 未収委託者報酬 | 10,164,041 | 10,164,041 | - |
| (4) 未収運用受託報酬 | 7,250,239 | 7,250,239 | - |
| (5) 有価証券及び投資有価証券 其他有価証券 | 3,225,878 | 3,225,878 | - |
| 資産計 | 60,978,855 | 60,978,855 | - |
| (1) 未払手数料 | 4,062,695 | 4,062,695 | - |
| 負債計 | 4,062,695 | 4,062,695 | - |

(注1) 金融商品の時価の算定方法

資 産

(1) 現金・預金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(2) 金銭の信託

有価証券運用を主目的とする単独運用の金銭の信託において信託財産として運用されている有価証券について、投資信託は基準価額によっております。また、デリバティブ取引は取引相手先金融機関より提示された価格によっております。

(3) 未収委託者報酬及び(4) 未収運用受託報酬

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(5) 有価証券及び投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっており、投資信託は基準価額によっております。

負 債

(1) 未払手数料

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(千円)

| 区分 | 第31期 (平成28年3月31日現在) | 第32期 (平成29年3月31日現在) |
|--------|------------------------|------------------------|
| 非上場株式 | 77,696 | 337,468 |
| 関係会社株式 | 3,229,196 | 3,306,296 |

非上場株式は、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積もることなどができず、時価を

把握することが極めて困難と認められるため、「(5) 有価証券及び投資有価証券 その他有価証券」には含めておりません。

関係会社株式は、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積もることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、記載しておりません。

(注3) 金銭債権及び満期のある有価証券の決算日後の償還予定額

第31期(平成28年3月31日現在)

| | 1年以内 (千円) | 1年超5年以内 (千円) | 5年超10年以内 (千円) | 10年超 (千円) |
|-----------------------------------|--------------|-----------------|------------------|--------------|
| (1) 現金・預金 | 12,951,736 | - | - | - |
| (2) 金銭の信託 | 13,094,914 | - | - | - |
| (3) 未収委託者報酬 | 4,460,404 | - | - | - |
| (4) 未収運用受託報酬 | 1,859,778 | - | - | - |
| (5) 有価証券及び投資有価証券 その他有価証券(投資信託) | - | - | - | - |

第32期(平成29年3月31日現在)

| | 1年以内 (千円) | 1年超5年以内 (千円) | 5年超10年以内 (千円) | 10年超 (千円) |
|-----------------------------------|--------------|-----------------|------------------|--------------|
| (1) 現金・預金 | 27,972,477 | - | - | - |
| (2) 金銭の信託 | 12,366,219 | - | - | - |
| (3) 未収委託者報酬 | 10,164,041 | - | - | - |
| (4) 未収運用受託報酬 | 7,250,239 | - | - | - |
| (5) 有価証券及び投資有価証券 その他有価証券(投資信託) | 297,560 | 320,736 | 888,110 | 12,660 |

(有価証券関係)

1. 子会社株式及び関連会社株式

関係会社株式(第31期の貸借対照表計上額3,229,196千円、第32期の貸借対照表計上額3,306,296千円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

2. その他有価証券

第31期(平成28年3月31日現在)

(千円)

| 区分 | 貸借対照表日における 貸借対照表計上額 | 取得原価 | 差額 |
|--------------------------|------------------------|---------|---------|
| 貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの | | | |
| 株式 | 365,683 | 146,101 | 219,581 |
| 投資信託 | 15,322 | 13,000 | 2,322 |
| 小計 | 381,005 | 159,101 | 221,903 |
| 貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの | | | |
| 株式 | - | - | - |
| 投資信託 | - | - | - |
| 小計 | - | - | - |
| 合計 | 381,005 | 159,101 | 221,903 |

(注) 非上場株式(貸借対照表計上額77,696千円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

第32期（平成29年3月31日現在）

（千円）

| 区分 | 貸借対照表日における 貸借対照表計上額 | 取得原価 | 差額 |
|--------------------------|------------------------|-----------|---------|
| 貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの | | | |
| 株式 | 609,710 | 146,101 | 463,608 |
| 投資信託 | 2,384,278 | 2,091,387 | 292,891 |
| 小計 | 2,993,988 | 2,237,489 | 756,499 |
| 貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの | | | |
| 株式 | - | - | - |
| 投資信託 | 231,889 | 241,951 | 10,061 |
| 小計 | 231,889 | 241,951 | 10,061 |
| 合計 | 3,225,878 | 2,479,440 | 746,438 |

（注）非上場株式（貸借対照表計上額337,468千円）については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「其他有価証券」には含めておりません。

3. 当該事業年度中に売却した其他有価証券

第31期（自平成27年4月1日 至平成28年3月31日）

| 区分 | 売却額 （千円） | 売却益の合計額 （千円） | 売却損の合計額 （千円） |
|----|-------------|-----------------|-----------------|
| 株式 | 5,927 | 3,377 | - |

第32期（自平成28年4月1日 至平成29年3月31日）

| 区分 | 売却額 （千円） | 売却益の合計額 （千円） | 売却損の合計額 （千円） |
|------|-------------|-----------------|-----------------|
| 投資信託 | 717,905 | 2 | 79,146 |

（注）投資信託の「売却額」、「売却の合計額」及び「売却損の合計額」は、解約又は償還によるものであります。

4. 減損処理を行った有価証券

第32期において、有価証券について12,085千円（其他有価証券）減損処理を行っております。

なお、減損処理にあたっては、期末における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合には全て減損処理を行い、30～50%程度下落した場合には、回復可能性等を考慮して必要と認められた額について減損処理を行っております。

（退職給付関係）

1. 採用している退職給付制度の概要

当社は、確定給付型の制度として確定給付企業年金制度（積立型制度であります）及び退職一時金制度（非積立型制度であります）を採用しております。また、確定拠出型の制度として確定拠出年金制度を採用しております。

なお、当社が有する確定給付企業年金制度の一部は、簡便法により退職給付引当金及び退職給付費用を計算しております。

2. 確定給付制度（複数事業主制度を含む）

（1）退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

| | 第31期 (自平成27年4月1日 至平成28年3月31日) | 第32期 (自平成28年4月1日 至平成29年3月31日) |
|--------------|-------------------------------------|-------------------------------------|
| 退職給付債務の期首残高 | 973,035 | 1,086,550 |
| 勤務費用 | 134,944 | 189,127 |
| 利息費用 | 8,660 | 10,905 |
| 数理計算上の差異の発生額 | 21,441 | 89,303 |
| 退職給付の支払額 | 51,531 | 144,062 |
| 過去勤務費用の発生額 | - | - |
| 合併による増加 | - | 1,486,547 |
| 退職給付債務の期末残高 | 1,086,550 | 2,718,372 |

(2) 年金資産の期首残高と期末残高の調整表

| | 第31期 (自平成27年4月1日 至平成28年3月31日) | 第32期 (自平成28年4月1日 至平成29年3月31日) |
|--------------|-------------------------------------|-------------------------------------|
| 年金資産の期首残高 | - | - |
| 期待運用収益 | - | 16,033 |
| 数理計算上の差異の発生額 | - | 1,894 |
| 事業主からの拠出額 | - | 37,402 |
| 退職給付の支払額 | - | 28,876 |
| 合併による増加 | - | 1,336,984 |
| 年金資産の期末残高 | - | 1,363,437 |

(3) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と貸借対照表に計上された退職給付引当金及び前払年金費用の調整表

| | 第31期 (平成28年3月31日現在) | 第32期 (平成29年3月31日現在) |
|---------------------|------------------------|------------------------|
| 積立型制度の退職給付債務 | - | 1,275,346 |
| 年金資産 | - | 1,363,437 |
| | - | 88,090 |
| 非積立型制度の退職給付債務 | 1,086,550 | 1,443,026 |
| 未積立退職給付債務 | 1,086,550 | 1,354,935 |
| 未認識数理計算上の差異 | 79,449 | 430,203 |
| 未認識過去勤務費用 | 9,704 | 4,852 |
| 貸借対照表に計上された負債と資産の純額 | 997,396 | 919,879 |
| 退職給付引当金 | 997,396 | 1,245,019 |
| 前払年金費用 | - | 325,140 |
| 貸借対照表に計上された負債と資産の純額 | 997,396 | 919,879 |

(4) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

| | 第31期 (自平成27年4月1日 至平成28年3月31日) | 第32期 (自平成28年4月1日 至平成29年3月31日) |
|--------|-------------------------------------|-------------------------------------|
| 勤務費用 | 134,944 | 189,127 |
| 利息費用 | 8,660 | 10,905 |
| 期待運用収益 | - | 16,033 |

| | | |
|-----------------|---------|---------|
| 数理計算上の差異の費用処理額 | 31,542 | 78,229 |
| 過去勤務費用の費用処理額 | 4,852 | 4,852 |
| その他 | 2,268 | 7,498 |
| 確定給付制度に係る退職給付費用 | 182,267 | 274,580 |

(5) 年金資産に関する事項

年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりであります。

(千円)

| | 第31期 (平成28年3月31日現在) | 第32期 (平成29年3月31日現在) |
|----------|------------------------|------------------------|
| 株式 | - | 31.5% |
| 債券 | - | 29.0% |
| 共同運用資産 | - | 24.1% |
| 生命保険一般勘定 | - | 10.5% |
| 現金及び預金 | - | 4.6% |
| 合計 | - | 100.0% |

長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しております。

(6) 数理計算上の計算基礎に関する事項

主要な数理計算上の計算基礎

| | 第31期 (平成28年3月31日現在) | 第32期 (平成29年3月31日現在) |
|-----------|------------------------|------------------------|
| 割引率 | 0.89% | 0.02% ~ 1.09% |
| 長期期待運用収益率 | - | 2.50% |
| 予想昇給率 | 1.00% ~ 8.73% | 1.00% ~ 8.73% |

3. 簡便法を適用した確定給付制度

(1) 簡便法を適用した制度の、退職給付引当金の期首残高と期末残高の調整表

(千円)

| | 第31期 (自平成27年4月1日 至平成28年3月31日) | 第32期 (自平成28年4月1日 至平成29年3月31日) |
|--------------|-------------------------------------|-------------------------------------|
| 退職給付引当金の期首残高 | - | - |
| 退職給付費用 | - | 22,562 |
| 退職給付の支払額 | - | - |
| 制度への拠出額 | - | 36,177 |
| 合併による増加 | - | 287,313 |
| 退職給付引当金の期末残高 | - | 300,927 |

(2) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と貸借対照表に計上された退職給付引当金及び前払年金費用の調整表

(千円)

| | 第31期 (平成28年3月31日現在) | 第32期 (平成29年3月31日現在) |
|---------------|------------------------|------------------------|
| 積立型制度の退職給付債務 | - | 789,261 |
| 年金資産 | - | 1,150,443 |
| | - | 361,181 |
| 非積立型制度の退職給付債務 | - | 60,254 |

| | | |
|---------------------|---|---------|
| 貸借対照表に計上された負債と資産の純額 | - | 300,927 |
| 退職給付引当金 | - | 60,254 |
| 前払年金費用 | - | 361,181 |
| 貸借対照表に計上された負債と資産の純額 | - | 300,927 |

(3) 退職給付費用

簡便法で計算した退職給付費用 前事業年度 - 千円 当事業年度22,562千円

4. 確定拠出制度

当社の確定拠出制度への要拠出額は、前事業年度44,193千円、当事業年度61,817千円であります。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

| | 第31期 | 第32期 |
|-----------------|----------------|----------------|
| | (平成28年3月31日現在) | (平成29年3月31日現在) |
| | (千円) | (千円) |
| 繰延税金資産 | | |
| 未払事業税 | 79,702 | 124,081 |
| 未払事業所税 | 5,581 | 11,054 |
| 賞与引当金 | 224,898 | 441,996 |
| 未払法定福利費 | 28,395 | 80,909 |
| 資産除去債務 | 13,244 | 86,421 |
| 減価償却超過額(一括償却資産) | 3,389 | 10,666 |
| 減価償却超過額 | 136,503 | 116,920 |
| 繰延資産償却超過額(税法上) | 1,339 | 32,949 |
| 退職給付引当金 | 305,591 | 399,808 |
| 役員退職慰労引当金 | 47,318 | - |
| 時効後支払損引当金 | - | 66,282 |
| ゴルフ会員権評価損 | 3,768 | 14,295 |
| 関係会社株式評価損 | 166,740 | 191,166 |
| 未払給与 | - | 12,344 |
| 本社移転費用引当金 | - | 289,865 |
| その他有価証券評価差額金 | 1,196 | - |
| その他 | 2,500 | 17,552 |
| 繰延税金資産小計 | 1,020,171 | 1,896,316 |
| 評価性引当額 | - | - |
| 繰延税金資産合計 | 1,020,171 | 1,896,316 |
| 繰延税金負債 | | |
| 前払年金費用 | - | 210,151 |
| その他有価証券評価差額金 | - | 114,171 |
| 繰延税金負債合計 | - | 324,323 |
| 繰延税金資産の純額 | 1,020,171 | 1,571,992 |

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主要な項目別の内訳

法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下である

ため、注記を省略しております。

（企業結合等関係）

当社（以下「AMOne」という）は、平成28年7月13日付で締結した、DIAMアセットマネジメント株式会社（以下「DIAM」という）、みずほ投信投資顧問株式会社（以下「MHAM」という）、みずほ信託銀行株式会社（以下「TB」という）及び新光投信株式会社（以下「新光投信」という）（以下総称して「統合4社」という）間の「統合契約書」に基づき、平成28年10月1日付で統合いたしました。

1. 結合当事企業

| 結合当事企業 | DIAM | MHAM | TB | 新光投信 |
|--------|------------------|------------------|------------------|------------------|
| 事業の内容 | 投資運用業務、投資助言・代理業務 | 投資運用業務、投資助言・代理業務 | 信託業務、銀行業務、投資運用業務 | 投資運用業務、投資助言・代理業務 |

2. 企業結合日

平成28年10月1日

3. 企業結合の方法

MHAMを吸収合併存続会社、新光投信を吸収合併消滅会社とする吸収合併、TBを吸収分割会社、吸収合併後のMHAMを吸収分割承継会社とし、同社がTB資産運用部門に係る権利義務を承継する吸収分割、DIAMを吸収合併存続会社、MHAMを吸収合併消滅会社とする吸収合併の順に実施しております。

4. 結合後企業の名称

アセットマネジメントOne株式会社

5. 企業結合の主な目的

当社は、株式会社みずほフィナンシャルグループ（以下「MHFG」という）及び第一生命ホールディングス株式会社（以下「第一生命」という）の資産運用ビジネス強化・発展に対する強力なコミットメントのもと、統合4社が長年にわたって培ってきた資産運用に係わる英知を結集し、MHFGと第一生命両社グループとの連携も最大限活用して、お客さまに最高水準のソリューションを提供するグローバルな運用会社としての飛躍を目指してまいります。

6. 合併比率

「3. 企業結合の方法」の吸収合併における合併比率は以下の通りであります。

| 会社名 | DIAM （存続会社） | MHAM （消滅会社） |
|---------|----------------|----------------|
| 合併比率（*） | 1 | 0.0154 |

（*）普通株式と種類株式を合算して算定しております。

7. 交付した株式数

「3. 企業結合の方法」の吸収合併において、DIAMは、MHAMの親会社であるMHFGに対して、その所有するMHAMの普通株式103万8,408株につき、DIAMの普通株式490株及び議決権を有しないIA種種類株式15,510株を交付しました。

8. 経済的持分比率（議決権比率）

| | |
|---------------------------------|--------|
| MHFGが企業結合直前に所有していた当社に対する経済的持分比率 | 50.00% |
| MHFGが企業結合日に追加取得した当社に対する経済的持分比率 | 20.00% |
| MHFGの追加取得後の当社に対する経済的持分比率 | 70.00% |

なお、MHFGが所有する議決権比率については50.00%から51.00%に異動しております。

9. 取得企業を決定するに至った主な根拠

「3. 企業結合の方法」の吸収合併において、法的に消滅会社となるMHAMの親会社であるMHFGが、結合後

企業の議決権の過半数を保有することになるため、企業結合の会計上はMHAMが取得企業に該当し、DIAMが被取得企業となるものです。

10. 会計処理

「企業結合に関する会計基準」(企業結合会計基準第21号 平成25年9月13日公表分)及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第10号 平成25年9月13日公表分)に基づき、「3. 企業結合の方法」の吸収合併及びの吸収分割については共通支配下の取引として処理し、の吸収合併については逆取得として処理しております。

11. 被取得企業に対してパーチェス法を適用した場合に関する事項

(1) 財務諸表に含まれる被取得企業の業績の期間

平成28年10月1日から平成29年3月31日まで

(2) 被取得企業の取得原価及びその内訳

取得の対価 MHAMの普通株式 144,212,500千円

取得原価 144,212,500千円

(3) 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

a. 発生したのれんのご金額 76,224,837千円

b. 発生原因 被取得企業から受け入れた資産及び引き受けた負債の純額と取得原価との差額によります。

c. のれんの償却方法及び償却期間 20年間の均等償却

(4) 企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳

a. 資産の額 資産合計 40,451,657千円

うち現金・預金 11,605,537千円

うち金銭の信託 11,792,364千円

b. 負債の額 負債合計 9,256,209千円

うち未払手数料及び未払費用 4,539,592千円

(注) 顧客関連資産に配分された金額及びそれに係る繰延税金負債は、資産の額及び負債の額には含まれておりません。

(5) のれん以外の無形固定資産に配分された金額及び主要な種類別の内訳並びに全体及び主要な種類別の加重平均償却期間

a. 無形固定資産に配分された金額 53,030,000千円

b. 主要な種類別の内訳

顧客関連資産 53,030,000千円

c. 全体及び主要な種類別の加重平均償却期間

顧客関連資産 16.9年

12. 被取得企業に対してパーチェス法を適用した場合の差額

(1) 貸借対照表項目

| | |
|------|---------------|
| 流動資産 | - 千円 |
| 固定資産 | 123,277,747千円 |
| 資産合計 | 123,277,747千円 |
| 流動負債 | - 千円 |
| 固定負債 | 14,647,470千円 |
| 負債合計 | 14,647,470千円 |
| 純資産 | 108,630,277千円 |

(注) 固定資産及び資産合計には、のれんのご金額74,319,216千円及び顧客関連資産の金額50,434,199千円が含まれております。

(2) 損益計算書項目

| | |
|------------|-------------|
| 営業収益 | - 千円 |
| 営業利益 | 4,483,082千円 |
| 経常利益 | 4,483,082千円 |
| 税引前当期純利益 | 4,483,082千円 |
| 当期純利益 | 3,693,863千円 |
| 1株当たり当期純利益 | 115,512円36銭 |

(注) 営業利益には、のれんの償却額1,905,620千円及び顧客関連資産の償却額2,595,800千円が含まれております。

(資産除去債務関係)

当社は建物所有者との間で不動産賃貸借契約を締結しており、賃借期間終了時に原状回復する義務を有しているため、契約及び法令上の資産除去債務を認識しております。

なお、当該賃貸借契約に関連する長期差入保証金(敷金)が計上されているため、資産除去債務の負債計上に代えて、当該敷金の回収が最終的に見込めないと認められる金額を合理的に見積り、そのうち当期の負担に属する金額を費用計上し、直接減額しております。

(セグメント情報等)

1. セグメント情報

当社は、資産運用業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

2. 関連情報

第31期(自平成27年4月1日 至平成28年3月31日)及び第32期(自平成28年4月1日 至平成29年3月31日)

(1) サービスごとの情報

サービス区分の決定方法は、損益計算書の営業収益の区分と同一であることから、サービスごとの営業収益の記載を省略しております。

(2) 地域ごとの情報

営業収益

本邦の外部顧客に対する営業収益に区分した金額が損益計算書の営業収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

(3) 主要な顧客ごとの情報

特定の顧客に対する営業収益で損益計算書の営業収益の10%以上を占める相手先がないため、記載を省略しております。

(関連当事者情報)

1. 関連当事者との取引

(1) 親会社及び法人主要株主等

第31期(自平成27年4月1日 至平成28年3月31日)

| 属性 | 会社等の名称 | 住所 | 資本金又は出資金 | 事業の内容又は職業 | 議決権等の所有(被所有)割合 | 関係内容 | | 取引の内容 | 取引金額(千円) | 科目 | 期末残高(千円) |
|----|--------|----|----------|-----------|----------------|--------|--------|-------|----------|----|----------|
| | | | | | | 役員の兼任等 | 事業上の関係 | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | |
|----------|------------|---------|---------|-------|------------|------------------|---------|----------------|---------|----------|---------|
| その他の関係会社 | 第一生命保険株式会社 | 東京都千代田区 | 3,431億円 | 生命保険業 | (被所有)直接50% | 兼務2名, 出向3名, 転籍2名 | 資産運用の助言 | 資産運用の助言の顧問料の受入 | 795,405 | 未収投資助言報酬 | 207,235 |
|----------|------------|---------|---------|-------|------------|------------------|---------|----------------|---------|----------|---------|

第32期(自平成28年4月1日 至平成29年3月31日)

該当はありません。

取引条件及び取引条件の決定方針等

(注1) 資産運用の助言の顧問料は、一般的取引条件を定めた規定に基づく個別契約により決定しております。

(注2) 上記の取引金額には消費税等が含まれておりません。期末残高には、消費税等が含まれております。

(2) 子会社及び関連会社等

第31期(自平成27年4月1日 至平成28年3月31日)

| 属性 | 会社等の名称 | 住所 | 資本金又は出資金 | 事業の内容又は職業 | 議決権等の所有(被所有)割合 | 関係内容 | | 取引の内容 | 取引金額(千円) | 科目 | 期末残高(千円) |
|-----|------------------------|-----------------------|------------|-----------|----------------|----------------|---------------------------|---|----------|----------|----------|
| | | | | | | 役員 の兼 任等 | 事業 上の 関係 | | | | |
| 子会社 | DIAM International Ltd | London United Kingdom | 9,000千 GBP | 資産の運用 | (所有)直接100% | 兼務2名 | 当社 預り 資産 の運 用 | 当社預り 資産の運 用の顧問 料の支払 増資の引 受 | 800,617 | 未払 費用 | 308,974 |
| | DIAM U.S.A., Inc. | New York U.S.A. | 4,000千 USD | 資産の運用 | (所有)直接100% | 兼務2名 | 当社 預り 資産 の運 用 | 当社預り 資産の運 用の顧問 料の支払 | 912,600 | - | - |
| | | | | | | | | | 473,948 | 未払 費用 | 157,130 |

第32期(自平成28年4月1日 至平成29年3月31日)

該当はありません。

取引条件及び取引条件の決定方針等

(注1) 当社預り資産の運用の顧問料は、一般的取引条件を勘案した個別契約により決定しております。

(注2) 上記の取引金額及び期末残高には免税取引のため、消費税等は含まれておりません。

(注3) 増資の引受は、子会社が行った増資を引き受けたものであります。

(3) 兄弟会社等

第31期(自平成27年4月1日 至平成28年3月31日)

| 会社等 | 住所 | 資本金又は出 | 事業の内 | 議決権等 | 関係内容 | 取引の | 取引金額 | 科目 | 期末残高 |
|-----|----|--------|------|------|------|-----|------|----|------|
|-----|----|--------|------|------|------|-----|------|----|------|

| 属性 | の名称 | 住所 | 資金 | 容又は職業 | の所有(被所有)割合 | 役員 の兼任等 | 事業上 の関係 | 内容 | (千円) | | (千円) |
|--------------|------------------------|---------|--------------|---------|------------|------------|--------------------------|------------------------------|------------------|-------------|------------------|
| | | | | | | | | | | | |
| その他の関係会社の子会社 | 株式会社 みずほ銀行 | 東京都千代田区 | 14,040 億円 | 銀行業 | - | 兼務 1名 | 当社設定投資信託の販売 | 投資信託の販売代行手数料 | 3,023,040 | 未払手数料 | 372,837 |
| | みずほ第一フィナンシャルテクノロジー株式会社 | 東京都千代田区 | 2億円 | 金融技術研究等 | - | 兼務 1名 | 当社預り資産の助言 金融技術の開発業務委託 | 当社預り資産の助言の顧問料の支払 業務委託料の支払 | 557,013 8,540 | 未払費用 未払金 | 292,861 7,581 |
| | 資産管理サービス信託銀行株式会社 | 東京都中央区 | 500 億円 | 資産管理等 | - | - | 当社信託財産の運用 | 信託元本の払戻(純額) 信託報酬の支払 | 700,000 8,336 | 金銭の信託 | 13,094,914 |

第32期(自平成28年4月1日 至平成29年3月31日)

| 属性 | 会社等の名称 | 住所 | 資本金 又は 出資金 | 事業の 内容又は 職業 | 議決権 等の所有(被 所有)割合 | 関係内容 | | 取引の 内容 | 取引金額 (千円) | 科目 | 期末残高 (千円) |
|---------|------------------|---------|------------------|-------------------|------------------------|------------|-------------|------------------------|------------------|-------|--------------|
| | | | | | | 役員 の兼任等 | 事業上 の関係 | | | | |
| 親会社の子会社 | 株式会社 みずほ銀行 | 東京都千代田区 | 14,040 億円 | 銀行業 | - | - | 当社設定投資信託の販売 | 投資信託の販売代行手数料 | 4,530,351 | 未払手数料 | 767,732 |
| | 資産管理サービス信託銀行株式会社 | 東京都中央区 | 500 億円 | 資産管理等 | - | - | 当社信託財産の運用 | 信託元本の払戻(純額) 信託報酬の支払 | 100,000 7,080 | 金銭の信託 | 12,366,219 |
| | みずほ証券株式会社 | 東京都千代田区 | 1,251 億円 | 証券業 | - | - | 当社設定投資信託の販売 | 投資信託の販売代行手数料 | 5,061,766 | 未払手数料 | 1,166,212 |

| | | | | | | | | | | |
|-------------|--------|---------|-------|---|---|-----------|-----------|-----------|----------|-----------|
| みずほ信託銀行株式会社 | 東京都中央区 | 2,473億円 | 信託銀行業 | - | - | 投資一任契約の締結 | 運用受託報酬の受取 | 2,520,431 | 未収運用受託報酬 | 2,722,066 |
|-------------|--------|---------|-------|---|---|-----------|-----------|-----------|----------|-----------|

取引条件及び取引条件の決定方針等

- (注1) 投資信託の販売代行手数料は、一般的取引条件を勘案した個別契約により決定しております。
- (注2) 当社預り資産の助言の顧問料は、一般的取引条件を勘案した個別契約により決定しております。
- (注3) 業務委託料は、一般的取引条件を勘案した個別契約により決定しております。
- (注4) 信託報酬は、一般的取引条件を勘案した料率が適用されております。
- (注5) 運用受託報酬は、一般的取引条件を勘案した個別契約により決定しております。
- (注6) 上記の取引金額には消費税等が含まれておりません。期末残高には、消費税等が含まれております。

2. 親会社又は重要な関連会社に関する注記

(1) 親会社情報

株式会社みずほフィナンシャルグループ
(東京証券取引所及びニューヨーク証券取引所に上場)

(2) 重要な関連会社の要約財務諸表

当事業年度において、重要な関連会社は株式会社みずほ証券リサーチ&コンサルティングであり、その要約財務諸表は以下のとおりであります。

(単位：千円)

株式会社みずほ証券リサーチ&コンサルティング

| | 前事業年度 | 当事業年度 |
|----------|-------|-----------|
| 流動資産合計 | - | 7,449,532 |
| 固定資産合計 | - | 124,292 |
| 流動負債合計 | - | 1,665,547 |
| 固定負債合計 | - | 114,110 |
| 純資産合計 | - | 5,794,167 |
| 営業収益 | - | 1,093,658 |
| 税引前当期純利益 | - | 5,546,153 |
| 当期純利益 | - | 3,891,816 |

(1株当たり情報)

| | 第31期 (自平成27年4月1日 至平成28年3月31日) | 第32期 (自平成28年4月1日 至平成29年3月31日) |
|--------------|-------------------------------------|-------------------------------------|
| 1株当たり純資産額 | 1,357,615円66銭 | 1,349,261円64銭 |
| 1株当たり当期純利益金額 | 213,606円51銭 | 201,491円22銭 |

(注1) 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在していないため記載しておりません。

(注2) 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

| | 第31期 (自平成27年4月1日 至平成28年3月31日) | 第32期 (自平成28年4月1日 至平成29年3月31日) |
|---------|-------------------------------------|-------------------------------------|
| 当期純利益金額 | 5,126,556千円 | 6,443,302千円 |

| | | |
|----------------------------|-------------|-------------|
| 普通株主及び普通株主と同等の株主に帰属しない金額 | - | - |
| 普通株式及び普通株式と同等の株式に係る当期純利益金額 | 5,126,556千円 | 6,443,302千円 |
| 普通株式及び普通株式と同等の株式の期中平均株式数 | 24,000株 | 31,978株 |
| （うち普通株式） | （24,000株） | （24,244株） |
| （うちA種種類株式） | （-） | （7,734株） |

（注1）A種種類株式は、剰余金の配当請求権及び残余財産分配請求権について普通株式と同等の権利を有しているため、1株当たり情報の算定上、普通株式に含めて計算しています。

（重要な後発事象）

当社は、株式会社みずほ証券リサーチ&コンサルティング(以下、同社といいます。)の株式のうち当社が保有している全株式について、同社が実施する自己株式取得に伴い、平成29年4月1日付で同社へ譲渡いたしました。

これにより、関係会社株式売却益として1,492百万円の特別利益を計上する予定であります。

（1）中間貸借対照表

（単位：千円）

| | 第33期中間会計期間末 （平成29年9月30日現在） | |
|----------|-------------------------------|------------|
| （資産の部） | | |
| 流動資産 | | |
| 現金・預金 | | 38,311,736 |
| 金銭の信託 | | 12,187,115 |
| 有価証券 | | 10,007 |
| 未収委託者報酬 | | 10,291,857 |
| 未収運用受託報酬 | | 4,862,664 |
| 未収投資助言報酬 | | 324,278 |
| 未収収益 | | 55,950 |
| 前払費用 | | 764,943 |
| 繰延税金資産 | | 727,622 |
| その他 | | 498,289 |
| | 流動資産計 | 68,034,465 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | 1,782,018 |
| 建物 | 1 | 1,200,157 |
| 器具備品 | 1 | 573,952 |
| 建設仮勘定 | | 7,907 |
| 無形固定資産 | | 1,557,565 |
| ソフトウェア | | 1,050,789 |

| | |
|-------------|------------|
| ソフトウェア仮勘定 | 502,759 |
| 電話加入権 | 3,934 |
| 電信電話専用施設利用権 | 81 |
| 投資その他の資産 | 7,742,187 |
| 投資有価証券 | 1,939,084 |
| 関係会社株式 | 3,229,196 |
| 長期差入保証金 | 1,566,055 |
| 繰延税金資産 | 906,695 |
| その他 | 101,155 |
| 固定資産計 | 11,081,771 |
| 資産合計 | 79,116,236 |

(単位：千円)

| | 第33期中間会計期間末 (平成29年9月30日現在) |
|-----------|-------------------------------|
| (負債の部) | |
| 流動負債 | |
| 預り金 | 970,622 |
| 未払金 | 4,511,170 |
| 未払収益分配金 | 1,016 |
| 未払償還金 | 57,332 |
| 未払手数料 | 4,075,374 |
| その他未払金 | 377,447 |
| 未払費用 | 7,061,067 |
| 未払法人税等 | 3,136,528 |
| 未払消費税等 | 1,025,584 |
| 前受収益 | 66,578 |
| 賞与引当金 | 1,376,046 |
| 役員賞与引当金 | 24,993 |
| 本社移転費用引当金 | 347,010 |
| 流動負債計 | 18,519,601 |
| 固定負債 | |
| 退職給付引当金 | 1,423,210 |
| 時効後支払損引当金 | 199,012 |
| 固定負債計 | 1,622,222 |
| 負債合計 | 20,141,823 |
| (純資産の部) | |
| 株主資本 | |
| 資本金 | 2,000,000 |
| 資本剰余金 | 19,552,957 |
| 資本準備金 | 2,428,478 |

| | | |
|--------------|-----------|------------|
| その他資本剰余金 | | 17,124,479 |
| 利益剰余金 | | 36,673,439 |
| 利益準備金 | | 123,293 |
| その他利益剰余金 | | 36,550,146 |
| 別途積立金 | | 24,580,000 |
| 研究開発積立金 | | 300,000 |
| 運用責任準備積立金 | | 200,000 |
| 繰越利益剰余金 | | 11,470,146 |
| | 株主資本計 | 58,226,396 |
| 評価・換算差額等 | | |
| その他有価証券評価差額金 | | 748,016 |
| | 評価・換算差額等計 | 748,016 |
| 純資産合計 | | 58,974,413 |
| 負債・純資産合計 | | 79,116,236 |

(2) 中間損益計算書

(単位：千円)

| | 第33期中間会計期間 | |
|-----------|-------------------------|------------|
| | (自平成29年4月1日至平成29年9月30日) | |
| 営業収益 | | |
| 委託者報酬 | 42,132,996 | |
| 運用受託報酬 | 9,310,831 | |
| 投資助言報酬 | 593,439 | |
| その他営業収益 | 57,716 | |
| | 営業収益計 | 52,094,984 |
| 営業費用 | | |
| 支払手数料 | 18,688,374 | |
| 広告宣伝費 | 177,047 | |
| 公告費 | 860 | |
| 調査費 | 11,809,998 | |
| 調査費 | 5,371,951 | |
| 委託調査費 | 6,438,046 | |
| 委託計算費 | 550,197 | |
| 営業雑経費 | 555,637 | |
| 通信費 | 24,831 | |
| 印刷費 | 438,120 | |
| 協会費 | 27,130 | |
| 諸会費 | 29 | |
| 支払販売手数料 | 65,526 | |
| | 営業費用計 | 31,782,116 |
| 一般管理費 | | |
| 給料 | 5,014,947 | |
| 役員報酬 | 93,260 | |
| 給料・手当 | 4,921,687 | |
| 交際費 | 22,147 | |
| 寄付金 | 4,057 | |
| 旅費交通費 | 181,947 | |
| 租税公課 | 331,327 | |
| 不動産賃借料 | 773,059 | |
| 退職給付費用 | 260,989 | |
| 固定資産減価償却費 | 1 720,970 | |
| 福利厚生費 | 22,315 | |
| 修繕費 | 1,799 | |

| | | |
|------------|-----------|------------|
| 賞与引当金繰入額 | 1,376,046 | |
| 役員賞与引当金繰入額 | 24,993 | |
| 機器リース料 | 104 | |
| 事務委託費 | 1,549,368 | |
| 事務用消耗品費 | 75,575 | |
| 器具備品費 | 3,469 | |
| 諸経費 | 90,183 | |
| 一般管理費計 | | 10,453,305 |
| 営業利益 | | 9,859,563 |

(単位：千円)

| | 第33期中間会計期間 (自平成29年4月1日至平成29年9月30日) | |
|--------------|---------------------------------------|------------|
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 593 | |
| 受取配当金 | 46,072 | |
| 時効成立分配金・償還金 | 85 | |
| 投資信託解約益 | 217,088 | |
| 投資信託償還益 | 93,060 | |
| 時効後支払損引当金戻入額 | 17,443 | |
| 雑収入 | 3,498 | |
| 営業外収益計 | | 377,842 |
| 営業外費用 | | |
| 為替差損 | 8,306 | |
| 投資信託解約損 | 1,365 | |
| 投資信託償還損 | 17,053 | |
| 金銭の信託運用損 | 31,660 | |
| 営業外費用計 | | 58,386 |
| 経常利益 | | 10,179,019 |
| 特別利益 | | |
| 投資有価証券売却益 | 132,762 | |
| 関係会社株式売却益 | 1,492,680 | |
| 本社移転費用引当金戻入額 | 122,238 | |
| その他特別利益 | 0 | |
| 特別利益計 | | 1,747,681 |
| 特別損失 | | |
| 固定資産除却損 | 18,065 | |
| 固定資産売却損 | 134 | |
| 退職給付制度終了損 | 690,899 | |
| その他特別損失 | 50 | |
| 特別損失計 | | 709,149 |
| 税引前中間純利益 | | 11,217,551 |
| 法人税、住民税及び事業税 | | 3,407,636 |
| 法人税等調整額 | | 163,880 |

| | | |
|--------|--|-----------|
| 法人税等合計 | | 3,243,755 |
| 中間純利益 | | 7,973,795 |

(3) 中間株主資本等変動計算書

第33期中間会計期間(自平成29年4月1日至平成29年9月30日)

(単位:千円)

| | 株主資本 | | | | | | | | |
|-----------------------|-----------|-----------|------------|------------|---------|------------|-----------|---------|------------|
| | 資本金 | 資本剰余金 | | | 利益準備金 | 利益剰余金 | | | |
| | | 資本準備金 | その他資本剰余金 | 資本剰余金合計 | | その他利益剰余金 | | | |
| | | | | | 別途積立金 | 研究開発積立金 | 運用責任準備積立金 | 繰越利益剰余金 | |
| 当期首残高 | 2,000,000 | 2,428,478 | 17,124,479 | 19,552,957 | 123,293 | 24,580,000 | 300,000 | 200,000 | 6,696,350 |
| 当中間期変動額 | | | | | | | | | |
| 剰余金の配当 | | | | | | | | | 3,200,000 |
| 中間純利益 | | | | | | | | | 7,973,795 |
| 株主資本以外の項目の当中間期変動額(純額) | | | | | | | | | |
| 当中間期変動額合計 | - | - | - | - | - | - | - | - | 4,773,795 |
| 当中間期末残高 | 2,000,000 | 2,428,478 | 17,124,479 | 19,552,957 | 123,293 | 24,580,000 | 300,000 | 200,000 | 11,470,146 |

| | 株主資本 | | 評価・換算差額等 | | 純資産合計 |
|-----------------------|------------|------------|-----------|------------|------------|
| | 利益剰余金 | 株主資本合計 | その他 | 評価・換算差額等合計 | |
| | 利益剰余金合計 | | 有価証券評価差額金 | | |
| 当期首残高 | 31,899,643 | 53,452,601 | 517,864 | 517,864 | 53,970,465 |
| 当中間期変動額 | | | | | |
| 剰余金の配当 | 3,200,000 | 3,200,000 | | | 3,200,000 |
| 中間純利益 | 7,973,795 | 7,973,795 | | | 7,973,795 |
| 株主資本以外の項目の当中間期変動額(純額) | | | 230,151 | 230,151 | 230,151 |
| 当中間期変動額合計 | 4,773,795 | 4,773,795 | 230,151 | 230,151 | 5,003,947 |
| 当中間期末残高 | 36,673,439 | 58,226,396 | 748,016 | 748,016 | 58,974,413 |

重要な会計方針

| | | | | | | | |
|--------------------------|--|-------|-----|-------|------|-----|-------|
| 1. 有価証券の評価基準及び評価方法 | <p>(1) 子会社株式及び関連会社株式 ：移動平均法による原価法</p> <p>(2) その他有価証券 時価のあるもの：中間決算日の市場価格等に基づく時価法 (評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定) 時価のないもの：移動平均法による原価法</p> | | | | | | |
| 2. 金銭の信託の評価基準及び評価方法 | 時価法 | | | | | | |
| 3. 固定資産の減価償却の方法 | <p>(1) 有形固定資産 定率法によっております。 ただし、平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備については、定額法を採用しております。 なお、主な耐用年数は次のとおりであります。</p> <table border="0" data-bbox="579 663 930 730"> <tr> <td>建物</td> <td>...</td> <td>6～18年</td> </tr> <tr> <td>器具備品</td> <td>...</td> <td>2～20年</td> </tr> </table> <p>(2) 無形固定資産 定額法によっております。 なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。</p> | 建物 | ... | 6～18年 | 器具備品 | ... | 2～20年 |
| 建物 | ... | 6～18年 | | | | | |
| 器具備品 | ... | 2～20年 | | | | | |
| 4. 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準 | 外貨建金銭債権債務は、中間決算日の直物等為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。 | | | | | | |

| | |
|---------------|---|
| 5 . 引当金の計上基準 | <p>(1) 賞与引当金は、従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、将来の支給見込額に基づき当中間会計期間に見合う分を計上しております。</p> <p>(2) 役員賞与引当金は、役員に対して支給する賞与の支出に充てるため、将来の支給見込額に基づき当中間会計期間に見合う分を計上しております。</p> <p>(3) 退職給付引当金は、従業員の退職給付に備えるため、退職一時金制度及び確定給付型企业年金制度(キャッシュバランス型)について、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき当中間会計期間末において発生していると認められる額を計上しております。</p> <p>退職給付見込額の期間帰属方法 退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当中間会計期間末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。</p> <p>数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法 過去勤務費用については、その発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数(5年または10年)による定額法により按分した額を費用処理しております。</p> <p>数理計算上の差異については、各事業年度の発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数(5年または10年)による定額法により按分した額を、それぞれ発生の翌事業年度から費用処理しております。</p> <p>なお、一部の確定給付企業年金制度については、退職給付引当金及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る中間期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。</p> <p>(4) 時効後支払損引当金は、時効成立のため利益計上した収益分配金及び償還金について、受益者からの今後の支払請求に備えるため、過去の支払実績に基づく将来の支払見込額を計上しております。</p> <p>(5) 本社移転費用引当金は、本社移転に関連して発生する損失に備えるため、発生すると見込まれる額を計上しております。</p> |
| 6 . 消費税等の会計処理 | 消費税及び地方消費税の会計処理は税抜き方式によっております。 |

会計上の見積りの変更

| |
|--|
| <p>第33期中間会計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)</p> |
| <p>当社は、当中間会計期間においてシステム統合計画を決定したことに伴い、利用不能となる固定資産について耐用年数を短縮し、将来にわたり変更しております。</p> <p>これにより、従来の方法と比べて、当中間会計期間の減価償却費が286,788千円増加し、営業利益、経常利益及び税引前中間純利益はそれぞれ同額減少しております。</p> |

追加情報

| |
|--|
| <p>第33期中間会計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)</p> |
|--|

当社は、平成29年10月1日付で確定給付企業年金制度を確定拠出年金制度等に移行したことにより、「退職給付制度間の移行等に関する会計処理」（企業会計基準適用指針第1号 平成28年12月16日）及び「退職給付制度間の移行等の会計処理に関する実務上の取扱い」（実務対応報告第2号 平成19年2月7日）を適用し、確定給付年金制度の終了の処理を行いました。

本移行に伴う影響額は、特別損失に退職給付制度終了損として690,899千円を計上しております。

注記事項

（中間貸借対照表関係）

| 項目 | 第33期中間会計期間末 （平成29年9月30日現在） | |
|-------------------|-------------------------------|-----------|
| 1. 有形固定資産の減価償却累計額 | 建物 | 97,109千円 |
| | 器具備品 | 774,035千円 |

（中間損益計算書関係）

| 項目 | 第33期中間会計期間 （自平成29年4月1日 至平成29年9月30日） | |
|------------|--|-----------|
| 1. 減価償却実施額 | 有形固定資産 | 142,272千円 |
| | 無形固定資産 | 578,697千円 |

（中間株主資本等変動計算書関係）

第33期中間会計期間（自平成29年4月1日 至平成29年9月30日）

1. 発行済株式の種類及び総数に関する事項

| 発行済株式の種類 | 当事業年度期首 株式数（株） | 当中間会計期間 増加株式数（株） | 当中間会計期間 減少株式数（株） | 当中間会計期間末 株式数（株） |
|----------|-------------------|---------------------|---------------------|--------------------|
| 普通株式 | 24,490 | - | - | 24,490 |
| A種種類株式 | 15,510 | - | - | 15,510 |
| 合計 | 40,000 | - | - | 40,000 |

2. 配当に関する事項

（1）配当金支払額

| 決議 | 株式の 種類 | 配当金の 総額 （千円） | 1株当たり 配当額 （円） | 基準日 | 効力発生日 |
|----------------------|-----------|--------------------|---------------------|------------|------------|
| 平成29年6月21日 定時株主総会 | 普通株式 | 3,200,000 | 80,000 | 平成29年3月31日 | 平成29年6月22日 |
| | A種種類株式 | | | | |

（2）基準日が当中間会計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当中間会計期間後となるもの該当事項はありません。

（金融商品関係）

第33期中間会計期間末（平成29年9月30日現在）

金融商品の時価等に関する事項

平成29年9月30日における中間貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません（（注2）参照）。

| | 中間貸借対照表計上額 (千円) | 時価 (千円) | 差額 (千円) |
|----------------------------|--------------------|------------|------------|
| (1) 現金・預金 | 38,311,736 | 38,311,736 | - |
| (2) 金銭の信託 | 12,187,115 | 12,187,115 | - |
| (3) 未収委託者報酬 | 10,291,857 | 10,291,857 | - |
| (4) 未収運用受託報酬 | 4,862,664 | 4,862,664 | - |
| (5) 有価証券及び投資有価証券 其他有価証券 | 1,641,123 | 1,641,123 | - |
| 資産計 | 67,294,496 | 67,294,496 | - |
| (1) 未払手数料 | 4,075,374 | 4,075,374 | - |
| 負債計 | 4,075,374 | 4,075,374 | - |

（注1）金融商品の時価の算定方法

資 産

（1）現金・預金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

（2）金銭の信託

有価証券運用を主目的とする単独運用の金銭の信託において信託財産として運用されている有価証券について、投資信託は基準価額によっております。また、デリバティブ取引は取引相手先金融機関より提示された価格によっております。

（3）未収委託者報酬及び（4）未収運用受託報酬

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

（5）有価証券及び投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっており、投資信託は基準価額によっております。

負 債

（1）未払手数料

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

（注2）時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

| 区分 | 中間貸借対照表計上額 (千円) |
|--------|--------------------|
| 非上場株式 | 307,968 |
| 関係会社株式 | 3,229,196 |

非上場株式は、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積もることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(5) 有価証券及び投資有価証券 其他有価証券」には含めておりません。

関係会社株式は、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積もることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、記載しておりません。

(有価証券関係)

| 第33期中間会計期間末 (平成29年9月30日現在) | | | |
|---|--------------------|--------------|------------|
| 1. 子会社株式 関係会社株式(中間貸借対照表計上額3,229,196千円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。 | | | |
| 2. その他有価証券 | | | |
| 区 分 | 中間貸借対照表 計上額(千円) | 取得原価 (千円) | 差額 (千円) |
| 中間貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの | | | |
| 株式 | 1,189,247 | 146,101 | 1,043,145 |
| 投資信託 | 423,152 | 385,910 | 37,242 |
| 小計 | 1,612,400 | 532,011 | 1,080,388 |
| 中間貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの | | | |
| 株式 | - | - | - |
| 投資信託 | 28,723 | 30,967 | 2,244 |
| 小計 | 28,723 | 30,967 | 2,244 |
| 合計 | 1,641,123 | 562,979 | 1,078,144 |
| (注) 非上場株式(中間貸借対照表計上額307,968千円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。 | | | |

(企業結合等関係)

当社(以下「AMOne」という)は、平成28年7月13日付で締結した、DIAMアセットマネジメント株式会社(以下「DIAM」という)、みずほ投信投資顧問株式会社(以下「MHAM」という)、みずほ信託銀行株式会社(以下「TB」という)及び新光投信株式会社(以下「新光投信」という)(以下総称して「統合4社」という)間の「統合契約書」に基づき、平成28年10月1日付で統合いたしました。

1. 結合当事企業

| 結合当事企業 | DIAM | MHAM | TB | 新光投信 |
|--------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|
| 事業の内容 | 投資運用業務、投資 助言・代理業務 | 投資運用業務、投資 助言・代理業務 | 信託業務、銀行業 務、投資運用業務 | 投資運用業務、投 資助言・代理業務 |

2. 企業結合日

平成28年10月1日

3. 企業結合の方法

MHAMを吸収合併存続会社、新光投信を吸収合併消滅会社とする吸収合併、TBを吸収分割会社、吸収合併後のMHAMを吸収分割承継会社とし、同社がTB資産運用部門に係る権利義務を承継する吸収分割、DIAMを吸収合併存続会社、MHAMを吸収合併消滅会社とする吸収合併の順に実施しております。

4. 結合後企業の名称

アセットマネジメントOne株式会社

5. 企業結合の主な目的

当社は、株式会社みずほフィナンシャルグループ（以下「MHFG」という）及び第一生命ホールディングス株式会社（以下「第一生命」という）の資産運用ビジネス強化・発展に対する強力なコミットメントのもと、統合4社が長年にわたって培ってきた資産運用に係わる英知を結集し、MHFGと第一生命両社グループとの連携も最大限活用して、お客さまに最高水準のソリューションを提供するグローバルな運用会社としての飛躍を目指してまいります。

6. 合併比率

「3. 企業結合の方法」の吸収合併における合併比率は以下の通りであります。

| 会社名 | DIAM (存続会社) | MHAM (消滅会社) |
|---------|----------------|----------------|
| 合併比率(*) | 1 | 0.0154 |

(*) 普通株式と種類株式を合算して算定しております。

7. 交付した株式数

「3. 企業結合の方法」の吸収合併において、DIAMは、MHAMの親会社であるMHFGに対して、その所有するMHAMの普通株式103万8,408株につき、DIAMの普通株式490株及び議決権を有しないIA種類株式15,510株を交付しました。

8. 経済的持分比率（議決権比率）

| | |
|---------------------------------|--------|
| MHFGが企業結合直前に所有していた当社に対する経済的持分比率 | 50.00% |
| MHFGが企業結合日に追加取得した当社に対する経済的持分比率 | 20.00% |
| MHFGの追加取得後の当社に対する経済的持分比率 | 70.00% |

なお、MHFGが所有する議決権比率については50.00%から51.00%に異動しております。

9. 取得企業を決定するに至った主な根拠

「3. 企業結合の方法」の吸収合併において、法的に消滅会社となるMHAMの親会社であるMHFGが、結合後企業の議決権の過半数を保有することになるため、企業結合の会計上はMHAMが取得企業に該当し、DIAMが取得企業となるものです。

10. 会計処理

「企業結合に関する会計基準」（企業結合会計基準第21号 平成25年9月13日公表分）及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第10号 平成25年9月13日公表分）に基づき、「3. 企業結合の方法」の吸収合併及びの吸収分割については共通支配下の取引として処理し、の吸収合併については逆取得として処理しております。

11. 被取得企業に対してパーチェス法を適用した場合に関する事項

(1) 中間財務諸表に含まれる被取得企業の業績の期間

平成29年4月1日から平成29年9月30日まで

(2) 被取得企業の取得原価及びその内訳

取得の対価 MHAMの普通株式 144,212,500千円

取得原価 144,212,500千円

(3) 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

a. 発生したのれん金額 76,224,837千円

b. 発生原因 被取得企業から受け入れた資産及び引き受けた負債の純額と取得原価との差額によります。

c. のれんの償却方法及び償却期間 20年間の均等償却

(4) 企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳

| | | |
|---------|---------------|--------------|
| a. 資産の額 | 資産合計 | 40,451,657千円 |
| | うち現金・預金 | 11,605,537千円 |
| | うち金銭の信託 | 11,792,364千円 |
| b. 負債の額 | 負債合計 | 9,256,209千円 |
| | うち未払手数料及び未払費用 | 4,539,592千円 |

（注）顧客関連資産に配分された金額及びそれに係る繰延税金負債は、資産の額及び負債の額には含まれておりません。

（5）のれん以外の無形固定資産に配分された金額及び主要な種類別の内訳並びに全体及び主要な種類別の加重平均償却期間

| | |
|------------------------|--------------|
| a. 無形固定資産に配分された金額 | 53,030,000千円 |
| b. 主要な種類別の内訳 | |
| 顧客関連資産 | 53,030,000千円 |
| c. 全体及び主要な種類別の加重平均償却期間 | |
| 顧客関連資産 | 16.9年 |

12. 被取得企業に対してパーチェス法を適用した場合の差額

（1）貸借対照表項目

| | |
|------|---------------|
| 流動資産 | - 千円 |
| 固定資産 | 118,742,638千円 |
| 資産合計 | 118,742,638千円 |
| 流動負債 | - 千円 |
| 固定負債 | 13,822,169千円 |
| 負債合計 | 13,822,169千円 |
| 純資産 | 104,920,468千円 |

（注）固定資産及び資産合計には、のれんの金額72,413,595千円及び顧客関連資産の金額47,817,519千円が含まれております。

（2）損益計算書項目

| | |
|------------|-------------|
| 営業収益 | - 千円 |
| 営業利益 | 4,506,064千円 |
| 経常利益 | 4,506,064千円 |
| 税引前中間純利益 | 4,506,064千円 |
| 中間純利益 | 3,709,808千円 |
| 1株当たり中間純利益 | 92,745円22銭 |

（注）営業利益には、のれんの償却額1,905,620千円及び顧客関連資産の償却額2,616,680千円が含まれております。

（資産除去債務関係）

当社は建物所有者との間で不動産賃貸借契約を締結しており、賃借期間終了時に原状回復する義務を有しているため、契約及び法令上の資産除去債務を認識しております。

なお、当該賃貸借契約に関連する長期差入保証金（敷金）が計上されているため、資産除去債務の負債計上に代えて、当該敷金の回収が最終的に見込めないと認められる金額を合理的に見積り、そのうち当期の負担に属する金額を費用計上し、直接減額しております。

（セグメント情報等）

第33期中間会計期間（自平成29年4月1日 至平成29年9月30日）

1. セグメント情報

当社は、資産運用業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

2. 関連情報

(1) サービスごとの情報

サービス区分の決定方法は、損益計算書の営業収益の区分と同一であることから、サービスごとの営業収益の記載を省略しております。

(2) 地域ごとの情報

営業収益

本邦の外部顧客に対する営業収益に区分した金額が損益計算書の営業収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

(3) 主要な顧客ごとの情報

特定の顧客に対する営業収益で損益計算書の営業収益の10%以上を占める相手先がないため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

| 第33期中間会計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日) | |
|--|---------------|
| 1株当たり純資産額 | 1,474,360円32銭 |
| 1株当たり中間純利益金額 | 199,344円89銭 |

(注) 潜在株式調整後1株当たり中間純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

1株当たり中間純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

| 第33期中間会計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日) | |
|--|-------------|
| 中間純利益金額 | 7,973,795千円 |
| 普通株主及び普通株主と同等の株主に帰属しない金額 | - |
| 普通株式及び普通株式と同等の株式に係る中間純利益金額 | 7,973,795千円 |
| 普通株式及び普通株式と同等の株式の期中平均株式数 | 40,000株 |
| (うち普通株式) | (24,490株) |
| (うちA種種類株式) | (15,510株) |

(注) A種種類株式は、剰余金の配当請求権及び残余財産分配請求権について普通株式と同等の権利を有しているため、1株当たり情報の算定上、普通株式に含めて計算しています。

4 【利害関係人との取引制限】

委託会社は、「金融商品取引法」の定めるところにより、利害関係人との取引について、次に掲げる行為が禁止されています。

(1) 自己またはその取締役もしくは執行役との間における取引を行うことを内容とした運用を行うこと(投資者の保護に欠け、もしくは取引の公正を害し、または金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。)。

- (2) 運用財産相互間において取引を行うことを内容とした運用を行うこと(投資者の保護に欠け、もしくは取引の公正を害し、または金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。)
- (3) 通常の取引の条件と異なる条件であって取引の公正を害するおそれのある条件で、委託会社の親法人等(委託会社の総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下(4)(5)において同じ。)または子法人等(委託会社が総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下同じ。)と有価証券の売買その他の取引または店頭デリバティブ取引を行うこと。
- (4) 委託会社の親法人等または子法人等の利益を図るため、その行う投資運用業に関して運用の方針、運用財産の額もしくは市場の状況に照らして不必要な取引を行うことを内容とした運用を行うこと。
- (5) 上記(3)(4)に掲げるもののほか、委託会社の親法人等または子法人等が関与する行為であって、投資者の保護に欠け、もしくは取引の公正を害し、または金融商品取引業の信用を失墜させるおそれのあるものとして内閣府令で定める行為。

5【その他】

- (1) 定款の変更、事業譲渡又は事業譲受、出資の状況その他の重要事項
平成30年3月23日に臨時株主総会が開催され、定款の変更を行うことについて決議されました。
- (2) 訴訟事件その他の重要事項
委託会社およびファンドに重要な影響を与えた事実、または与えると予想される事実はありません。

第2【その他の関係法人の概況】

1【名称、資本金の額及び事業の内容】

| 名称 | 資本金の額 (百万円) | 事業の内容 | |
|---------------|-------------------------|---------|--|
| (1)受託会社 | 三井住友信託銀行株式会社 | 342,037 | 銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律(兼営法)に基づき信託業務を行っています。 |
| (2)販売会社 | みずほ証券株式会社 | 125,167 | 「金融商品取引法」に定める第一種金融商品取引業を営んでいます。 |
| | S M B C日興証券株式会社 | 10,000 | |
| | 藍澤證券株式会社 | 8,000 | |
| | あかつき証券株式会社 | 3,067 | |
| | いちよし証券株式会社 ¹ | 14,577 | |
| | 岩井コスモ証券株式会社 | 13,500 | |
| | 白木証券株式会社 | 100 | |
| | 宇都宮証券株式会社 ¹ | 301 | |
| | 株式会社S B I証券 | 48,323 | |
| | 岡三オンライン証券株式会社 | 1,000 | |
| | 岡安証券株式会社 | 650 | |
| | おきぎん証券株式会社 | 1,128 | |
| カブドットコム証券株式会社 | 7,196 | | |

| | |
|------------------------------------|--------|
| 木村証券株式会社 | 500 |
| 寿証券株式会社 | 305 |
| 篠山証券株式会社 | 100 |
| 株式会社証券ジャパン | 3,000 |
| 静岡東海証券株式会社 | 600 |
| 上光証券株式会社 | 500 |
| 大熊本証券株式会社 | 343 |
| 大万証券株式会社 | 300 |
| 高木証券株式会社 | 11,069 |
| 田原証券株式会社 | 100 |
| 東海東京証券株式会社 | 6,000 |
| 長野證券株式会社 | 600 |
| 中原証券株式会社 | 506 |
| 西日本シティIT証券株式会社 | 3,000 |
| 日産証券株式会社 | 1,500 |
| 日本アジア証券株式会社 | 4,400 |
| 二浪証券株式会社 | 100 |
| フィデリティ証券株式会社 | 8,157 |
| FFG証券株式会社 | 3,000 |
| 松井証券株式会社 | 11,944 |
| マネックス証券株式会社 | 12,200 |
| 丸国証券株式会社 | 601 |
| 三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社 ¹ | 40,500 |
| むさし証券株式会社 | 5,000 |
| 楽天証券株式会社 | 7,495 |
| リテラ・クリア証券株式会社 | 3,794 |
| 株式会社阿波銀行 | 23,452 |
| 株式会社池田泉州銀行 | 61,385 |
| 株式会社愛媛銀行 ² | 20,798 |
| 株式会社京都銀行 | 42,103 |
| 株式会社京葉銀行 | 49,759 |
| 株式会社高知銀行 | 19,544 |
| 株式会社十六銀行 | 36,839 |
| 株式会社大東銀行 | 14,743 |
| 株式会社中国銀行 | 15,149 |
| 株式会社トマト銀行 | 17,810 |
| 株式会社西日本シティ銀行 | 85,745 |
| 株式会社北越銀行 | 24,538 |

銀行法に基づき監督官庁の免許を受け、銀行業を営んでいません。

（注）資本金の額は、平成29年3月末日現在

1 いちよし証券株式会社、宇都宮証券株式会社および三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社は新規の受益権の取得のお申込みの取扱いには行いません。なお、アセットマネジメントOne株式会社においても、新規の受益権の取得のお申込みの取扱いには行いません。

2 株式会社愛媛銀行は平成30年5月25日より販売を開始する予定です。

2【関係業務の概要】

(1) 受託会社

当ファンドの受託会社として、信託財産を保管・管理し、受益権設定にかかる振替機関への通知等を行います。

(2) 販売会社

当ファンドの販売会社として、受益権の募集の取扱い、販売、一部解約の実行の請求の受付けならびに収益分配金、償還金および一部解約金の支払等を行います。

3【資本関係】

該当事項はありません。

(持株比率5%以上を記載します。)

<参考：再信託受託会社の概要>

名称：日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社

業務の概要：銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営に関する法律に基づき信託業務を営んでいます。

再信託の目的：原信託契約にかかる信託事務の一部(信託財産の管理)を原信託受託会社から再信託受託会社(日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社)へ委託するため、原信託財産の全てを再信託受託会社へ移管することを目的とします。

第3【参考情報】

ファンドについては、当計算期間において以下の書類が提出されております。

| 提出年月日 | 提出書類 |
|-------------|---------|
| 平成29年 5月24日 | 有価証券届出書 |
| 平成29年 5月24日 | 有価証券報告書 |
| 平成29年11月24日 | 有価証券届出書 |
| 平成29年11月24日 | 半期報告書 |

独立監査人の監査報告書

平成29年6月7日

アセットマネジメントOne株式会社
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

| | | | |
|--------------------|-------|------|---|
| 指定有限責任社員 業務執行社員 | 公認会計士 | 湯原 尚 | 印 |
| 指定有限責任社員 業務執行社員 | 公認会計士 | 山野 浩 | 印 |

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられているアセットマネジメントOne株式会社の平成28年4月1日から平成29年3月31日までの第32期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、アセットマネジメントOne株式会社の平成29年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

（注1）上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

（注2）XBRLデータは監査の対象には含まれておりません。

独立監査人の監査報告書

平成30年4月6日

アセットマネジメントOne株式会社

取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員

業務執行社員

公認会計士

山野 浩 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているMHAM新興成長株オープンの平成29年2月25日から平成30年2月26日までの計算期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、MHAM新興成長株オープンの平成30年2月26日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する計算期間の損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

アセットマネジメントOne株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注)1. 上記は、当社が監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の中間監査報告書

平成29年11月24日

アセットマネジメントOne株式会社
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

| | | | |
|--------------------|-------|----|-----|
| 指定有限責任社員 業務執行社員 | 公認会計士 | 湯原 | 尚 印 |
| 指定有限責任社員 業務執行社員 | 公認会計士 | 山野 | 浩 印 |

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられているアセットマネジメントOne株式会社の平成29年4月1日から平成30年3月31日までの第33期事業年度の中間会計期間（平成29年4月1日から平成29年9月30日まで）に係る中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益計算書、中間株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について中間監査を行った。

中間財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した中間監査に基づいて、独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準は、当監査法人に中間財務諸表には全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得るために、中間監査に係る監査計画を策定し、これに基づき中間監査を実施することを求めている。

中間監査においては、中間財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するために年度監査と比べて監査手続の一部を省略した中間監査手続が実施される。中間監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要に応じて追加の監査手続が選択及び適用される。中間監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。また、中間監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め中間財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

中間監査意見

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、アセットマネジメントOne株式会社の平成29年9月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する中間会計期間（平成29年4月1日から平成29年9月30日まで）の経営成績に関する有用な情報を表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注1) 上記は中間監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

(注2) X B R L データは中間監査の対象には含まれておりません。